

令和３年度 文化庁委託事業
伝統文化親子教室
子供たちの意識・行動に関する調査
報告書

目 次

1. 調査の概要

(1) 調査の目的	1
(2) 調査対象者	1
(3) 調査の方法	2
(4) 調査項目	2
(5) 調査の期間	2
(6) 調査票回収状況	2
(7) 調査結果の集計	3
(8) 調査対象者のプロフィール	3
1) 子供のプロフィール	3
①子供の学年と性別	
②参加している「教室」の分野	
③参加前の経験の有無	
④参加年数（今年で何年目か）	
2) 保護者のプロフィール	7
①子供との続柄	
②子供の学年と性別	
③子供が参加している「教室」の分野	
④子供の参加年数	
⑤保護者の年齢	
3) 指導者のプロフィール	11
①指導者の年齢と性別	
②「教室」の分野	
③指導者の「教室」での役割	
④「教室」での指導経験年数	
4) 指導者＜放課後子供教室＞のプロフィール	15
①指導者＜放課後子供教室＞の年齢と性別	
②＜放課後子供教室＞の「教室」の分野	
③指導者＜放課後子供教室＞の「教室」での役割	
④＜放課後子供教室＞の「教室」での指導経験年数	

2. 参加についての全体的な評価

(1) 参加についての総合評価	19
1) 子供からの評価	
2) 保護者からの評価	
(2) 習っていることの意義	22
1) 子供の意義	
2) 保護者の意義	

(3) 継続への意欲・意向	24
1) 習い続けていくことについての子供の意欲	
2) 習い続けさせたいかについての保護者の意向	
3. 参加の動機・理由ときっかけ	
(1) 参加した子供の立場から	27
1) 参加のきっかけ	
2) 参加の動機	
(2) 参加させた保護者の立場から	32
1) 「教室」についての情報源	
2) 子供を参加させた理由	
4. 参加による子供の変化	
(1) 子供自身の認識	35
(2) 保護者の認識	39
(3) 指導者の認識	44
(4) 指導者＜放課後子供教室＞の認識	49
(5) 子供自身からみた変化と保護者、指導者からみた変化	53
5. 「伝統文化親子教室」事業の意義	
(1) 保護者の立場から	54
1) 「伝統文化」についての保護者の考え	
2) 保護者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義	
(2) 指導者の立場から	57
1) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割	
2) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義	
(3) 指導者＜放課後子供教室＞の立場から	60
1) 指導者からみた＜放課後子供教室＞の社会における役割	
2) 指導者からみた＜放課後子供教室＞の意義	
3) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と＜放課後子供教室＞の連携	
(4) 「伝統文化親子教室」事業の伝統文化・生活文化の継承への効果	65
6. 付録（調査票及び単純集計結果）	
①子供調査	68
②保護者調査	76
③指導者調査	84
④指導者調査＜放課後子供教室＞	92
7. 資料	
■ 調査実施計画	100

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

「伝統文化親子教室」事業は、「伝統文化・生活文化に関する活動を計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供する取組に対して支援を行うことにより、伝統文化・生活文化の継承・発展と、子供たちの豊かな人間性のかんよう（涵養）に資する」（令和3年度募集案内）ことを目的としている。

本調査は、この事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、この事業の実施効果を把握しようとするものである。

(2) 調査対象者

本調査は、「伝統文化親子教室」（以下、「教室」あるいは「親子教室」という）に通っている子供を対象とする調査（子供調査）、その保護者を対象とする調査（保護者調査）、「教室」の指導者を対象とする調査（指導者調査）からなっている。なお、「教室」の対象学年は、原則、小学校1年生から中学校3年生としているが、本調査における調査の対象は、小学校4年生以上に限っている。

また、「放課後子供教室」と連携した取組を実施している場合は、その取組の指導者を対象とする調査（指導者調査＜放課後子供教室＞）を同様に行った。

調査対象者の抽出は、「教室」の実施団体を基礎に行った。

基礎となる実施団体の抽出法は、以下の通りである。

- 【抽出の母体】 令和3年度親子教室実施団体のうち、事業の完了日が令和4年1月31日以降であり、事業の実施回数は、子供たちの変化が分かるように（複数分野にまたがる場合は合計）5回以上、かつ小学4年生～中学3年生が参加する実施団体。
- 【抽出の方法】 無作為抽出を基本とし、都道府県及び活動分野等が偏らないよう調整。
また、「放課後子供教室」にも参加する実施団体を考慮。
- 【抽出団体数】 500団体。

調査対象者は、上記の方法で抽出した実施団体から、更に抽出した。抽出法は、以下の通りである。

- 【子供調査】 原則、参加者数が10名以上の規模で「教室」を行うようにしているため、当該「教室」に参加している子供（小学4年生～中学3年生）から1つの「教室」につき10名までを、当該「教室」に一任して抽出。
ただし、抽出にあたっては、特定の学年や性別に集中しないように依頼。
- 【保護者調査】 子供調査の対象となった子供の保護者（1団体当たり10名）を調査対象者として指定。
- 【指導者調査】 当該「教室」の指導者から2名までを、当該「教室」に一任して抽出。
- 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
当該「教室」の指導者から2名までを、当該「教室」に一任して抽出。

(3) 調査の方法

調査の実施にあたっては、伝統文化親子教室事業事務局（以下、「事務局」という）から調査対象団体の代表者に調査票を送付し、3種類（「放課後子供教室」と連携した取組を実施している場合は4種類）の調査票の配布と回収を依頼した。【子供調査】に関しては、「教室」開催時に調査対象の子供に調査票を配布し、記入後に回収してもらった。【保護者調査】に関しては、子供を通して保護者に記入を依頼し、回収してもらった。【指導者調査】及び【指導者調査＜放課後子供教室＞】に関しては、各「教室」において指導者に記入してもらった。調査対象団体には、その後、3種類または4種類の調査票を取りまとめ、「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」返却係である株式会社 KNT ビジネスクリエイトに送付してもらった。

(4) 調査項目

【子供調査】においては、「教室」への参加の実態、参加の動機、「教室」に参加したことによる変化の認識、参加したことについての評価に関わる事柄など、全 16 問の質問を行っている。【保護者調査】では、子供を「教室」に参加させた理由や「教室」についての情報源、「教室」への参加によって子供がどのように変化したかについての認識、子供を「教室」に参加させたことについての評価、「教室」の事業についての評価など、全部で 17 問の質問を行っている。【指導者調査】では、「教室」の所在地域の特性や開催場所・施設、参加している子供の人数や指導者の人数など、「教室」の実態に関わる質問、参加したことによる子供の変化に関わる質問、「教室」の役割やこの事業の意義などに関する質問など、全部で 20 問の質問を行っている。

【指導者調査＜放課後子供教室＞】では、【指導者調査】とほぼ同内容の質問に加え、「伝統文化親子教室」事業が連携した結果の効果に関する質問など、全部で 20 問の質問を行っている。

なお、質問項目の全体については「資料」として付した「調査実施計画」を、質問の実際については「付録」の「調査票及び単純集計結果」を参照願いたい。

(5) 調査の期間

調査の期間は、以下の通り。

令和 3 年 10 月 29 日～令和 3 年 12 月 10 日

(6) 調査票回収状況

各調査の調査票配布状況は、以下の通り。

- 【子供調査】のアンケート調査表の配布数は 5,000 枚（セット）
- 【保護者調査】のアンケート調査表の配布数は 5,000 枚（セット）
- 【指導者調査】のアンケート調査表の配布数は 1,000 枚（セット）
- 【指導者調査＜放課後子供教室＞】のアンケート調査表の配布数は 42 枚（セット）

以上の配布を行った。

(7) 調査結果の集計

調査結果の集計は、「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」返却係である株式会社 KNT ビジネスクリエイトが行った。集計は、単純集計及び基本となるクロス集計に加えて、適宜、分析に必要な集計を行った。基本となるクロス集計において表側（左側の項目）としたのは、以下の変数である。

- 【子供調査】 学年、性別、参加している「教室」の分野
- 【保護者調査】 子供の学年、子供の性別、子供が参加している「教室」の分野
- 【指導者調査】 「教室」の分野、指導者の年齢、指導者の性別
- 【指導者調査＜放課後子供教室＞】 「教室」の分野、指導者の年齢、指導者の性別

なお、本「報告書」では、単純集計の結果を中心に、必要に応じてクロス集計等の結果に言及する形で結果を報告する。単純集計の結果は「付録」に付した。クロス集計等の結果については、紙幅の関係で掲載を省略した。

本「報告書」に掲載の図表において、比率(%)の合計が、99.9%であったり、100.1%であったり、100.0%とされないケースが存在する。これは比率の計算において小数第2位を四捨五入しているためである。

(8) 調査対象者のプロフィール

調査対象者のプロフィールは、次のようになっている。

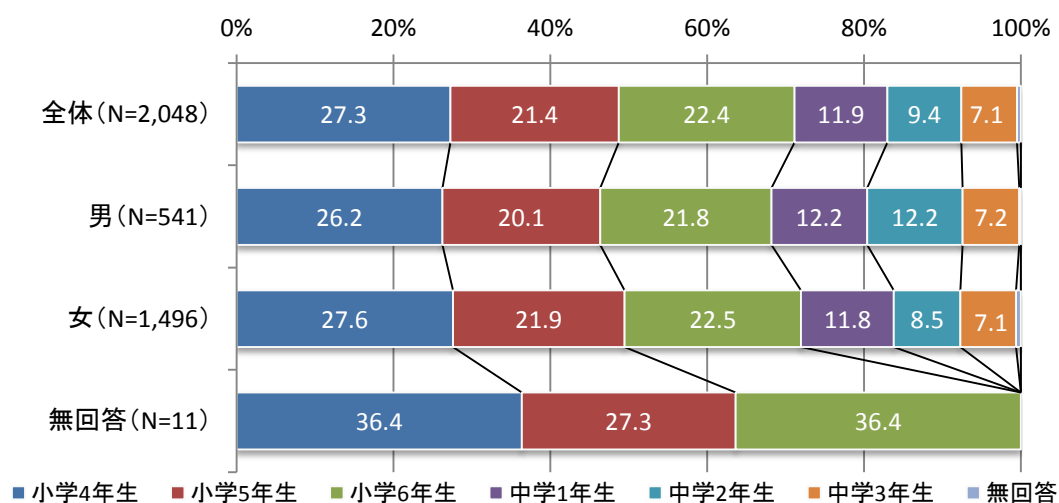
1) 子供のプロフィール

① 子供の学年と性別

調査対象の子供のうち、7割が小学生、3割が中学生である。子供の学年別の割合は、小学生では各学年2割を超えているが、中学生では中学1年生が1割程度、中学2年生・3年生は1割以下になっている。

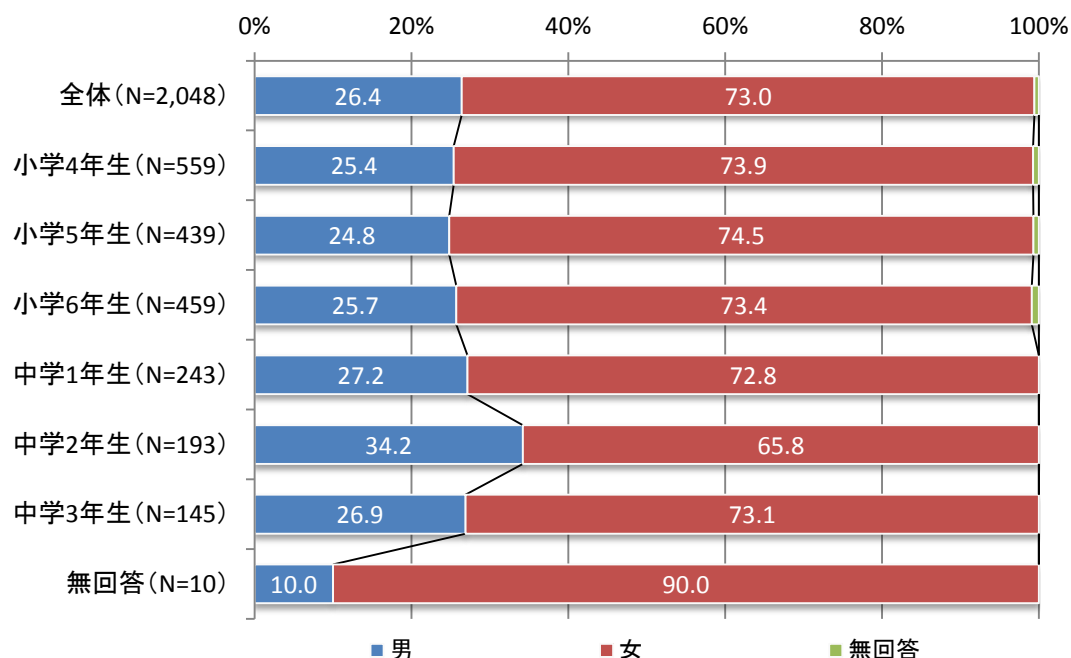
性別をみると、男子に比べ女子の方が小学生の比率がやや高い。(図 1-1)

図 1-1. 【子供調査】子供の学年（全体／性別）



調査対象の子供の 7 割は女子である。学年ごとに性別をみると、全ての学年において女子の割合が男子を上回っている。(図 1-2)。

図 1-2. 【子供調査】子供の性別（全体／学年別）



②参加している「教室」の分野

「教室」の分野では、「茶道、華道」(37.8%)に参加する子供の割合が高く、次いで、「邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など」(10.0%)「百人一首、カルタ、囲碁、将棋」(7.7%)「神楽、獅子舞、お囃子」(7.3%)の順に高くなっている。(表 1-2)

学年別にみると、小学生に比べて中学生では「神楽、獅子舞、お囃子」に参加する子供の割合が高くなっており、学年が上がるにしたがって参加率が高くなる傾向がみられる。一方、中学生に比べて小学生の参加率が高いのは「茶道、華道」「百人一首、カルタ、囲碁、将棋」である。

性別にみると、女子に比べて男子の参加率が高いのは、「神楽、獅子舞、お囃子」「和太鼓」「百人一首、カルタ、囲碁、将棋」「武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など」である。逆に男子に比べて女子の参加率が高いのは、「邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など」「日本舞踊」「茶道、華道」「着物の着付けや作法」などである。

ちなみに、これまでの調査と同様に「分野」を「民俗芸能」(神楽、獅子舞、お囃子、民謡や町や、村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居、和太鼓)、「古典芸能」(雅楽、能楽、日本舞踊、邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など)、「生活文化」(伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり、百人一首、カルタ、囲碁、将棋、書道、武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など)、「その他」(茶道、華道、着物の着付けや作法、昔の遊びや仕事、その他)の 4 つに分類し直して比較すると、「生活文化」(54.4%)、「古典芸能」(19.2%)、「民俗芸能」(13.3%)の順に参加率が高い。学年別の比較では、「民俗芸能」は中学生、「生活文化」は小学生の参加率が高い。また男女別に比較すると、「民俗芸能」「その他」では男子、「古典芸能」「生活文化」では女子の参加率が高くなっているのが特徴である。

表 1-1. 【子供調査】参加している「教室」の分野（全体／学年／性別）

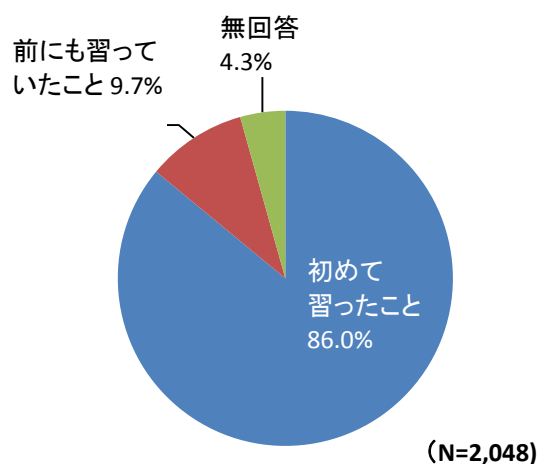
(%)

教室の分野		合計 N=2,048	学年							性別		
			小学 4年生 N=559	小学 5年生 N=439	小学 6年生 N=459	中学 1年生 N=243	中学 2年生 N=193	中学 3年生 N=145	無回答 N=10	男子 N=541	女子 N=1,496	無回答 N=11
分 野	神楽、獅子舞、お囃子	7.3	4.1	8.4	7.2	13.6	9.8	15.9	0.0	15.0	5.7	9.1
	民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居	2.5	4.5	2.7	2.2	2.5	1.0	2.1	0.0	3.9	2.5	0.0
	雅楽、能楽	2.9	2.7	2.7	2.2	2.5	5.2	6.9	30.0	4.4	2.8	0.0
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	10.0	11.1	9.8	10.7	12.8	14.0	11.0	0.0	5.0	13.4	9.1
	和太鼓	3.5	1.8	4.1	3.7	4.1	6.2	7.6	10.0	7.8	2.5	0.0
	日本舞踊	6.4	6.8	8.7	5.2	9.5	7.8	4.8	10.0	2.6	8.8	9.1
	伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	1.4	2.0	2.1	2.4	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	1.7	18.2
	百人一首、カルタ、囲碁、将棋	7.7	10.6	9.3	10.0	6.2	6.7	1.4	0.0	18.9	4.8	18.2
	茶道、華道	37.8	43.1	42.8	46.6	35.8	36.3	41.4	60.0	21.3	50.1	18.2
	武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	5.0	3.4	4.8	5.4	6.6	9.8	9.7	0.0	12.8	2.9	9.1
	書道	3.0	2.5	3.2	4.1	4.1	3.1	4.1	0.0	3.1	3.5	0.0
	着物の着付けや作法	5.8	6.4	8.2	4.1	8.6	5.7	6.9	0.0	1.5	8.4	0.0
	昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど）	0.9	0.7	2.5	0.9	0.4	0.0	0.0	0.0	0.9	1.0	0.0
	その他	5.8	7.0	6.6	7.2	5.3	6.7	4.1	0.0	6.8	6.3	18.2
大 分 類	民俗芸能	13.3	10.4	15.3	13.1	20.2	17.1	25.5	10.0	26.6	10.7	9.1
	古典芸能	19.2	20.6	21.2	18.1	24.7	26.9	22.8	40.0	12.0	24.9	18.2
	生活文化	54.4	62.6	63.6	64.9	54.7	51.8	53.8	60.0	44.7	66.7	36.4
	その他	13.1	13.1	15.9	15.9	12.3	17.1	13.8	0.0	21.4	11.9	45.5

③参加前の経験の有無

「教室」で体験する分野について、そこに「通うようになってはじめて習った」という子供の割合が8割以上（86.0%）を占め、「通う前にも習っていた」という子供の割合は9.7%に過ぎなかった。（図1-3）

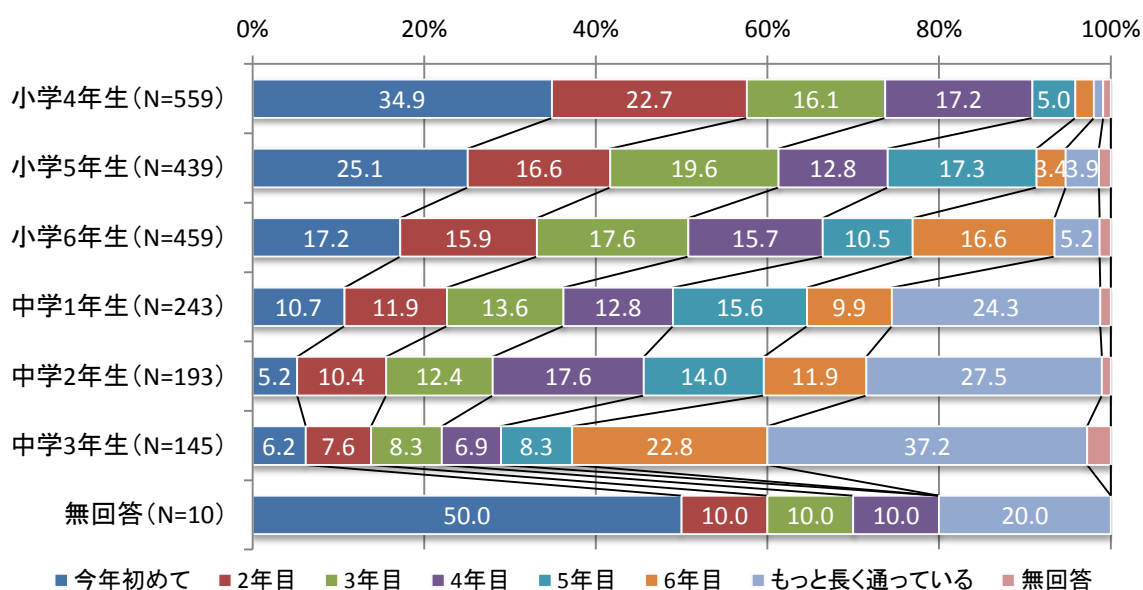
図1-3. 【子供調査】参加前の経験の有無（全体）



④参加年数（今年で何年目か）

教室の参加年数は学年が上になるほど「もっと長く通っている」の割合が高くなっており、学年が上になるほど「教室」に長く参加していることが分かる。「教室」にはじめて参加するのは、低学年ほど多くなる。中学3年生では6年以上（「6年目」及び「もっと長く通っている」）参加している子供の割合が60.0%に上る。（図1-4）

図1-4. 【子供調査】参加年数（今年で何年目か）（全体／学年別）

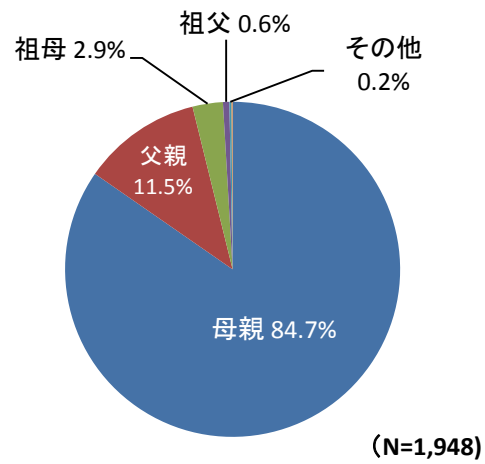


2) 保護者のプロフィール

①子供との続柄

【保護者調査】の回答者は、8割5分（84.7%）が母親であった。父親が回答した割合は全体の11.5%を占めている。祖母や祖父が回答しているケースは、ごくわずかである。（図1-5）

図1-5. 【保護者調査】子供との続柄（全体）



②子供の学年と性別

【保護者調査】で尋ねた「子供の学年」(図 1-6)、「子供の性別」(図 1-7)の結果については、【保護者調査】の回答者が【子供調査】の対象者の保護者であることから【子供調査】の結果とほぼ同一である。

図 1-6. 【保護者調査】子供の学年（全体／性別）

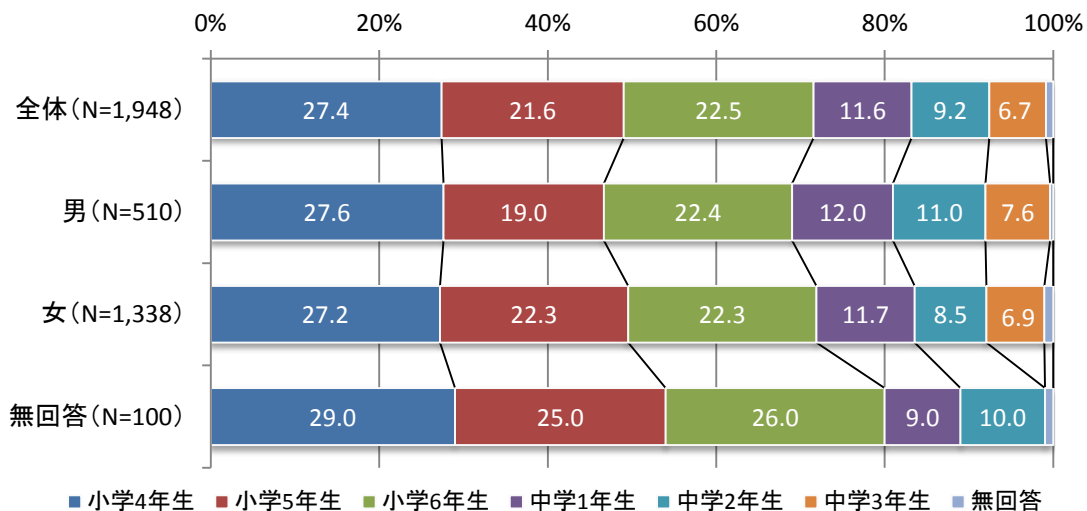
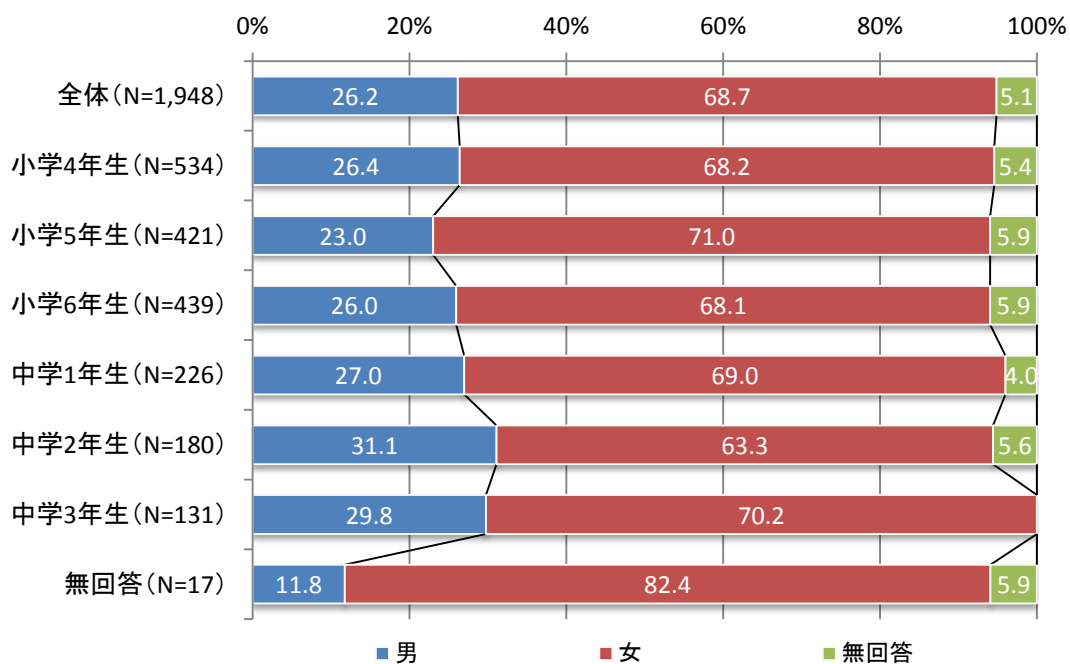


図 1-7. 【保護者調査】子供の性別（全体／学年別）



③子供が参加している「教室」の分野

【保護者調査】で尋ねた「子供が参加している『教室』の分野」（表 1-2）も、【保護者調査】の回答者が【子供調査】の対象者の保護者であることから【子供調査】の結果とほぼ同一である。

表 1-2. 【保護者調査】子供が参加している「教室」の分野（全体／学年／性別）

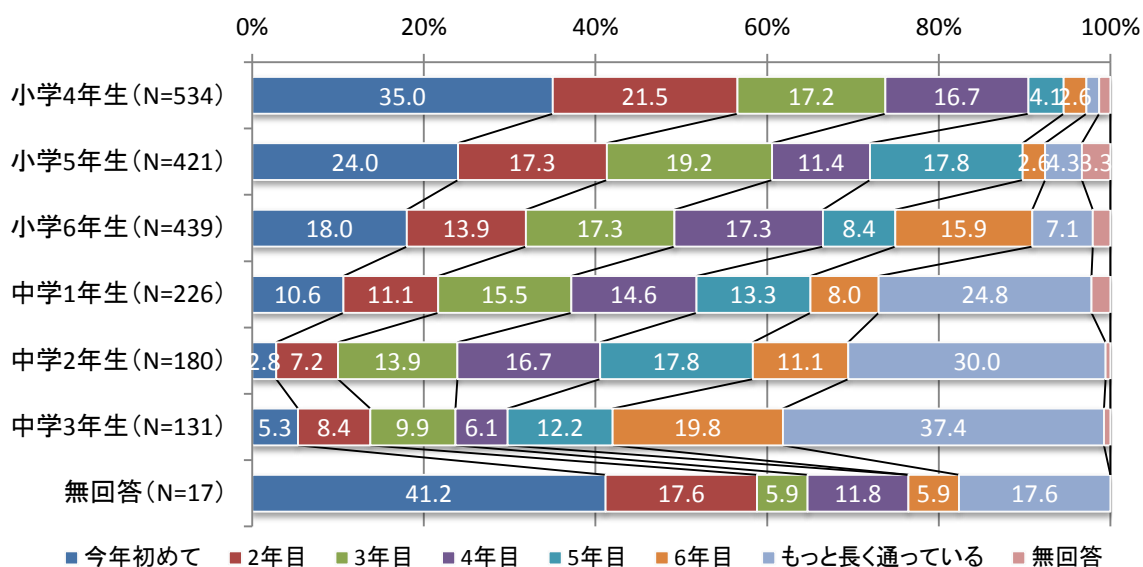
(%)

教室の分野		合計 N=1,948	学年							性別		
			小学 4年生 N=599	小学 5年生 N=505	小学 6年生 N=490	中学 1年生 N=257	中学 2年生 N=201	中学 3年生 N=160	無回答 N=19	男子 N=561	女子 N=1,564	無回答 N=106
分 野	神楽、獅子舞、お囃子	7.7	3.8	7.5	7.3	12.8	9.5	14.4	0.0	14.1	5.8	2.8
	民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居	2.7	5.0	2.4	1.8	2.7	0.0	1.9	0.0	4.1	2.4	0.9
	雅楽、能楽	3.0	2.8	2.0	2.4	3.5	3.5	5.6	10.5	4.3	2.6	1.9
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	9.5	9.8	7.9	8.0	11.7	14.4	8.8	10.5	6.1	10.6	12.3
	和太鼓	3.2	1.7	3.2	3.3	3.1	6.0	5.6	5.3	5.9	2.3	2.8
	日本舞踊	6.5	6.7	7.1	5.5	7.0	8.0	5.0	5.3	2.0	7.9	10.4
	伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	1.1	1.3	1.4	1.6	0.0	0.5	0.0	0.0	0.9	1.1	1.9
	百人一首、カルタ、囲碁、将棋	7.5	9.7	8.5	8.6	4.3	6.5	0.6	0.0	16.2	4.6	4.7
	茶道、華道	36.9	39.4	35.0	40.6	31.9	30.3	35.6	57.9	20.7	41.9	48.1
	武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	5.2	3.0	4.6	5.7	6.2	8.5	8.1	0.0	12.1	2.8	2.8
	書道	3.5	2.8	4.4	3.7	4.3	1.5	4.4	0.0	3.0	3.7	2.8
	着物の着付けや作法	5.5	5.8	6.9	3.9	5.8	4.0	5.6	5.3	1.8	6.9	3.8
	昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど）	1.2	0.8	2.2	1.0	1.2	1.0	0.0	0.0	1.2	1.2	0.9
	その他	6.5	7.2	6.9	6.5	5.4	6.5	4.4	5.3	7.7	6.3	3.8
大 分 類	民俗芸能	13.7	10.5	13.1	12.4	18.7	15.4	21.9	5.3	24.1	10.4	6.6
	古典芸能	19.0	19.4	17.0	15.9	22.2	25.9	19.4	26.3	12.3	21.1	24.5
	生活文化	53.4	57.8	54.9	56.7	46.3	42.3	46.3	63.2	41.7	57.2	59.4
	その他	13.9	12.4	15.0	14.9	12.8	16.4	12.5	5.3	21.9	11.3	9.4

④子供の参加年数

【保護者調査】で尋ねた「子供の参加年数」(図 1-8) も、【保護者調査】の回答者が【子供調査】の対象者の保護者であることから【子供調査】の結果とほぼ同一である。

図 1-8. 【保護者調査】子供の参加年数（今年で何年目か）（全体／学年別）



⑤保護者の年齢

保護者の年齢（表 1-3）については、「35 歳～39 歳」（17.8%）、「40 歳～44 歳」（36.2%）、「45 歳～49 歳」（27.6%）に集中している。回答者の 8 割が、30 歳代後半から 40 歳代後半である。

表 1-3. 【保護者調査】保護者の年齢（全体）

保護者年齢	件数	(%)
～24 歳	5	0.3%
25 歳～29 歳	5	0.3%
30 歳～34 歳	65	3.3%
35 歳～39 歳	347	17.8%
40 歳～44 歳	706	36.2%
45 歳～49 歳	538	27.6%
50 歳～54 歳	164	8.4%
55 歳～59 歳	16	0.8%
60 歳～	69	3.5%
無回答	33	1.7%

(N=1, 948)

3) 指導者のプロフィール

①指導者の年齢と性別

【指導者調査】における調査対象の指導者の年齢は、「70 歳代（70 歳～79 歳）」（25.4%）「60 歳代（60 歳～69 歳）」（23.9%）の順に多く、この二つで全体の約 5 割（49.3%）を占めている。次いで多いのは、「50 歳代（50 歳～59 歳）」（19.2%）「40 歳代（40 歳～49 歳）」（16.8%）である。（表 1-4）

指導者の年齢を男女別にみると、男性の指導者は 60 歳代、40 歳代、70 歳代の順に多く、女性の指導者は 70 歳代、60 歳代、50 歳代の順に多い。（表 1-5）

性別（表 1-5）の割合は、男性（24.9%）、女性（74.0%）で、女性の指導者の割合が多い。年齢別にみると、30 歳代以外は女性比率が高い。

表 1-4. 【指導者調査】指導者の年齢（全体／性別）

(%)

	19歳以下	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳以上	無回答
全体(N=543)	0.2	2.2	5.2	16.8	19.2	23.9	25.4	5.7	1.5
男性(N=135)	0.0	2.2	10.4	23.7	17.8	24.4	18.5	3.0	0.0
女性(N=402)	0.2	2.2	3.5	14.7	19.9	24.1	28.1	6.7	0.5
無回答(N=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

表 1-5. 【指導者調査】指導者の性別（全体／年齢別）

(%)

	男性	女性	無回答
全体 (N=543)	24.9	74.0	1.1
19歳以下 (N= 1)	0.0	100.0	0.0
20歳～29歳 (N= 12)	25.0	75.0	0.0
30歳～39歳 (N= 28)	50.0	50.0	0.0
40歳～49歳 (N= 91)	35.2	64.8	0.0
50歳～59歳 (N=104)	23.1	76.9	0.0
60歳～69歳 (N=130)	25.4	74.6	0.0
70歳～79歳 (N=138)	18.1	81.9	0.0
80歳以上 (N= 31)	12.9	87.1	0.0
無回答 (N= 8)	0.0	25.0	75.0

②「教室」の分野

【指導者調査】における回答者が指導している「教室」の分野構成は、「教室」単位で調査を実施していることから、【子供調査】、【保護者調査】と似通っている。

「茶道・華道」(38.0%)、「邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など」(9.8%)、「日本舞踊」(8.1%)の順に多く、この三つで全体の5割以上を占めている。次いで、「神楽、獅子舞、お囃子」(7.6%)、「百人一首・カルタ・囲碁・将棋」(7.5%)、の順に多い。(表1-6)

表1-6. 【指導者調査】指導している「教室」の分野

(%)

教室の分野		合計 N=543
分 野	神楽、獅子舞、お囃子	7.6
	民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居	3.2
	雅楽、能楽	2.7
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	9.8
	和太鼓	4.8
	日本舞踊	8.1
	伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	1.5
	百人一首、カルタ、囲碁、将棋	7.5
	茶道、華道	38.0
	武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	3.5
	書道	1.3
	着物の着付けや作法	6.8
	昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど）	0.8
	その他	4.5
大 分 類	民俗芸能	15.6
	古典芸能	20.6
	生活文化	53.6
	その他	10.3

③指導者の「教室」での役割

指導者の「教室」での役割についての回答は、「子供に直接指導」している指導者が全体の4分の3(75.7%)を占め、「指導の補助」をしている指導者は2割に満たない(19.5%)。『教室』を開催するための準備をしている指導者の割合はわずか(2.9%)であった。(図1-9)

年齢別に役割をみると、「子供に直接指導」する役割を担う指導者の割合が多いのは、「20歳代(20歳～29歳)」(83.3%)「50歳代(50歳～59歳)」(80.8%)、であった。性別では、「子供に直接指導」する役割を担う指導者の割合は男性(82.2%)、女性(74.6%)で、女性に比べて男性が高くなっている。(表1-7)

図1-9. 【指導者調査】指導者の「教室」での役割(全体)

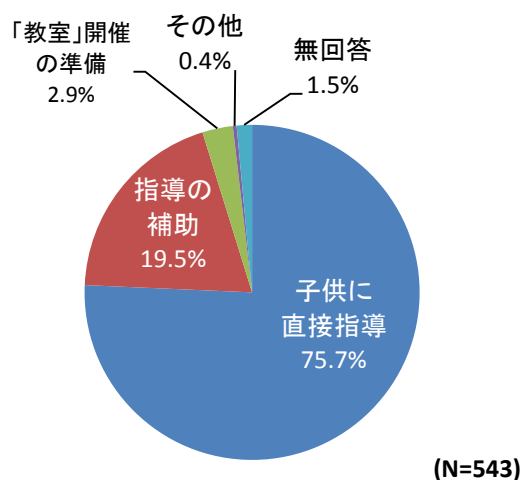


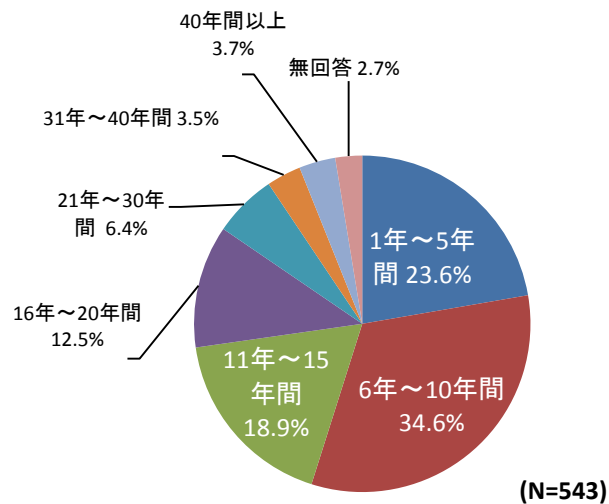
表1-7. 【指導者調査】指導者の「教室」での役割(全体／年齢／性別)

		子供に 直接指導	指導の補助	「教室」開催の 準備	その他	無回答
全 体 (N=543)		75.7	19.5	2.9	0.4	1.5
指導者の 年齢	～19歳 (N= 1)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳 (N= 12)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	30歳～39歳 (N= 28)	60.7	35.7	0.0	3.6	0.0
	40歳～49歳 (N= 91)	75.8	23.1	1.1	0.0	0.0
	50歳～59歳 (N= 104)	80.8	16.3	2.9	0.0	0.0
	60歳～69歳 (N=130)	76.2	17.7	5.4	0.8	0.0
	70歳～79歳 (N=138)	75.4	21.0	2.9	0.0	0.7
	80歳～ (N= 31)	87.1	6.5	3.2	0.0	3.2
	無回答 (N= 8)	12.5	12.5	0.0	0.0	75.0
性別	男性 (N=135)	82.2	14.1	3.7	0.0	0.0
	女性 (N=402)	74.6	21.6	2.7	0.5	0.5
	無回答 (N=6)	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

④「教室」での指導経験年数

「教室」での指導経験年数を一定年数ごとにまとめて集計した結果が図 1-10 である。指導経験年数別に見る「1 年～5 年間」が 23.6%、「6 年～10 年間」が 34.6%を占めており、全体の 5 割以上（58.2%）が指導経験年数 10 年間以下の指導者である。平均指導経験年数は 12.85 年であった。

図 1-10. 【指導者調査】指導者の「教室」での指導経験年数（全体）



4) 指導者＜放課後子供教室＞のプロフィール

①指導者＜放課後子供教室＞の年齢と性別

【指導者調査＜放課後子供教室＞】の調査対象の指導者の年齢は、全体では「50 歳代（50 歳～59 歳）」（30.0%）「70 歳代（70 歳～79 歳）」（25.0%）の順に多く、この二つで全体の 5 割以上（55.0%）を占めている。次いで多いのは、「60 歳代（60 歳～69 歳）」（20.0%）「30 歳代（30 歳～39 歳）」（15.0%）で、年代が高いほど割合が多く、年齢が下がるにしたがって少なくなる傾向がみられる。（表 1-8）

指導者の年齢を男女別にみると、男性の指導者は 40 歳代と 50 歳代にしかみられず、女性の指導者は、70 歳代、次いで同率で 50 歳代、60 歳代が多い。（表 1-8）

性別では、男性（15.0%）、女性（85.0%）で、女性の指導者の割合が高い。（表 1-9）

**表 1-8. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者の年齢（全体／性別）**

(%)

	19歳以下	20歳～ 29歳	30歳～ 39歳	40歳～ 49歳	50歳～ 59歳	60歳～ 69歳	70歳～ 79歳	80歳以上	無回答
全体(N=20)	0.0	0.0	15.0	10.0	30.0	20.0	25.0	0.0	0.0
男性(N=3)	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0
女性(N=17)	0.0	0.0	17.6	5.9	23.5	23.5	29.4	0.0	0.0
無回答(N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

**表 1-9. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者の性別（全体／年齢別）**

(%)

	男性	女性	無回答
全体 (N= 20)	15.0	85.0	0.0
19歳以下 (N= 0)	0.0	0.0	0.0
20歳～29歳 (N= 0)	0.0	0.0	0.0
30歳～39歳 (N= 3)	0.0	15.0	0.0
40歳～49歳 (N= 2)	5.0	5.0	0.0
50歳～59歳 (N= 6)	10.0	20.0	0.0
60歳～69歳 (N= 4)	0.0	20.0	0.0
70歳～79歳 (N= 5)	0.0	25.0	0.0
80歳以上 (N= 0)	0.0	0.0	0.0
無回答 (N= 0)	0.0	0.0	0.0

②＜放課後子供教室＞の「教室」の分野

【指導者調査＜放課後子供教室＞】における回答者が指導している「教室」の分野構成は、先述の【指導者調査】における分野構成とは異なり、「着物の着付けや作法」が最も多く、全体の4分の1（23.8%）近くを占めている。次いで、「邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など」（19.0%）、「茶道、華道」（14.3%）、「書道」（14.3%）が続いている。（表 1-10）

「分野」を「民俗芸能」「古典芸能」「生活文化」「その他」の4つの「大分類」にして比較すると、先述の【指導者調査】と同様に、「生活文化」（57.1%）が非常に大きな割合を占めているのが特徴的である。次いで多いのは「古典芸能」（28.6%）、「その他」（14.3%）の順である。民俗芸能を指導している回答者はみられなかった。

表 1-10. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導している「教室」の分野

(%)

教室の分野		合計 N=20
分 野	神楽、獅子舞、お囃子	0.0
	民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居	0.0
	雅楽、能楽	0.0
	邦楽：お箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	19.0
	和太鼓	0.0
	日本舞踊	9.5
	伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	0.0
	百人一首、カルタ、囲碁、将棋	4.8
	茶道、華道	14.3
	武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	0.0
	書道	14.3
	着物の着付けや作法	23.8
	昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど）	4.8
	その他	9.5
	無回答	0.0
大 分 類	民俗芸能	0.0
	古典芸能	28.6
	生活文化	57.1
	その他	14.3

③指導者＜放課後子供教室＞の「教室」での役割

指導者＜放課後子供教室＞の「教室」での役割としては、「子供に直接指導」している指導者が全体の 5 分の 4 (80.0%) を占め、「指導の補助」をしている指導者が全体の 5 分の 1 (20.0%)、「『教室』を開催するための準備」をしている指導者はみられなかった。(図 1-11)

年齢別に役割をみると、「子供に直接指導」する役割を担う指導者の割合は、「40 歳代 (40 歳～49 歳)」および「60 歳代 (60 歳～69 歳)」では 100.0%と他の年代に比べて高い。また、「指導の補助」をする役割を担う指導者の割合は、それぞれ「70 歳代 (70 歳～79 歳)」、「30 歳代 (30 歳～39 歳)」が高くなっており、「子供に直接指導」する年代と異なっている。(表 1-12)

性別の比較では、「子供に直接指導」する役割を担う指導者の割合は、男性 (100.0%) の方が女性 (76.5%) より高く、「指導の補助」をする役割を担う指導者は、女性のみ (23.5%) であり、男性はみられなかった。(表 1-11)

図 1-11. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者の「教室」での役割 (全体)

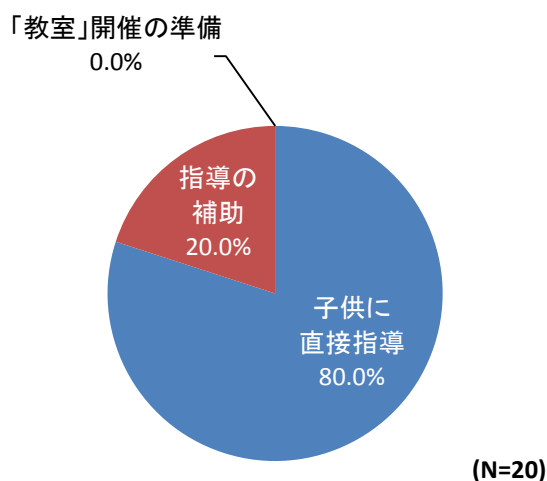


表 1-11. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者の「教室」での役割（全体／年齢／性別）

(%)

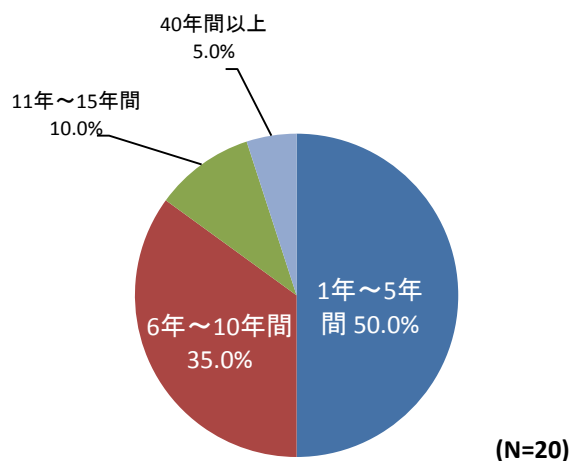
		子供に 直接指導	指導の補助	「教室」開催の 準備	その他	無回答
全 体 (N=20)		80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
指 導 者 の 年 齢	～19歳 (N= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歳～29歳 (N= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳～39歳 (N= 3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	40歳～49歳 (N= 2)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50歳～59歳 (N= 6)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0
	60歳～69歳 (N= 4)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	70歳～79歳 (N= 5)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	80歳～ (N= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無回答 (N= 0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
性 別	男性 (N= 3)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	女性 (N=17)	76.5	23.5	0.0	0.0	0.0
	無回答 (N=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

④＜放課後子供教室＞の「教室」での指導経験年数

「教室」での指導経験年数は、を一定年数ごとにまとめて集計した結果が図 1-12 である。

指導経験年数が「1 年～5 年間」が全体の 5 割（50.0%）、「6 年～10 年間」が全体の 3 分の 1（35.0%）を占め、全体の 8 割以上（85.0%）が指導経験 10 年間以下の指導者であった。平均指導経験年数は 8.0 年となっている。

図 1-12. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者の「教室」での指導経験年数（全体）



2. 参加についての全体的な評価

「教室」に参加したことについての全体的な評価を、「参加についての総合評価」、「習っていることの意義」、「継続への意欲・意向」の3つの側面から行っていく。

(1) 参加についての総合評価

ここでは、「教室」に参加したことについての総合評価を、子供の立場と保護者の立場から分析する。

1) 子供からの評価

「教室」に参加したことに関して、子供側の評価を見ていく。

「教室」に参加したことに対する子供の評価を図 2-1 に示している。「教室」に通った子供のうち、全体の7割弱（67.7%）が「とても、よかったと思う」と回答し、3割（29.4%）が「まあ、よかったと思う」と回答している。両方をあわせると、ほぼ全ての子供が、「教室」に通ったことを「よかった」と評価しており、「教室」に参加していることへの子供の評価は、非常に高いと言える。

学年別による分析では、全ての学年において、「とても、よかったと思う」子供の割合が6割を超えており、特に中学3年生の評価が高い。性別では、「とても、よかったと思う」子供の割合が、男子は6割を超えているが（63.8%）、女子は7割近くに達しており（69.1%）、男子に比べて女子の評価が高くなっている。（表 2-1）

図 2-1. 【子供調査】参加についての総合評価（通ってよかったか）（全体）

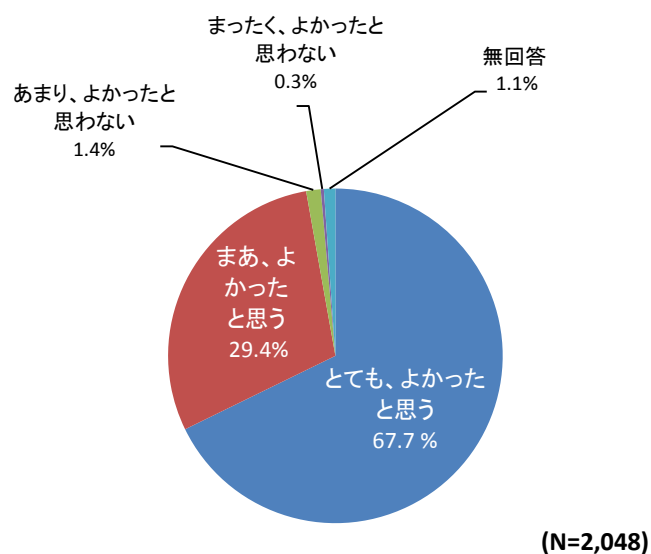


表 2-1. 【子供調査】参加についての総合評価（通ってよかったか）（全体／学年／性別）

(%)

		とても、よかった と思う	まあ、よかった と思う	あまり、よかったと 思わない	まったく、よかったと 思わない	無回答
全 体 (N=2,048)		67.7	29.4	1.4	0.3	1.1
学 年	小学4年生(N=559)	65.8	30.4	2.1	0.2	1.4
	小学5年生(N=439)	69.0	27.8	1.8	0.0	1.4
	小学6年生(N=459)	66.0	30.5	1.5	0.4	1.5
	中学1年生(N=243)	67.5	32.1	0.0	0.4	0.0
	中学2年生(N=193)	68.9	28.5	0.5	1.6	0.5
	中学3年生(N=145)	75.2	24.1	0.0	0.0	0.7
	無回答(N=10)	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0
性 別	男 子 (N=541)	63.8	32.3	1.3	0.7	1.8
	女 子 (N=1,496)	69.1	28.5	1.4	0.2	0.8
	無 回 答 (N=11)	72.7	18.2	0.0	0.0	9.1

2) 保護者からの評価

「教室」に参加させることに関して、保護者の評価を見ていく。

「教室」に参加したことに対する保護者の評価を図 2-2 に示している。子供を「教室」に通わせていることについて、全体の 8 割以上（85.3%）が「とても、よかったと思う」と回答し、14.0%が「まあ、よかったと思う」と回答している。両方をあわせると、ほぼ全ての保護者が、子どもを「教室」に通わせていることを「よかった」と評価しており、「教室」に参加させていることへの保護者の評価も、非常に高いと言える。

子供の学年別による分析では、全ての学年において、「とても、よかったと思う」保護者の割合が 8 割を超えており、特に中学 3 年生の保護者の評価が高い（92.4%）。子供の性別による比較では、男子、女子ともに「とても、よかったと思う」保護者の割合が 8 割を超えているが、女子に比べて男子の保護者の評価のほうがやや高くなっている。（表 2-2）

図 2-2. 【保護者調査】参加させたことについての総合評価（通わせてよかったか）（全体）

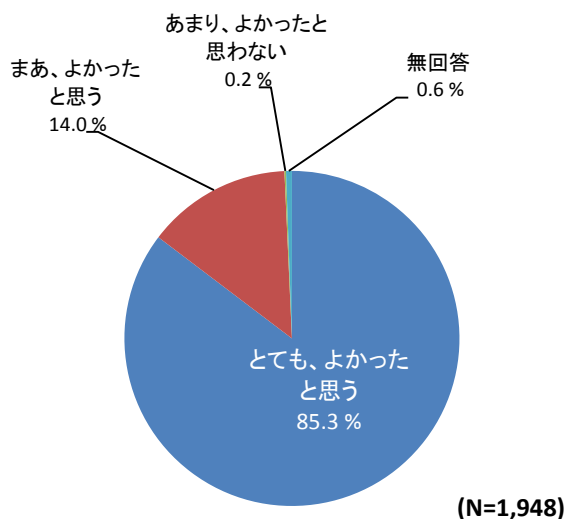


表 2-2. 【保護者調査】参加させたことについての総合評価（通わせてよかったか）
（全体／学年／性別）

		(%)				
		とても、よかった と思う	まあ、よかった と思う	あまり、よかったと 思わない	まったく、よかったと 思わない	無回答
全体 (N=1,948)		85.3	14.0	0.2	0.0	0.6
学 年	小学4年生 (N=534)	84.3	15.2	0.2	0.0	0.4
	小学5年生 (N=421)	82.7	15.9	0.5	0.0	1.0
	小学6年生 (N=439)	84.1	15.0	0.0	0.0	0.9
	中学1年生 (N=226)	87.6	11.9	0.0	0.0	0.4
	中学2年生 (N=180)	89.4	10.6	0.0	0.0	0.0
	中学3年生 (N=131)	92.4	7.6	0.0	0.0	0.0
	無 回 答 (N=17)	88.2	11.8	0.0	0.0	0.0
性 別	男 子 (N=510)	86.7	12.5	0.0	0.0	0.8
	女 子 (N=1,338)	85.0	14.3	0.1	0.0	0.5
	無 回 答 (N=100)	83.0	16.0	1.0	0.0	0.0

(2) 習っていることの意義

ここでは、「教室」で習っていることの意義を、子供の立場と保護者の立場から分析していく。

1) 子供の意義

子供たちは、「教室」で習うことの意義をどれくらい感じているのであろうか。「生活のなかで役立つか」という観点から、「教室」で習っていることの意義を探っていくことにする。(図 2-3)

図 2-3 に示されているように、3 割弱 (27.6%) の子供が、「教室」で習っていることは生活のなかで「とても、役に立ちそう」と回答し、6 割 (60.8%) の子供が「まあ、役に立ちそう」と回答している。両方をあわせると、9 割弱 (88.4%) の子供が、生活のなかで「役立つ」と回答しており、多くの子供が「教室」で習ったことの意義を実感していることが分かる。

学年別による分析では、「とても、役に立ちそう」と回答する者の割合が、すべての学年で 20%を超えている。性別では、男子に比べて女子の評価のほうはやや高くなっている。(表 2-3)

図 2-3. 【子供調査】習っていることの意義（生活に役立つか）（全体）

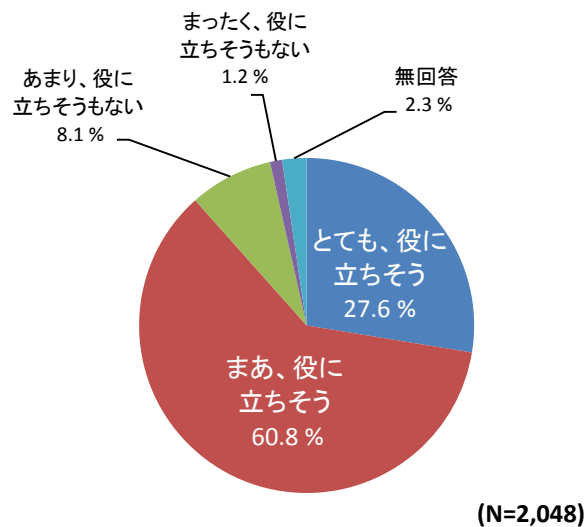


表 2-3. 【子供調査】習っていることの意義（生活に役立つか）（全体／学年／性別）

		(%)				
		とても、役に立ちそう	まあ、役に立ちそう	あまり、役に立ちそうもない	まったく、役に立ちそうもない	無回答
全 体 (N=2,048)		27.6	60.8	8.1	1.2	2.3
学 年	小学4年生(N=559)	24.3	64.6	7.7	0.9	2.5
	小学5年生(N=439)	29.2	59.2	6.6	1.8	3.2
	小学6年生(N=459)	26.4	62.3	8.9	0.7	1.7
	中学1年生(N=243)	31.3	56.4	8.6	1.2	2.5
	中学2年生(N=193)	29.0	57.5	8.8	2.1	2.6
	中学3年生(N=145)	31.7	60.7	6.2	0.7	0.7
	無回答(N=10)	20.0	30.0	50.0	0.0	0.0
性 別	男 子 (N=541)	25.9	59.5	8.5	2.2	3.9
	女 子 (N=1,496)	28.4	61.2	7.9	0.8	1.7
	無 回 答 (N=11)	0.0	81.8	9.1	0.0	9.1

2) 保護者の意義

保護者は、子供が「教室」で習っていることに関して、どれくらい意義を感じているのでしょうか。

保護者の4割以上(44.5%)が、「教室」で習っていることは生活のなかで「とても、役に立ちそう」と回答し、それより若干多い50.1%の保護者が「まあ、役に立ちそう」と回答している。両方の回答をあわせ、9割以上(94.6%)の保護者が、生活のなかで「役立つ」と回答しており、子供同様、多くの保護者が「教室」で習うことの意義を感じている。(図2-4)

子供の学年別による分析では、「とても、役に立ちそう」と考える保護者の割合が特に小学5年生(47.3%)で高かった。また、性別による比較では、「とても、役に立ちそう」が、男子は40.2%であるのに比べ、女子は45.7%であり、女子の保護者の評価が高い。(表2-4)

図2-4. 【保護者調査】習っていることの意義（生活に役立つか）（全体）

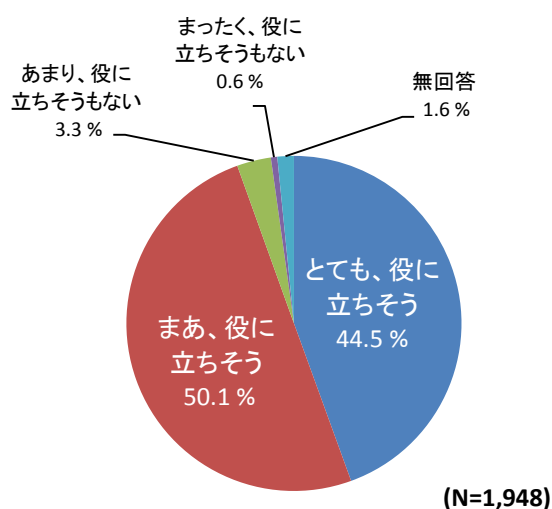


表2-4. 【保護者調査】習っていることの意義（生活に役立つか）（全体／学年／性別）

		(%)				
		とても、役に立ちそう	まあ、役に立ちそう	あまり、役に立ちそうもない	まったく、役に立ちそうもない	無回答
全 体 (N=1,948)		44.5	50.1	3.3	0.6	1.6
学 年	小学4年生(N=534)	46.1	48.5	3.7	0.4	1.3
	小学5年生(N=421)	47.3	46.8	2.1	0.7	3.1
	小学6年生(N=439)	40.1	54.2	3.2	0.9	1.6
	中学1年生(N=226)	45.6	49.6	3.1	0.9	0.9
	中学2年生(N=180)	42.8	51.7	4.4	0.0	1.1
	中学3年生(N=131)	45.8	51.1	2.3	0.8	0.0
	無 回 答(N=17)	29.4	52.9	17.6	0.0	0.0
性 別	男 子 (N=510)	40.2	52.0	5.5	0.4	2.0
	女 子(N=1,338)	45.7	49.9	2.4	0.7	1.4
	無 回 答(N=100)	50.0	43.0	4.0	1.0	2.0

(3) 継続への意欲・意向

「教室」で習い続けていく意欲・意向を、子供と保護者双方の立場からみていく。

1) 習い続けていくことについての子供の意欲

子供たちが「教室」に通い続けることについての意欲をみると、8割以上（83.8%）の子供が、『「教室」で習い続けたい』と回答している。ほとんどの子供が「教室」で習っていることに満足し、このまま習い続けたいと思っていることがうかがえる。（図 2-5）

学年別では、「習い続けたいとは思わない」と回答する割合が中学2年生（13.0%）で他の学年に比べ高くなっている。男女別では、男子に比べ女子の方が『「教室」で習い続けたい』と回答する割合がやや高くなっている。（表 2-5）

図 2-5. 【子供調査】 習い続けていくことについての意欲（全体）

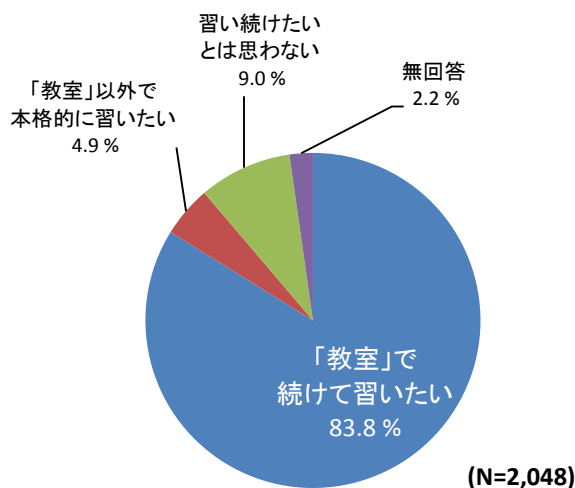


表 2-5. 【子供調査】 習い続けていくことについての意欲（全体／学年／性別）

		(%)			
		「教室」で 続けて習いたい	「教室」以外で 本格的に習いたい	習い続けたい とは思わない	無回答
全 体 (N=2,048)		83.8	4.9	9.0	2.2
学 年	小学4年生 (N=559)	85.3	3.8	8.8	2.1
	小学5年生 (N=439)	85.2	3.9	7.7	3.2
	小学6年生 (N=459)	82.8	5.4	10.0	1.7
	中学1年生 (N=243)	84.8	4.9	7.8	2.5
	中学2年生 (N=193)	78.2	6.7	13.0	2.1
	中学3年生 (N=145)	84.1	9.0	6.2	0.7
	無回答 (N=10)	70.0	0.0	20.0	10.0
性 別	男 子 (N=541)	82.4	6.5	7.9	3.1
	女 子 (N=1,496)	84.3	4.4	9.4	1.9
	無 回 答 (N=11)	90.9	0.0	0.0	9.1

2) 習い続けさせたいかについての保護者の意向

子供が「教室」に通い続けることについての保護者の意向をみてみる。

保護者の継続への意向は、9割（89.6%）の保護者が『『教室』で続けて習わせていきたい』と回答し、『『教室』とは別のところで本格的に習わせていきたい』が3.1%、「この『教室』で習うだけにして、習い続けさせたいとは思わない」が6.3%みられたが、大半の保護者が、「教室」での活動に満足し、このまま習い続けさせたいと思っている様子がうかがえる。（図2-6）

子供の学年別にみると、「習い続けさせたいとは思わない」と回答する割合が小学6年生（8.7%）で他の学年に比べ高くなっている。また男女別では差異がみられない。（表2-6）

図2-6. 【保護者調査】子供に習い続けさせたいかについての意向（全体）

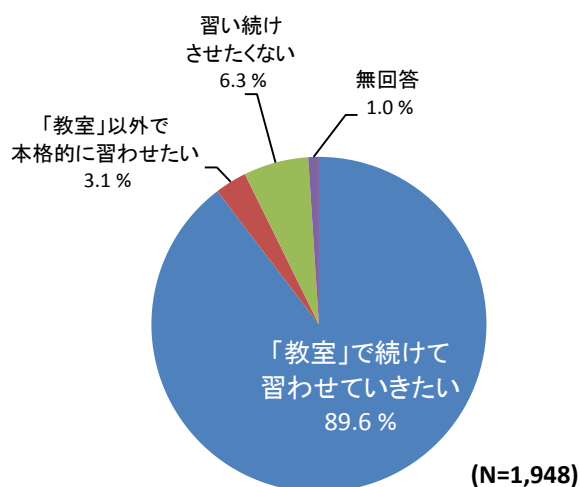


表2-6. 【保護者調査】子供に習い続けさせたいかについての意向（全体／学年／性別）

(%)

		「教室」で続けて 習わせていきたい	「教室」以外で 本格的に習わせたい	習い続け させたくない	無回答
全 体 (N=1,948)		89.6	3.1	6.3	1.0
学 年	小学4年生 (N=534)	88.6	3.0	7.7	0.7
	小学5年生 (N=421)	91.2	2.9	4.5	1.4
	小学6年生 (N=439)	87.5	2.3	8.7	1.6
	中学1年生 (N=226)	92.5	3.1	3.5	0.9
	中学2年生 (N=180)	88.9	4.4	6.1	0.6
	中学3年生 (N=131)	92.4	5.3	2.3	0.0
	無 回 答 (N=17)	88.2	0.0	11.8	0.0
性 別	男 子 (N=510)	89.6	3.7	5.7	1.0
	女 子 (N=1,338)	89.5	2.8	6.7	1.0
	無 回 答 (N=100)	91.0	4.0	4.0	1.0

本章の「教室」に参加したことについての全体的な評価（「参加についての総合評価」、「習っていることの意義」、「継続への意欲・意向」）の結果をまとめると、以下のようになる。

①参加についての総合評価

子供、保護者双方とも、ほぼ全員が「教室」に参加して（参加させて）「よかった」と思っており、総合評価は高い。

②習っていることの意義

子供及び保護者の9割近くが、生活のなかで「役立つ」と評価している。

③継続への意欲・意向

継続への意欲・意向に関しては、子供の8割以上、保護者の9割近くが、「教室」への継続的な参加意向を示している。

3. 参加の動機・理由ときっかけ

この章では、「教室」に参加した動機やきっかけ等に関して、子供と保護者の双方の立場からみてる。

(1) 参加した子供の立場から

ここでは、子供の立場から「参加のきっかけ」と「参加の動機」を整理する。

1) 参加のきっかけ

子供たちが、どのようなきっかけから「教室」に通うようになったのかについて質問した。

「教室」に通うようになったきっかけとしては、「自分から通ってみようと思った」者は3割強（36.0%）、
「誰かから誘われたり、言われたりして通うようになった」者は6割弱（59.4%）となっており、周りに勧められて「教室」に通い始める子供の方が多い。（図 3-1）

学年別に「自分から通ってみようと思った」と回答する割合を見ると、特に大きな差異は見られないが、
小学5年生の割合が比較的高い（40.5%）。また、男女別では、男子は31.6%であるのに比べ、女子は37.5%であり、やや割合が高い。（表 3-1）

図 3-1. 【子供調査】参加のきっかけ（全体）

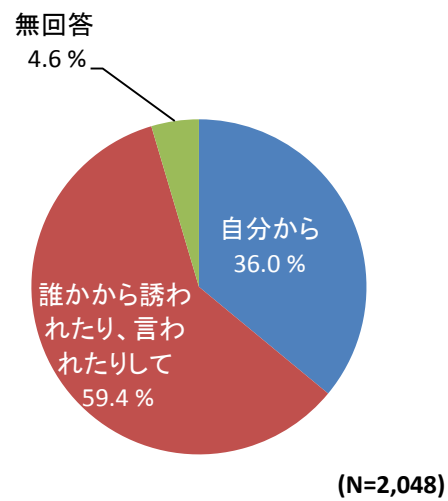


表 3-1. 【子供調査】参加のきっかけ（全体／学年／性別）

(%)

		自分から	誰かから誘われたり、言われたりして	無回答
全 体 (N=2,048)		36.0	59.4	4.6
学 年	小学4年生 (N=559)	36.9	57.4	5.7
	小学5年生 (N=439)	40.5	54.7	4.8
	小学6年生 (N=459)	35.3	59.7	5.0
	中学1年生 (N=243)	29.2	67.1	3.7
	中学2年生 (N=193)	34.7	63.2	2.1
	中学3年生 (N=145)	32.4	64.1	3.4
	無回答 (N=10)	60.0	40.0	0.0
性 別	男 子 (N=541)	31.6	65.2	3.1
	女 子 (N=1,496)	37.5	57.4	5.1
	無 回 答 (N=11)	45.5	45.5	9.1

前問で「誰かから誘われたり言われたりして「教室」に通い始めた回答者に対し、誰の誘いがきっかけで、「教室」に通い始めたかについて質問した。

「両親」(46.3%)、「友達」(23.0%)の二つが多く、「兄弟」「祖父母」「お稽古ごとの先生」「学校の先生」などは比較的少ない。(図3-2)

学年別に比較すると、「両親」と回答した割合が比較的高いのは、小学4年生(51.8%)と小学6年生(48.0%)で、「兄弟」と回答した割合は、小学生よりも中学生の方が高い傾向がみられる。「友達」と回答した割合は、小学生と中学生にほとんど差異はみられない。

男女別に比較すると、「両親」「兄弟」に誘われるのは女子よりも男子の方が多く、「友達」に誘われるのは男子よりも女子の方が多いという傾向がみられる。友人と一緒にのお稽古ごとに通いたいという意向は、女子の方が圧倒的に強いようである。(表3-2)

図3-2. 【子供調査】参加のきっかけになった人（複数回答）（全体）

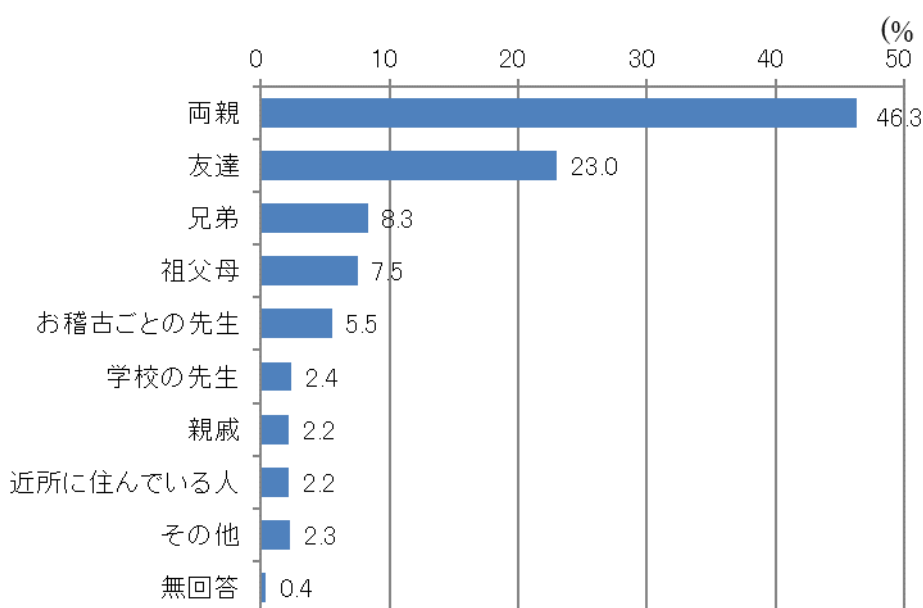


表3-2. 【子供調査】参加のきっかけになった人（複数回答）（全体／学年／性別）

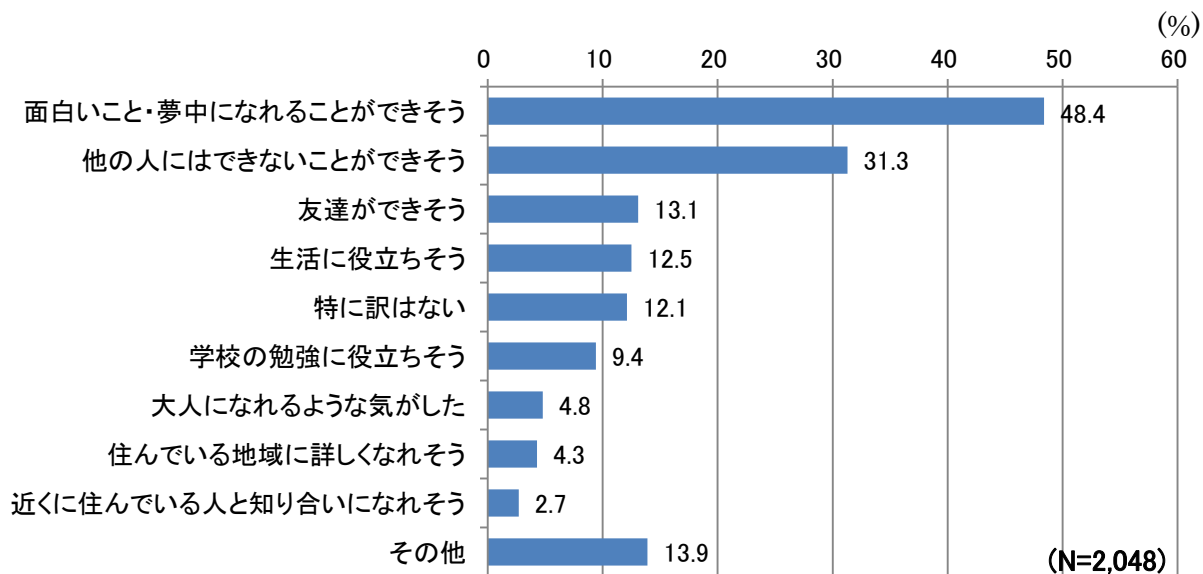
(%)

		両親	友達	兄弟	祖父母	お稽古ごとの先生	学校の先生	親戚	近所に住んでいる人	その他	無回答
全 体 (N=1,446)		46.3	23.0	8.3	7.5	5.5	2.4	2.2	2.2	2.3	0.4
学 年	小学4年生(N=380)	51.8	19.2	7.6	6.3	3.7	4.5	1.6	1.8	2.9	0.5
	小学5年生(N=288)	44.8	22.2	8.7	8.0	7.6	0.7	3.1	3.1	1.4	0.3
	小学6年生(N=319)	48.0	24.5	6.9	7.5	4.1	3.1	1.9	0.3	3.4	0.3
	中学1年生(N=196)	41.3	30.6	10.7	3.6	4.6	1.5	4.6	2.0	1.0	0.0
	中学2年生(N=147)	42.2	24.5	7.5	10.2	7.5	0.7	0.7	3.4	2.0	1.4
	中学3年生(N=109)	39.4	18.3	10.1	13.8	10.1	0.9	0.9	4.6	1.8	0.0
	無 回 答(N=7)	57.1	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
性 別	男 子 (N=434)	51.2	15.0	11.8	5.8	5.8	3.0	2.5	2.1	2.5	0.5
	女 子 (N=1007)	44.0	26.4	6.9	8.2	5.5	2.1	2.1	2.3	2.2	0.4
	無 回 答(N=5)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

2) 参加の動機

子供たちが「教室」に通う動機（教室に通うことにした理由）についての質問では、「面白いこと・夢中になれることができそう」と回答した子供が半数近く（48.4%）を占め、次いで「他人にはできないことができそう」が3割以上（31.3%）を占めている。この傾向は昨年調査とほぼ同じ傾向にあり、子供たちは、集中して取組めるものを求めており、その結果として学校の勉強以外に自分らしさを発揮できる特技を身につけたいという欲求を持っているものと考えられる。他方、「学校の勉強に役立ちそう」（9.4%）との回答もみられ、学校の勉強に役立つという期待も存在している。（図 3-3）

図 3-3. 【子供調査】参加の動機（複数回答）（全体）



子供たちが「教室」に通う動機（教室に通うことにした理由）について、学年別にみると、「面白いこと・夢中になれることができそう」「他の人にはできないことができそう」の回答は、中学生に多い。「学校の勉強に役立ちそう」の回答は、中学生に比べて小学生が多い。

「【子供調査】参加している『教室』の分野」（表 1-2）における中学生の「民俗芸能」及び小学生の「生活文化」の割合とも関係していると考えられる。

男女別に比較してみると、「面白いこと・夢中になれることができそう」「友達ができそう」の回答は女子に比べて男子の方が高く、「他の人にはできないことができそう」「生活に役立ちそう」の回答は、男子よりも女子の割合が高くなっている。（表 3-3）

表 3-3. 【子供調査】参加の動機（複数回答）（全体／学年／性別）

(%)

		面白いこと・夢中になれることができそう	他の人にはできないことができそう	大人になれるような気がした	友達ができそう	学校の勉強に役立ちそう	生活に役立ちそう	住んでいる地域に詳しくなれそう	近くに住んでいる人と知り合いになれそう	特に訳はない	その他	無回答
全 体 (N=2,048)		48.4	31.3	4.8	13.1	9.4	12.5	4.3	2.7	12.1	13.9	4.2
学 年	小学4年生(N=559)	46.3	27.7	3.9	12.9	8.8	11.3	4.5	2.9	13.6	13.2	4.5
	小学5年生(N=439)	45.6	31.4	6.2	14.4	10.3	13.4	3.0	1.8	11.2	14.8	4.6
	小学6年生(N=459)	46.4	29.0	4.4	12.9	10.9	13.9	4.6	1.5	11.5	14.8	5.2
	中学1年生(N=243)	53.5	34.6	4.5	12.8	8.6	13.2	4.9	1.6	12.8	12.8	2.1
	中学2年生(N=193)	52.8	41.5	4.7	11.4	9.3	9.8	4.1	4.7	9.3	14.5	3.1
	中学3年生(N=145)	55.9	33.1	6.9	13.8	6.2	13.1	6.9	7.6	13.1	12.4	3.4
	無回答(N=10)	70.0	20.0	0.0	20.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	0.0
性 別	男 子 (N=541)	49.2	28.5	3.9	15.5	11.6	10.9	5.7	4.6	11.1	12.6	4.3
	女 子 (N=1,496)	48.2	32.2	5.2	12.3	8.7	13.1	3.9	1.9	12.4	14.5	4.1
	無 回 答 (N=11)	45.5	36.4	0.0	9.1	0.0	9.1	0.0	9.1	9.1	0.0	9.1

(2) 参加させた保護者の立場から

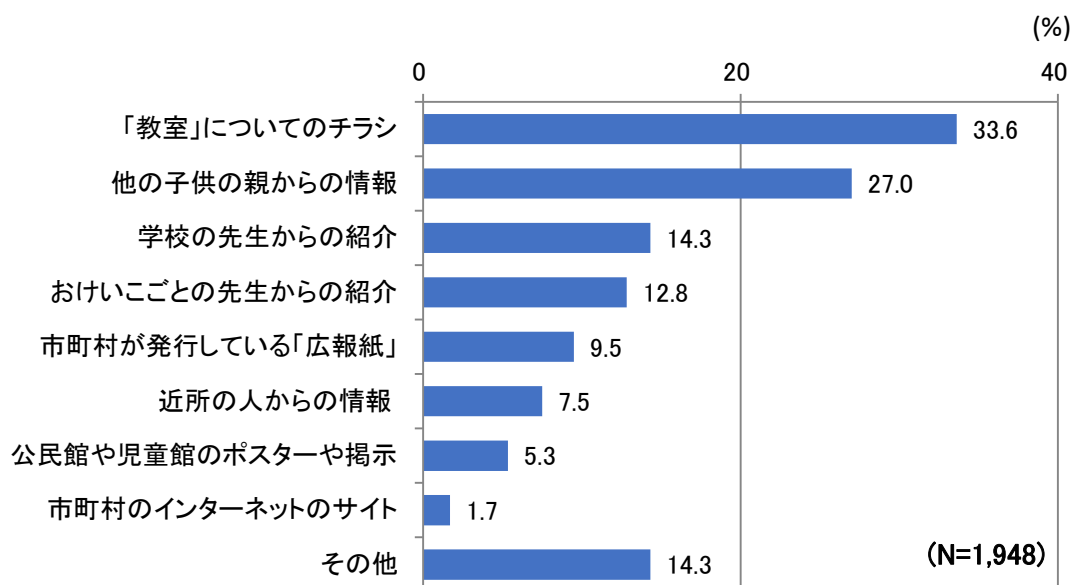
ここでは、保護者の立場から『教室』についての情報源「子供を参加させた理由」を整理する。

1) 「教室」についての情報源

保護者が、「教室」があることを知ったきっかけは、『教室』についてのチラシ（33.6%）「他の子供の親からの情報」（27.0%）の二つが、比較的高くなっている。次いで「学校の先生からの紹介」（14.3%）、「おけいこごとの先生からの紹介」（12.8%）、「市町村が発行している「広報紙」」（9.5%）の順に多い。

「教室」についてのチラシが主要媒体であることは間違いないが、すでに習っているとみられる「他の子供の親」や「学校の先生」などの口コミの影響も大きい。（図 3-4）

図 3-4. 【保護者調査】「教室」についての情報源（複数回答）（全体）

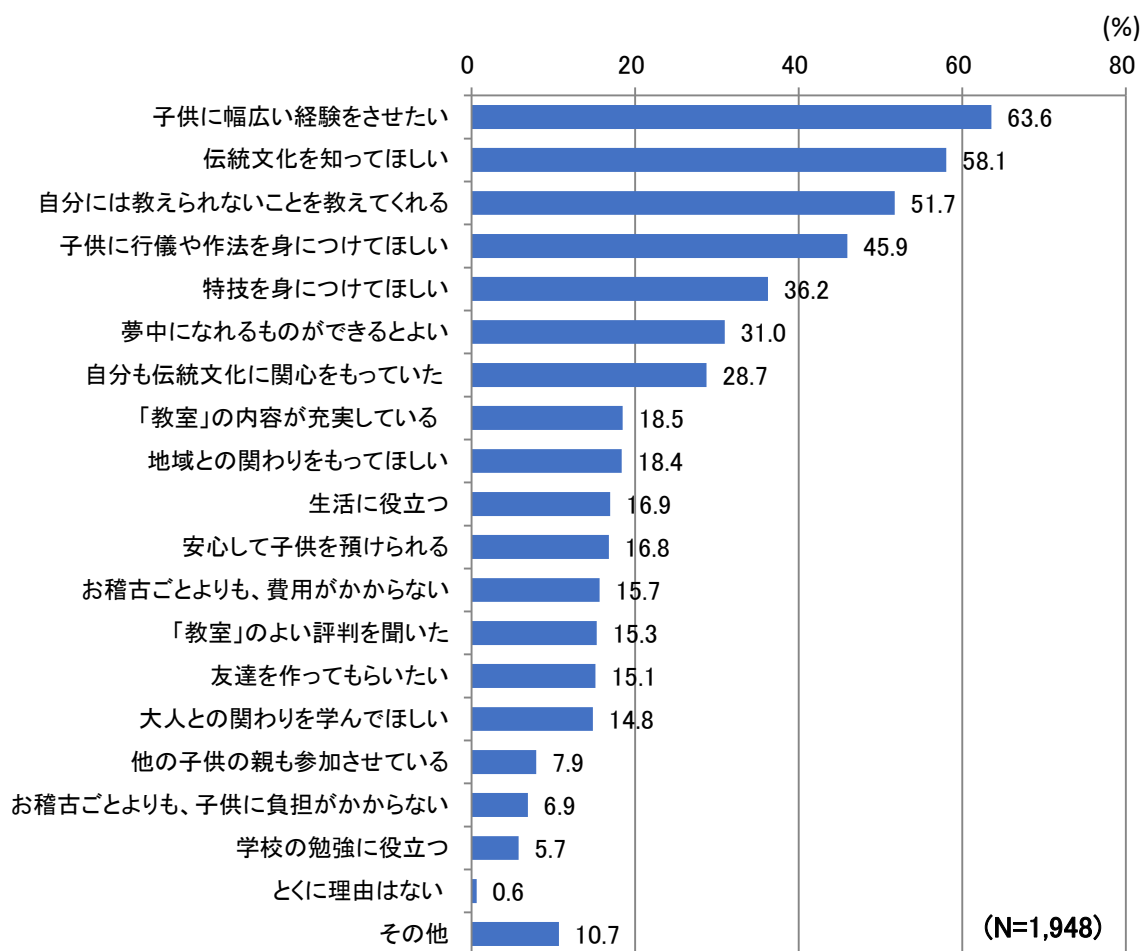


2) 子供を参加させた理由

保護者が子供を「教室」に参加させた理由では、「子供に幅広い経験をさせたい」(63.6%)、「伝統文化を知ってほしい」(58.1%)、「自分には教えられないことを教えてくれる」(51.7%)の三つが5割を超えている。次いで、「子供に行儀や作法を身につけてほしい」(45.9%)の順に高くなっている。(図3-5)

普段の生活や学校では経験することができない伝統文化の世界にふれさせることで、経験の幅を広げ、様々な知識や作法を身につけさせたいという動機がうかがえる。これらの動機は、子供の側から見た動機とは異なるものであり、その点では「教室」に対する子供の満足要素と、保護者の満足要素が異なってくる可能性も感じられる。

図3-5. 【保護者調査】子供を参加させた理由（複数回答）（全体）



本章で整理した参加の動機・理由ときっかけ（「参加のきっかけ」、「参加の動機」、「『教室』についての情報源」）の結果をまとめると、以下のようになる。

① 子供の「教室」参加のきっかけ

子供は、教室に通うことに関して自発的な意思をもつ以前に、主に「両親」「友達」に誘われて通い始める傾向が強い。男子は「両親」「兄弟」など家族の影響力が大きく、女子は「友達」の影響力が強いことも把握された。

② 子供の「教室」参加の動機

子供は「面白いこと・夢中になれることができそう」、「他人にはできないことができそう」という動機が多数を占めた。「面白いこと・夢中になれることができそう」、「友達ができそう」という「教室」での時間に対する期待は男子の特徴であり、「他人にはできないことができそう」「生活に役立ちそう」など、「教室」で学んだ結果に対する実利的な期待は女子の特徴であることが浮かび上がった。

③保護者が子供を「教室」に参加させた理由

保護者が子供を「教室」に「参加させた理由」は、「幅広い経験をさせたい」「伝統文化を知ってほしい」などの理由が多くを占め、学校とは異なる「教室」の教育的な効果を期待していることがわかった。

④保護者の「教室」に関する情報源

保護者にとって「教室」に関する情報源とは、『教室』についてのチラシと「他の子供の親」からの口コミ情報が大きいことがわかった。

4. 参加による子供の変化

「教室」に参加したことによる、子供たちの変化は、学習したことによる知識や技能の向上だけでなく、対人関係やマナーが身についたり、地域に対する関わり方や伝統文化への興味・関心が変化したりなど、副次的な効果も期待できるという面がある。この章では、子供自身、保護者、指導者、指導者＜放課後子供教室＞が、「教室」参加による子供の変化をどのような視点で評価しているかを見ていく。

(1) 子供自身の認識

「教室」に参加することで、自分がどのように変わったのかを、子供たち自身に質問した。24 の項目について、「とても、そう思う」「まあ、そう思う」「あまり、そう思わない」「ぜんぜん、そう思わない」の 4 段階で回答を求めた。(図 4-1)

変化したと自覚する項目は非常に多く、8 割以上の子供が「とても、そう思う」「まあ、そう思う」と答えた項目は、24 項目中 10 項目であった。

特に、「変化した」とする子供が目立っているのは、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」(95.8%)、「イ)習っていることが、面白く感じられるようになった」(94.8%) という学習の直接的効果を示す項目である。この 2 項目については、ほぼ全ての子供が変化を認めており、ほぼ全ての子供たちが「教室」に参加することで習っていることが上達したり、興味をもてたと実感できている。

3 番目に回答の多い項目は、「エ)挨拶ができたり、礼儀正しくなった」(88.1%) で、「オ)使ったものの後片付けを自分でするようになった」(86.3%・6 位) と合わせ、マナーや礼儀に関する項目も 85%以上が回答している。

4 番目に回答の多い項目は、「ネ)最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた」(86.7%) で、「ヌ)難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた」(84.1%・8 位)、「ニ)自分に自信が持てるようになった」(76.4%・16 位) と合わせ、精神面での進化についての自覚を示す回答も上位にある。

5 番目に多い回答は、「ナ)自分の楽しみが増えた」(87.2%) で、「教室」での体験が子供たちの楽しみにつながった様子がうかがえる。

また、「タ)すごい技能をもち、すばらしいと思える人を知った」(85.1%) と答えた子供の割合も 7 番目に多くっており、「教室」での体験を通して、人を尊敬する心が身についていることを示している。

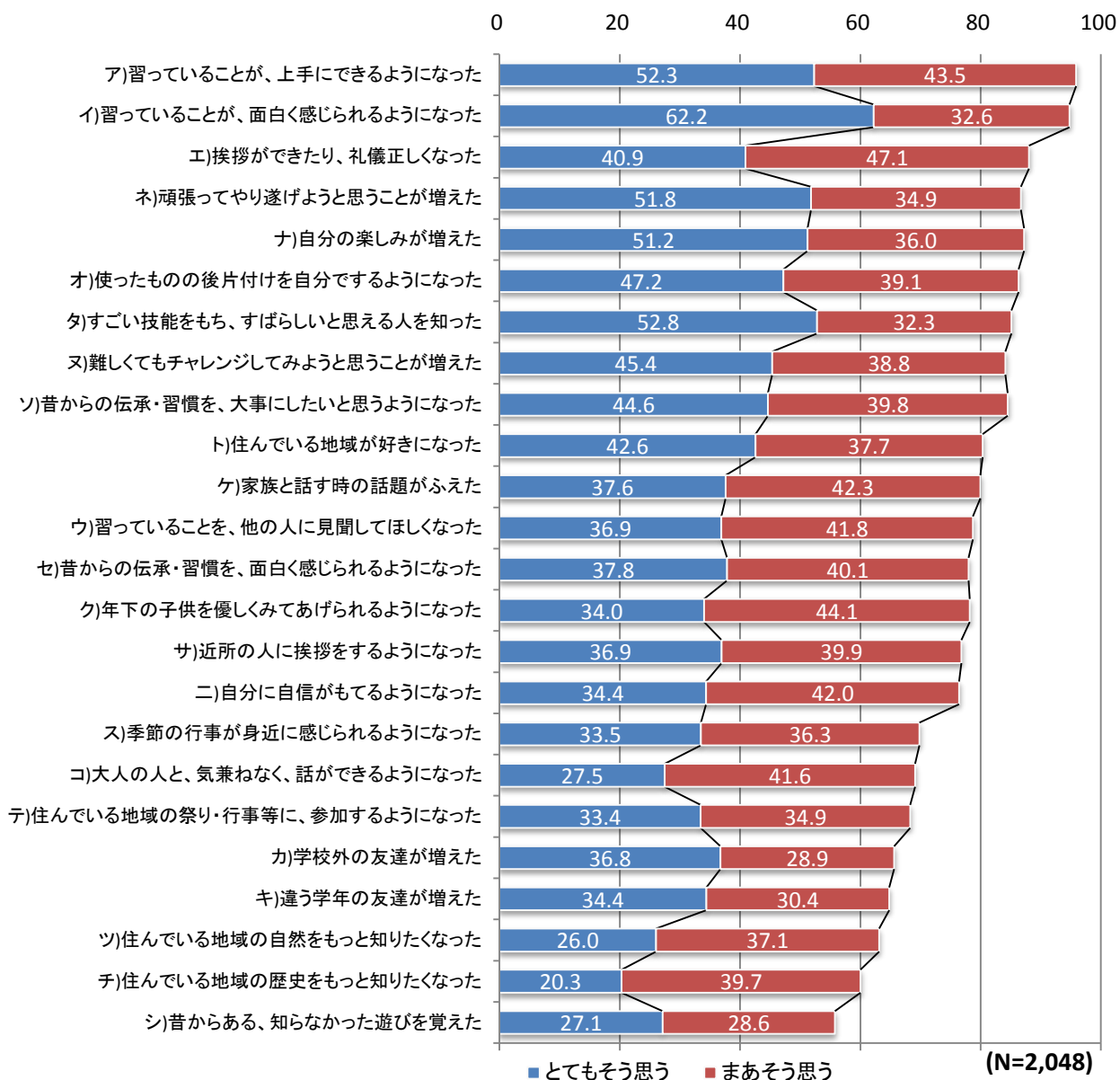
9 番目に多いのは、「ソ)昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」(84.4%) で、日本の伝統や独自の習慣を知ることが、子供自身にとって誇りとなる大切なものとして認識されるようになったことを示している。

「ト)住んでいる地域が好きになった」(80.3%) は 10 番目に多く回答され、「テ)住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった」(68.3%・19 位) と合わせて、「教室」に通うようになった効果として地域についての理解の増大も大きいことを示している。

11 番目に多く回答されたのは、「ケ)家族と話す時の話題が増えた」(79.9%) で、「ク)年下の子供を、優しくみてあげられるようになった」(78.2%・14 位) や、「サ)近所の人に挨拶をするようになった」(76.8%・15 位) と並んで対人関係を創り上げる効果が子供たちから評価されていることがわかる。

このように、「教室」に通うようになった自分自身が「変化した」と自覚する項目は多岐にわたっており、学習の直接的な成果以外にも副次的な要素について、評価されていることがうかがえる結果となっている。

図 4-1. 【子供調査】「教室」に参加したことによる変化（子供自身の認識）（全体）



続いて、「とてもそう思う」と答えた子供の割合を学年別及び性別に比較してみる。(表 4-1)

小学生と中学生の違いについてみていくと、中学生よりも小学生の回答割合が 5%以上高いのは、「シ)昔からある、知らなかった遊びを覚えた」「ト)住んでいる地域が好きになった」の 2 項目で、小学生に関しては、特に自分の住む地域に対する興味や理解が増していることがわかる。

一方、小学生よりも中学生の回答割合が 5%以上高いのは、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」「エ)挨拶ができたり、礼儀正しくなった」「オ)使ったものの後片付けを自分でするようになった」「カ)学校外の友達が増えた」「キ)違う学年の友達が増えた」「ク)年下の子供を優しくみてあげられるようになった」「コ)大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった」「ソ)昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」「タ)すごい技能をもち、すばらしいと思える人を知った」の 9 項目である。中学生においては、学習の直接的な効果に対する評価が大きく、また礼儀やマナーの向上の自覚もあり、さらに友達が増えたことについての評価も大きい。大人とのコミュニケーションや、優れた技能をもつ人物に対して敬意を払うような対人関係の向上といった点についても効果が大きいことを示している。

男女別に比較してみると、女子よりも男子の回答割合が 5%以上高いのは、「カ)学校外の友達が増えた」「キ)違う学年の友達が増えた」「自分に自信がもてるようになった」の 3 項目で、人間関係の広がりや精神面での進化について評価する傾向を示している。男子よりも女子の回答割合が 5%以上高いのは、「オ)使ったものの後片付けを自分でするようになった」「ス)季節の行事が身近に感じられるようになった」「セ)昔からの伝承・習慣を、面白く感じられるようになった」「ソ)昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」の 4 項目で、女子の場合には「教室」で習っていることの直接的な効果についての自覚や、日本の伝統や文化への興味や理解が大きいことを示している。

表 4-1. 【子供調査】「教室」に参加したことによる変化（子供自身の認識）（全体／学年／性別）

(%)

	全体 N=2,048	学年			性別		
		小学 高学年 N=1,457	中学生 N=581	無回答 N=10	男子 N=541	女子 N=1,496	無回答 N=11
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	52.1	50.0	58.2	50.0	52.9	52.1	54.5
イ) 習っていることが、面白く感じられるようになった	62.0	61.2	65.1	50.0	60.1	62.9	72.7
ウ) 習っていることを、他の人に見聞してほしくなった	36.7	36.7	37.2	40.0	34.9	37.5	45.5
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	40.7	37.4	49.7	40.0	42.5	40.2	54.5
オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった	47.2	45.8	51.3	10.0	40.1	49.9	36.4
カ) 学校外の友達が増えた	36.5	34.5	42.3	50.0	43.1	34.5	36.4
キ) 違う学年の友達が増えた	34.3	31.4	42.0	30.0	39.7	32.5	36.4
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	34.0	31.4	41.1	10.0	32.7	34.6	18.2
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	37.4	36.3	40.6	50.0	37.5	37.7	27.3
コ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった	27.4	24.8	34.3	20.0	30.3	26.5	18.2
サ) 近所の人に挨拶をするようになった	36.7	36.3	38.4	40.0	36.0	37.3	27.3
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	27.0	29.0	22.5	30.0	25.3	27.8	27.3
ス) 季節の行事が身近に感じられるようになった	33.3	34.3	31.5	30.0	25.3	36.5	27.3
セ) 昔からの伝承・習慣を、面白く感じられるようになった	37.6	37.4	38.7	50.0	31.2	40.4	18.2
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	44.5	42.8	49.4	30.0	39.6	46.5	36.4
タ) すごい技能をもち、すばらしいと思える人を知った	52.5	50.5	58.3	60.0	56.0	51.7	36.4
チ) 住んでいる地域の歴史をもっと知りたくなった	20.2	20.2	20.7	20.0	20.1	20.4	18.2
ツ) 住んでいる地域の自然をもっと知りたくなった	25.8	27.2	22.9	40.0	25.1	26.5	9.1
テ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	33.3	32.3	36.7	20.0	34.8	33.0	27.3
ト) 住んでいる地域が好きになった	42.3	44.1	38.7	50.0	42.5	42.6	45.5
ナ) 自分の楽しみが増えた	51.0	51.4	50.8	50.0	48.2	52.3	54.5
ニ) 自分に自信がもてるようになった	34.1	34.2	34.6	50.0	39.2	32.7	27.3
ヌ) 難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた	45.1	45.2	45.6	50.0	45.5	45.3	45.5
ネ) 最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた	51.6	51.4	52.8	50.0	52.3	51.7	36.4

注)「とてもそう思う」の割合

※網掛け部分:「小学校高学年」と「中学生」、あるいは「男子」と「女子」の間で5%以上の差があった項目

今度は、「とてもそう思う」と答えた子供の割合を、参加している「教室」の分野別に比較してみる。(表 4-2)

「民俗芸能」分野の「教室」に参加している子供が他の分野よりも高い項目は、「キ)違う学年の友達が増えた」「コ)大人の人と、気兼ねなく、話ができるようになった」「サ)近所の人に挨拶をするようになった」「テ)住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった」「ト)住んでいる地域が好きになった」の 4 項目で、大人や違う学年の友達との対人関係のあり方についての学びや、地域の歴史や文化に対する関心や理解の向上がみられる。これは「民俗芸能」の特徴であるとみることができる。

「古典芸能」分野の「教室」に参加している子供が他の分野よりも高い項目は、「イ)習っていることが、面白く感じられるようになった」「ウ)習っていることを、他の人に見聞してもらいたくなった」「エ)挨拶ができた、礼儀正しくなった」「シ)昔からある、知らなかった遊びを覚えた」「セ)昔からの伝承・習慣を、面白く感じられるようになった」「ソ)昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」「タ)すごい技能をもち、すばらしいと思える人を知った」「チ)住んでいる地域の歴史をもっと知りたくなった」「ナ)自分の楽しみが増えた」「ヌ)難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた」の 10 項目で、学習の直接効果の自覚や、それを発表したいという意欲の向上のほか、地域の歴史や文化に対する関心や理解の向上、精神面での強化など、多くの項目で評価されている。

「生活文化」分野の「教室」に参加している子供が他の分野よりも高い項目は、「オ)使ったものの後片付けを自分でするようになった」「ス)季節の行事が身近に感じられるようになった」の 2 項目で、精神面での強化や日本の伝統行事に対する興味の増大が評価されている。

「その他(伝統工芸・武道・昔の遊びや仕事)」の分野に参加している子供が他の分野よりも高い項目は、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」「カ)学校外の友達が増えた」「ク)年下の子供を優しくみてあげられるようになった」「ケ)家族と話す時の話題が増えた」「ツ)住んでいる地域の自然をもっと知りたくなった」「ニ)自分に自信がもてるようになった」「ネ)最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた」の 7 項目で、学習の直接効果の自覚や友達や年下の子との対人関係のあり方についての学び、精神面での強化などが評価されている。

表 4-2. 【子供調査】「教室」に参加したことによる変化（子供自身の認識）
（全体／参加している「教室」の分野別）

(%)

	全体 N=2,048	参加している教室の分野(大分類)			
		民俗芸能 N=305	古典芸能 N=440	生活文化 N=1244	その他 N=299
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	52.5	53.1	53.2	51.4	55.5
イ) 習っていることが、面白く感じられるようになった	62.2	57.7	64.5	63.0	59.9
ウ) 習っていることを、他の人に見聞してほしくなった	37.3	38.7	42.5	34.3	40.5
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	41.5	38.0	46.6	39.6	45.2
オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった	47.4	41.6	48.9	49.4	42.8
カ) 学校外の友達が増えた	37.5	42.0	43.6	32.0	46.5
キ) 違う学年の友達が増えた	35.4	46.6	40.9	28.2	45.8
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	35.2	37.4	37.0	32.0	43.8
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	37.2	39.3	39.5	33.9	45.2
コ) 大人のひとと、気兼ねなく、話ができるようになった	27.7	32.5	27.0	26.8	27.8
サ) 近所の人に挨拶をするようになった	36.6	38.4	36.6	36.6	35.1
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	27.4	24.3	31.1	27.4	25.4
ス) 季節の行事が身近に感じられるようになった	33.7	30.2	32.0	37.1	25.4
セ) 昔からの伝承・習慣を、面白く感じられるようになった	38.5	33.8	43.2	38.9	35.1
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	45.3	41.0	50.7	45.4	41.5
タ) すごい技能をもち、すばらしいと思える人を知った	52.9	50.5	60.7	50.2	54.8
チ) 住んでいる地域の歴史をもっと知りたくなった	20.3	21.6	23.4	18.3	22.4
ツ) 住んでいる地域の自然をもっと知りたくなった	26.4	24.6	25.2	26.6	29.1
テ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	33.8	56.7	34.3	29.1	29.4
ト) 住んでいる地域が好きになった	42.6	52.8	40.2	40.8	43.5
ナ) 自分の楽しみが増えた	51.4	48.9	53.4	51.8	48.8
ニ) 自分に自信がもてるようになった	34.5	35.1	36.6	31.6	43.1
ヌ) 難しくてもチャレンジしてみようと思うことが増えた	45.5	41.0	50.9	43.8	49.2
ネ) 最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた	52.3	48.9	56.8	49.7	60.2

注)「とてもそう思う」の割合

※網掛け部分:「とてもそう思う」の部分が最も高かった分野

(2) 保護者の認識

【保護者調査】の結果をもとに、「教室」に参加したことによる子供の変化を保護者がどのように認識しているかについてみていく。(図 4-2)

保護者においても、多くの項目で「教室」に参加することによる「子供の変化」が認められている。8割以上の保護者が「とても、そう思う」「まあ、そう思う」と答えた項目は、24項目中6項目であった。

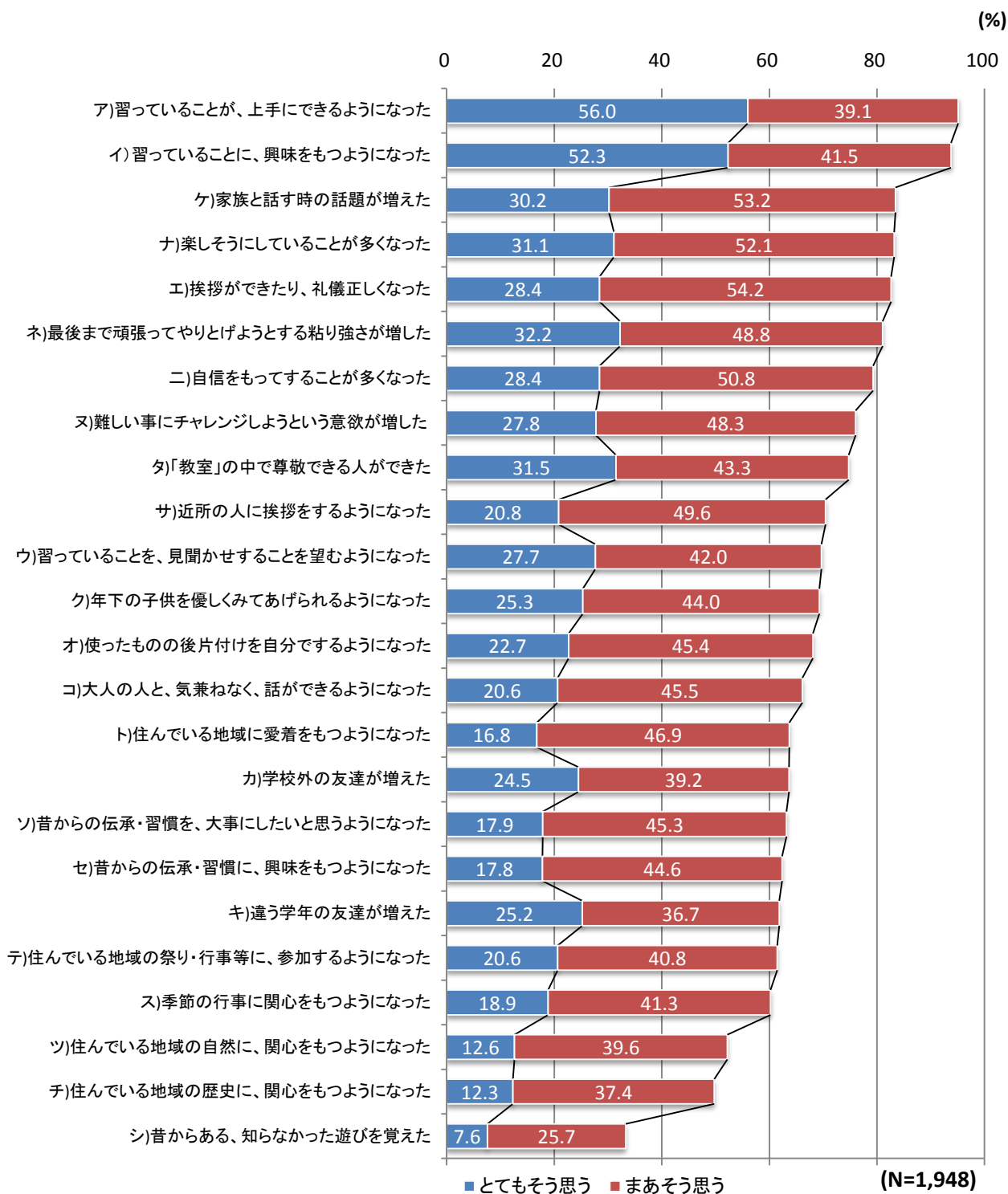
特に多くの保護者が認めている子供の変化は、子供自身の場合と同様、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」(95.1%)、「イ)習っていることに、興味をもつようになった」(93.8%)で、学習の結果に対する直接的な効果についての回答が上位にある。

3番目に多いのは、「ケ)家族と話す時の話題が増えた」(83.4%)で、「ナ)楽しそうにしていることが多くなった」(83.2%・4位)と合わせ、家庭生活の上での変化も評価されていることがわかる。

5番目に多い回答は「エ)挨拶ができたり、礼儀正しくなった」(82.6%)で、「ネ)最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増えた」(81.0%・6位)、「ニ)自信をもってすることが多くなった」(79.2%・7位)と合わせて、子供の精神面での成長も評価されている。

一方、相対的に変化が認められる割合が低いのは、「シ)昔からある、知らなかった遊びを覚えた」(33.3%)、「チ)住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」(49.7%)、「ツ)住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」(52.2%)、「ス)季節の行事に関心をもつようになった」(60.2%)などである。

図 4-2. 【保護者調査】「教室」に参加したことによる子供の変化（保護者の認識）（全体）



次に保護者から見た子供の変化を、子供の学年及び性別に比較してみる。(表 4-3)

これをみると、学年別では、小学生の保護者よりも中学生の保護者が、「教室」に参加したことによる子供の変化を多くの項目で認めている。「とても、そう思う」とする保護者の割合が、中学生の保護者よりも小学生の保護者の方が多いという項目は、存在しなかった。

小学生の保護者と中学生の保護者では、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」「イ)習っていることに、興味をもつようになった」「エ)挨拶ができたり、礼儀正しくなった」「オ)使ったものの後片付けをするようになった」「カ)学校外の友達が増えた」「キ)違う学年の友達が増えた」「ク)年下の子供を、優しくみてあげられるようになった」「ケ)家族と話す時の話題が増えた」「コ)大人の人と、気兼ねなく話をするようになった」「サ)近所の人に挨拶するようになった」「タ)「教室」の中で尊敬できる人ができた」「テ)住んでいる地域の祭り・行事等に参加するようになった」「ナ)楽しそうにしていることが多くなった」「ニ)自信をもってする事が多くなった」「ヌ)難しい事にチャレンジしようとする意欲が増した」「ネ)最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」の16項目について5%以上の開きがあった

男女別では、「カ)学校外の友達が増えた」「キ)違う学年の友達が増えた」「コ)大人の人と、気兼ねなく話をするようになった」「ス)季節の行事に関心をもつようになった」「ソ)昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」の5項目について、男女間で5%以上の開きがあった。

表 4-3. 【保護者調査】「教室」に参加したことによる子供の変化（保護者の認識）
(全体／子供の学年／子供の性別)

(%)

	全体 N=1,948	学年			性別		
		小学校 高学年 N=1,394	中学生 N=537	無回答 N=17	男子 N=510	女子 N=1,338	無回答 N=100
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	62.2	52.8	64.8	41.2	52.4	56.7	65.0
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	55.1	50.1	58.1	47.1	48.4	53.2	60.0
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	33.1	27.6	27.7	29.4	24.7	28.6	30.0
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	31.2	25.5	36.7	11.8	30.2	27.1	37.0
オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった	24.2	20.7	28.1	11.8	21.8	22.1	35.0
カ) 学校外の友達が増えた	34.4	21.6	32.4	11.8	28.6	22.4	31.0
キ) 違う学年の友達が増えた	36.4	21.9	34.1	17.6	31.2	22.6	30.0
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	32.1	22.5	33.0	11.8	27.8	24.2	27.0
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	33.0	28.7	33.9	35.3	31.4	28.9	41.0
コ) 大人の人と、気兼ねなく、話ができるようになった	25.7	17.6	28.9	11.8	24.1	18.8	27.0
サ) 近所の人に挨拶をするようになった	28.0	18.1	28.3	5.9	22.2	20.0	25.0
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	11.2	7.9	7.1	0.0	6.3	7.4	17.0
ス) 季節の行事に関心をもつようになった	18.5	19.0	18.4	23.5	12.9	20.7	25.0
セ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	19.9	17.9	17.5	23.5	13.9	18.3	31.0
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	18.7	17.4	19.2	17.6	12.7	18.8	31.0
タ) 「教室」の中で尊敬できる人ができた	37.5	27.6	41.9	17.6	32.2	30.6	40.0
チ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	16.9	11.4	14.9	5.9	12.2	11.7	21.0
ツ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	13.9	12.3	13.6	0.0	11.8	12.3	20.0
テ) 住んでいる地域の祭り・行事等に参加するようになった	35.3	17.9	28.3	5.9	22.0	20.2	20.0
ト) 住んでいる地域に愛着をもつようになった	25.4	15.7	20.1	0.0	16.1	16.7	21.0
ナ) 楽しそうにしていることが多くなった	37.6	29.9	35.0	5.9	33.7	29.4	40.0
ニ) 自信をもってすることが多くなった	37.9	26.6	33.7	11.8	28.6	27.5	40.0
ヌ) 難しい事にチャレンジしようとする意欲が増した	34.7	26.4	31.7	17.6	26.3	27.2	43.0
ネ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した	41.9	30.4	37.6	11.8	31.8	31.5	44.0

注)「とても、そう思う」の割合

※網掛け部分:「小学校高学年」と「中学生」、あるいは「男子」と「女子」の間で5%以上の差があった項目

さらに、「とてもそう思う」と答えた保護者の割合を、子供が参加している「教室」の分野別に比較してみる。(表 4-4)

「民俗芸能」分野の「教室」に参加している子供の保護者がみる子どもの変化の項目が他の分野よりも高いのは、「ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった」「カ) 学校外の友達が増えた」「キ) 違う学年の友達が増えた」「コ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった」「サ) 近所の人に挨拶をするようになった」「チ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」「テ) 住んでいる地域の祭り・行事等に参加するようになった」「ト) 住んでいる地域に愛着をもつようになった」「ナ) 楽しそうにしている事が多くなった」の 9 項目で、学習の効果を発表したいという意欲の向上のほか、「民俗芸能」の特徴である地域の歴史や文化に対する関心や理解の向上がみられる。

「古典芸能」分野の「教室」に参加している子供の保護者がみる子どもの変化の項目が他の分野よりも高いのは、「ア) 習っていることが、上手にできるようになった」「イ) 習っていることに、興味をもつようになった」「オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった」「セ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった」「ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」「タ) 「教室」の中で尊敬できる人ができた」「ツ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」「ニ) 自信をもってする事が多くなった」「ヌ) 難しい事にチャレンジしようとする意欲が増した」「ネ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した」の 10 項目で、学習の直接効果についての評価や礼儀やマナーの向上、伝承・習慣への関心の増加、学習意欲や人を尊敬するなどの精神的な成長といった幅広い評価がみられる。

「生活文化」分野の「教室」に参加している子供の保護者がみる子どもの変化の項目が他の分野よりも高いのは、「ス) 季節の行事に関心をもつようになった」の 1 項目で、季節の行事への関心の増加がみられる。

「その他 (伝統工芸・武道・昔の遊びや仕事)」の分野の「教室」に参加している子供の保護者で変化についての評価が高いのは、「エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった」「ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった」「ケ) 家での話題が増えた」「シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた」の 4 項目で、礼儀やマナーの向上、年下の子との対人関係のあり方などへの評価がみられる。

以上、みてきたように、「教室」での体験の特徴に沿った子供の変化がみられており、それに対する保護者の満足度や評価も高いとみることができる。

表 4-4. 【保護者調査】「教室」に参加したことによる子供の変化（保護者の認識）
（全体／参加している「教室」の分野別）

(%)

	合計 (N=1,948)	参加している「教室」の分野(大分類)			
		民俗芸能 N=305	古典芸能 N=425	生活文化 N=1,191	その他 N=310
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	55.8	52.8	60.0	55.9	52.3
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	52.4	48.5	55.1	53.1	49.7
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	28.3	32.5	29.2	26.6	29.4
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	28.3	29.8	32.5	25.2	32.9
オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった	22.6	21.0	27.1	21.2	23.5
カ) 学校外の友達が増えた	25.5	34.8	31.3	18.9	33.5
キ) 違う学年の友達が増えた	25.7	39.7	28.9	18.3	35.8
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	25.1	29.5	25.6	21.6	33.2
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	30.7	32.1	34.1	27.8	36.1
コ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった	20.8	30.5	22.8	17.0	22.9
サ) 近所の人に挨拶をするようになった	20.9	26.9	21.9	18.0	25.2
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	8.1	7.9	7.1	8.0	10.0
ス) 季節の行事に関心をもつようになった	19.1	15.4	17.6	20.7	19.0
セ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	18.3	16.7	20.2	18.2	17.4
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	17.9	16.4	20.7	17.1	18.7
タ) 「教室」の中で尊敬できる人ができた	32.0	34.1	42.1	26.8	36.1
チ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	12.8	19.0	16.0	10.3	11.9
ツ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	12.6	12.8	13.2	12.6	11.3
テ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	22.0	49.5	26.4	14.1	19.4
ト) 住んでいる地域に愛着をもつようになった	16.9	26.9	18.8	13.6	17.1
ナ) 楽しそうにしていることが多くなった	31.8	40.7	33.2	27.5	37.7
ニ) 自信をもってすることが多くなった	28.9	30.8	33.9	25.8	31.9
ヌ) 難しい事にチャレンジしようという意欲が増した	28.1	27.9	32.5	25.9	30.6
ネ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した	32.5	32.5	39.3	28.7	37.4

注)「とてもそう思う」の割合

※網掛け部分:「とてもそう思う」の割合が最も高かった分野

(3) 指導者の認識

「子供の変化」について、「教室」の指導に携わっている指導者が捉えた結果を整理してみる。(図 4-3)

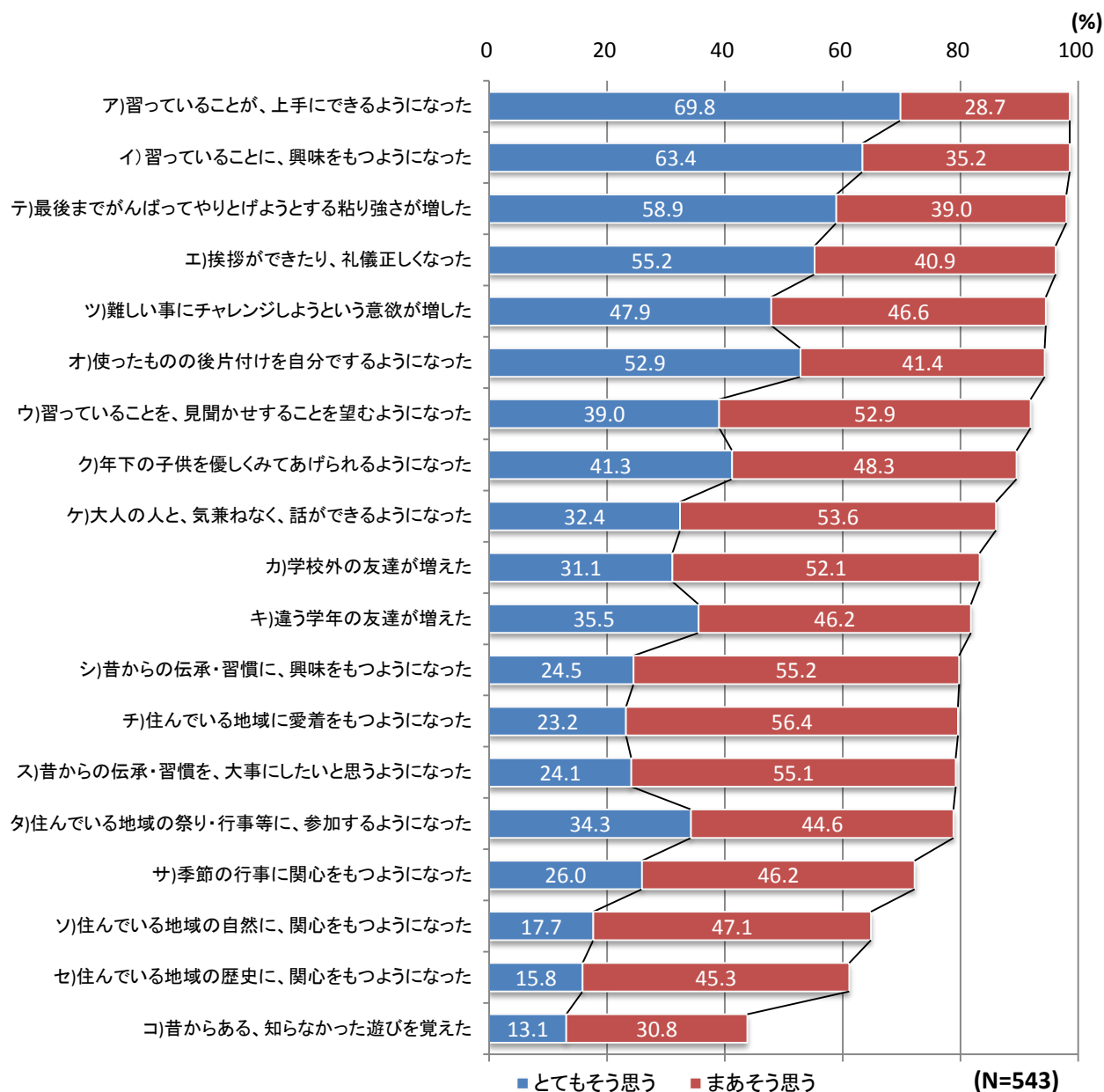
指導者においても、多くの項目で「教室」に参加することによる「子供の変化」が認められている。9 割以上の指導者が「とても、そう思う」「まあ、そう思う」と答えた項目は、19 項目中 7 項目であり、8 割以上では、11 項目に及んでいる。

多くの指導者が認める子供の変化は、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」(98.5%)、「イ)習っていることに、興味をもつようになった」(98.6%)である。さらに「テ)最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」(97.9%)、「エ)挨拶ができたり、礼儀正しくなった」(96.1%)、「ツ)難しい事にチャレンジしようという意欲が増した」(94.5%)、「オ)使ったものの後片付けを自分でするようになった」(94.3%)、「ウ)習っていることを、見聞かせすることを望むようになった」(91.9%)の回答が 90%を上回っており、「教室」での学習の直接的な効果の他に、礼儀やマナーの向上、精神面での成長が指導者によって評価されていることがわかる。

次いで指導者からみた子供の変化の認識が多いのは、「ク)年下の子供を、優しくみてあげられるようになった」(89.6%)、「ケ)大人の人と、気兼ねなく、話ができるようになった」(86.0%)など、人との関わり方に関するものや、「カ)学校外の友達が増えた」(83.2%)、「キ)違う学年の友達が増えた」(81.7%)など、良好な人間関係の構築に関する回答が続いている。

全体的に「変化した」とする割合が高いなかで、比較的回答割合が低いのは、「コ)昔からある、知らなかった遊びをするようになった」(43.9%)、「セ)住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」(61.1%)、「ソ)住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」(64.8%)、「サ)季節の行事に関心をもつようになった」(72.2%)、などであった。地域の祭りや行事等への参加は、子供自身や保護者からは変化の要素として一定割合挙げられているが、地域の歴史や自然に対する関心を高めるという点では、まだまだ変化をさせるには至っていない現状がある。

図 4-3. 【指導者調査】「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体）



次に、指導者から見た子供の変化を、指導者の年齢及び性別に比較してみる。(表 4-5)

これをみると、年齢の若い「30 歳代以下 (～39 歳)」の指導者において「とても、そう思う」とする割合が高い項目が多い。若い指導者は、「教室」に参加したことによる子供の変化を多様な面から捉えている傾向がみえる。

「30 歳代以下 (～39 歳)」の指導者が他の年代の指導者よりも多く認める子供の変化は、「ア)習っていることが、上手にできるようになった」「イ) 習っていることに、興味をもつようになった」「カ)学校外の友達が増えた」「キ)違う学年の友達が増えた」「ク)年下の子供を優しくみてあげられるようになった」「ケ)大人のひとと、気兼ねなく、話ができるようになった」「コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった」「セ)住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」「ソ)住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」「タ)住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった」「チ)住んでいる地域に愛着をもつようになった」の 11 項目である。

これに対し、「40 歳代 (40～49 歳)」の指導者が他の年代の指導者よりも多く認める子供の変化は、「ス)昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」の 1 項目にとどまった。

指導者の年代別の比較では、50 歳以上の年代が 40 歳代以下の年代よりも回答の割合が多い項目は、(50～59 歳)の「エ)挨拶ができたり、礼儀正しくなった」「テ)最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」、(60～69 歳)の「オ)使ったものの後片付けを自分でするようになった」「シ)昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった」「ツ)難しい事にチャレンジしようという意欲が増した」、(70～79 歳)の「ウ)習っていることを、見聞かせすることを望むようになった」「サ)季節の行事に関心をもつようになった」であった。50 歳以上の指導者は、礼儀やマナーの向上、精神面での成長についての評価が高い。

また男女別の違いを見ると、男性よりも女性の指導者の方が子供の変化を捉えている項目が多く、19 項目中 12 項目で、「とても、そう思う」と答えた女性の指導者の割合が、男性の指導者の割合より高くなっている。

女性の指導者が捉える「変化」の項目では、「教室」での体験の直接的な効果の他、礼儀やマナー、友達関係などの人間関係の拡大、家族や近所の人との関わりなど大人との人間関係の構築、伝統や伝承・習慣に関する関心や理解の高まり、精神面での成長などで、多様な側面から子供たちの変化の大きさを捉えている。

女性よりも男性の指導者の方が変化を答えた割合が高かったのは、「カ)学校外の友達が増えた」「キ) 違う学年の友達が増えた」「ク)年下の子供を優しくみてあげられるようになった」「ケ)大人のひとと、気兼ねなく、話ができるようになった」「コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった」「タ) 住んでいる地域の祭り・行事等に参加するようになった」「チ)住んでいる地域に愛着をもつようになった」の 7 項目で、交友関係、大人、地域との関わりについての評価が高いのが特徴である。

表 4-5. 【指導者調査】「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）
（全体／指導者の年齢／性別）

(%)

	合計 (N=543)	指導者の年齢						性別		
		～39歳 (N= 41)	40歳～49 歳(N= 91)	50歳～59 歳(N=104)	60歳～69 歳(N=130)	70歳～ (N=169)	無回答 (N= 8)	男性 (N=135)	女性 (N=402)	無回答 (N=6)
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	69.8	80.5	69.2	74.0	65.4	69.8	37.5	58.5	74.1	33.3
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	63.4	65.9	61.5	60.6	65.4	65.7	25.0	54.1	66.9	33.3
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	39.0	39.0	39.6	33.7	37.7	44.4	12.5	36.3	40.3	16.7
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	55.2	58.5	56.0	58.7	55.4	53.3	25.0	48.1	58.0	33.3
オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった	52.9	56.1	53.8	50.0	58.5	50.3	25.0	41.5	57.2	16.7
カ) 学校外の友達が増えた	31.1	39.0	31.9	30.8	30.0	30.2	25.0	35.6	29.9	16.7
キ) 違う学年の友達が増えた	35.5	53.7	41.8	34.6	32.3	32.0	12.5	45.2	32.8	0.0
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	41.3	48.8	42.9	39.4	36.9	43.2	37.5	41.5	41.3	33.3
ケ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった	32.4	36.6	34.1	26.9	33.1	33.7	25.0	37.8	30.8	16.7
コ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	13.1	22.0	15.4	13.5	11.5	11.2	0.0	13.3	13.2	0.0
サ) 季節の行事に関心をもつようになった	26.0	19.5	26.4	22.1	23.1	32.5	12.5	12.6	30.6	16.7
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	24.5	24.4	24.2	22.1	27.7	23.7	25.0	17.8	26.6	33.3
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	24.1	26.8	27.5	22.1	23.1	23.7	25.0	19.3	25.6	33.3
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	15.8	24.4	16.5	11.5	19.2	13.6	12.5	14.8	16.2	16.7
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	17.7	24.4	14.3	15.4	17.7	18.9	25.0	10.4	19.9	33.3
タ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	34.3	39.0	26.4	37.5	34.6	36.1	12.5	37.0	33.6	16.7
チ) 住んでいる地域に愛着をもつようになった	23.2	26.8	18.7	20.2	23.8	26.6	12.5	23.7	23.1	16.7
ツ) 難しい事にチャレンジしようという意欲が増した	47.9	48.8	51.6	47.1	53.1	43.2	25.0	43.7	49.5	33.3
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した	58.9	61.0	57.1	64.4	60.0	56.8	25.0	55.6	60.4	33.3

注)「とてもそう思う」の割合

※網掛け部分:「とてもそう思う」の割合が最も高かった分野

さらに、「とてもそう思う」と答えた指導者の割合を、「教室」の分野別に比較してみる。(表 4-6)

「民俗芸能」の指導者からみた子供の変化の項目で「とてもそう思う」の回答が多いのは、「ケ) 大人のひと、気兼ねなく話をするようになった」の人間関係の拡大に関するものと、「タ) 住んでいる地域の祭り・行事等に参加するようになった」「チ) 住んでいる地域に愛着をもつようになった」の3項目であり、地域との関わりの上で興味や理解の増大についての項目が挙げられている。

「古典芸能」の指導者からみた子供の変化の項目で「とてもそう思う」の回答が多いのは、「ア) 習っていることが、上手にできるようになった」「イ) 習っていることに、興味をもつようになった」という教室での体験そのものの効果に関する項目や、「エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった」「オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった」というマナーや礼儀に関する項目、「ツ) 難しい事にチャレンジしようという意欲が増した」「テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した」という精神的成長に関する項目が挙げられている。

「生活文化」の指導者からみた子供の変化の項目で「とてもそう思う」の回答は、「コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった」「サ) 季節の行事に関心をもつようになった」「ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」といった伝統行事や自然などへの関心についての項目が挙げられている。

「その他」の指導者からみた子供の変化の項目で「とてもそう思う」の回答は、「カ) 学校外の友達が増えた」「キ) 違う学年の友達が増えた」の交友関係の拡大に関するものと、「シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった」「ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」といった歴史や伝承への関心についての項目が挙げられている。

表 4-6. 【指導者調査】「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）
（全体／指導している「教室」の分野別）

(%)

	合計 (N=543)	参加している「教室」の分野(大分類)			
		民俗芸能 N=94	古典芸能 N=124	生活文化 N=323	その他 N=62
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	70.6	69.1	83.1	68.4	59.7
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	63.5	50.0	73.4	67.5	43.5
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	39.5	47.9	50.0	34.4	32.3
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	55.2	39.4	66.9	55.4	54.8
オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった	52.1	30.9	60.5	56.0	46.8
カ) 学校外の友達が増えた	31.8	27.7	37.1	28.8	43.5
キ) 違う学年の友達が増えた	36.5	41.5	41.1	31.6	45.2
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	41.3	42.6	46.0	39.6	38.7
ケ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった	32.7	40.4	32.3	32.2	24.2
コ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	13.6	6.4	14.5	15.5	12.9
サ) 季節の行事に関心をもつようになった	26.0	9.6	20.2	33.4	24.2
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	26.0	13.8	26.6	27.6	35.5
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	25.7	18.1	30.6	24.1	35.5
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	17.7	20.2	24.2	13.6	22.6
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	18.6	12.8	16.1	22.0	14.5
タ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	35.7	62.8	39.5	28.8	22.6
チ) 住んでいる地域に愛着をもつようになった	23.4	30.9	21.8	21.4	25.8
ツ) 難しい事にチャレンジしようという意欲が増した	50.1	44.7	61.3	47.4	50.0
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した	59.5	48.9	67.7	59.1	61.3

注)「とてもそう思う」の割合

※網掛け部分:「とてもそう思う」の割合が最も高かった分野

(4) 指導者＜放課後子供教室＞の認識

「子供の変化」について、放課後子供教室の「教室」の指導者が捉えた結果を整理してみる。(図 4-4)

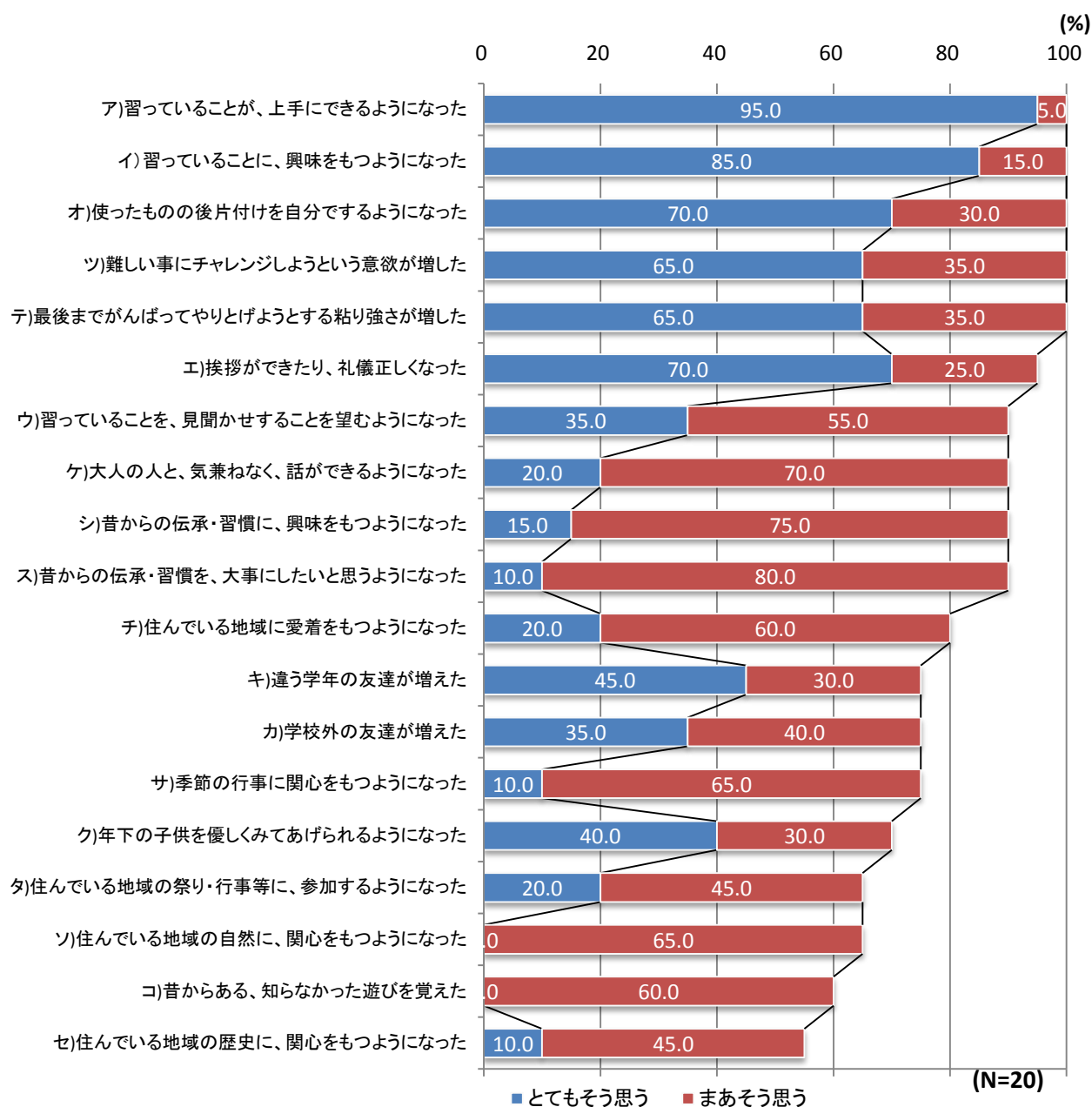
放課後子供教室の指導者においても、多くの項目で「教室」に参加することによる「子供の変化」が認められている 90%以上の指導者が「とても、そう思う」「まあ、そう思う」と答えた項目は、19 項目中 10 項目であり、80%以上は全部で 11 項目になる。

多くの指導者が認める子供の変化は、「ア) 習っていることが、上手にできるようになった」(100.0%)、「イ) 習っていることに、興味をもつようになった」(100.0%)、「オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった」(100.0%)、「ツ) 難しいことにチャレンジしようという意欲が増した」(100.0%)、「テ) 最後まで頑張つてやり遂げようとする粘り強さが増した」(100.0%)である。さらに、「エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった」(95.0%)、「ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった」(90.0%)、「ケ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった」(90.0%)、「シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった」(90.0%)、「ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった」(90.0%)の項目で、「とても、そう思う」「まあ、そう思う」の割合が 90%を上回っている。学習の直接的な効果の他に、精神面での成長や礼儀やマナーの向上、人間関係の構築力などが指導者によって評価されていることがわかる。

全体的に「変化した」とする割合が高いなかで、比較的回答割合が低いのは、「セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった」(55.0%)、「コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった」(60.0%)、「ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった」(65.0%)、「タ) 住んでいる地域の祭り・行事等に参加するようになった」(65.0%)、などであった。地域の歴史や自然に対する関心については、まだまだ関心の高まりを感じられるに至っていない現状がある。

図 4-4. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】

「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体）



次に、指導者から見た子供の変化を、放課後子供教室動の指導者の年齢及び性別に比較してみる。(表 4-7)

各年齢層の指導者の数が少ないため、結果の数値から傾向について判断することは難しいが、参考として表に結果を示した。年齢別の傾向としては、「30 歳代以下 (～39 歳)」、「60 歳以上 (60 歳～)」の指導者の方が、生徒の変化について「とても、そう思う」と回答した割合の高い項目が多いようである。

男女別にみると、男性よりも女性の回答割合が高くなっており、今回は女性の指導者の方が子供の変化に敏感であるという傾向が読み取れた。

表 4-7. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】

「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体／指導者の年齢／性別）

(%)

	合計 (N=20)	指導者の年齢						性別		
		～39歳 (N=3)	40歳～49 歳 (N=2)	50歳～59 歳 (N=6)	60歳～69 歳 (N=4)	70歳～ (N=5)	無回答 (N=0)	男性 (N=3)	女性 (N=17)	無回答 (N=0)
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	95.0	100.0	100.0	83.3	100.0	100.0	0.0	66.7	100.0	0.0
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	85.0	100.0	50.0	66.7	100.0	100.0	0.0	33.3	94.1	0.0
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	35.0	33.3	0.0	16.7	50.0	60.0	0.0	33.3	35.3	0.0
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	70.0	66.7	0.0	66.7	100.0	80.0	0.0	33.3	76.5	0.0
オ) 使ったものの後片付けを自分でできるようになった	70.0	66.7	50.0	50.0	75.0	100.0	0.0	66.7	70.6	0.0
カ) 学校外の友達が増えた	35.0	66.7	0.0	33.3	50.0	20.0	0.0	33.3	35.3	0.0
キ) 違う学年の友達が増えた	45.0	100.0	0.0	50.0	75.0	0.0	0.0	33.3	47.1	0.0
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	40.0	66.7	0.0	33.3	75.0	20.0	0.0	33.3	41.2	0.0
ケ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった	20.0	0.0	50.0	16.7	25.0	20.0	0.0	33.3	17.6	0.0
コ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サ) 季節の行事に関心をもつようになった	10.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	15.0	0.0	0.0	16.7	50.0	0.0	0.0	0.0	17.6	0.0
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	10.0	0.0	0.0	16.7	25.0	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	10.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	5.9	0.0
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
タ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	20.0	0.0	0.0	33.3	50.0	0.0	0.0	33.3	17.6	0.0
チ) 住んでいる地域に愛着をもつようになった	20.0	0.0	0.0	33.3	0.0	40.0	0.0	33.3	17.6	0.0
ツ) 難しい事にチャレンジしようという意欲が増した	65.0	66.7	50.0	33.3	100.0	80.0	0.0	33.3	70.6	0.0
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した	65.0	66.7	50.0	33.3	100.0	80.0	0.0	33.3	70.6	0.0

注)「とてもそう思う」の割合

さらに、「とてもそう思う」と答えた指導者の割合を、放課後子供教室の「教室」の分野別に比較してみる。

(表 4-8)

回答者数が「伝統文化親子教室」事業に比べてかなり少ないうえ、指導内容の半分以上が「着物の着付けや作法」「茶道・華道」「書道」の生活文化分野に集中しているため、放課後子供教室の「教室」の分野別に分析することは困難である。ここでは参考に結果の表を示しておく。

表 4-8. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】

「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識）（全体／指導している「教室」の分野別）

(%)

	合計 N=20	参加している「教室」の分野(大分類)			
		民俗芸能 N=0	古典芸能 N=6	生活文化 N=12	その他 N=3
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	95.2	0.0	100.0	91.7	100.0
イ) 習っていることに、興味をもつようになった	85.7	0.0	100.0	83.3	66.7
ウ) 習っていることを、見聞かせすることを望むようになった	33.3	0.0	83.3	8.3	33.3
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	66.7	0.0	66.7	66.7	66.7
オ) 使ったものの後片付けを自分でするようになった	66.7	0.0	50.0	83.3	33.3
カ) 学校外の友達が増えた	33.3	0.0	16.7	33.3	66.7
キ) 違う学年の友達が増えた	42.9	0.0	50.0	33.3	66.7
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	38.1	0.0	50.0	33.3	33.3
ケ) 大人のひと、気兼ねなく、話ができるようになった	19.0	0.0	33.3	8.3	33.3
コ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
サ) 季節の行事に関心をもつようになった	9.5	0.0	16.7	8.3	0.0
シ) 昔からの伝承・習慣に、興味をもつようになった	14.3	0.0	16.7	16.7	0.0
ス) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	9.5	0.0	16.7	8.3	0.0
セ) 住んでいる地域の歴史に、関心をもつようになった	9.5	0.0	0.0	8.3	33.3
ソ) 住んでいる地域の自然に、関心をもつようになった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
タ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	19.0	0.0	16.7	16.7	33.3
チ) 住んでいる地域に愛着をもつようになった	19.0	0.0	0.0	16.7	66.7
ツ) 難しい事にチャレンジしようという意欲が増した	66.7	0.0	66.7	66.7	66.7
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した	66.7	0.0	66.7	66.7	66.7

注)「とてもそう思う」の割合

※網掛け部分:「とてもそう思う」の割合が最も高かった分野

(5) 子供自身からみた変化と保護者、指導者からみた変化

「教室」に通うことによる子供の変化について、これまで見てきたように、子供自身からみた場合と、保護者、指導者、指導者＜放課後子供教室＞からみた場合とでは、評価が異なっている。（表 4-9）

この表は、【子供調査】による子供自身の変化の認識と、【保護者調査】による保護者の立場からの子供の変化の認識、さらには【指導者調査】と【指導者調査＜放課後子供教室＞】による指導者の立場からの子供の变化について評価を比べている。『とてもそう思う』の割合の数値の網掛けは、4 者のうち、「とても、そう思う」の割合が最も高い回答者で、表の右側には、回答者ごとに割合の高い順位を示した。

4 者に共通して変化を認める順位が高いのは、「ア）習っていることが、上手にできるようになった」「イ）習っていることに、興味をもつようになった」などの学習による技術の上達や興味の増加に関する項目と、「ネ）最後まで頑張ってやり遂げようとする粘り強さが増した」という精神面の成長に関する項目である。

一方、子供自身は、「教室」での学習の直接的な効果よりも、人間関係や大人との交流、伝統や地域に対する意識の目覚めなどを変化と認める傾向が他の 3 者に比べて強い。それに対し、指導者は、学習の直接的な効果（習っていることの上達）や、マナーやルールの遵守面において子供の変化を認める傾向にある。また、保護者は他の 3 者と比べ、子供の変化を認める割合が低い傾向にある。

表 4-9. 【子供調査】【保護者調査】【指導者調査】

【指導者調査＜放課後子供教室＞】

子供自身からみた変化と保護者、指導者、指導者＜放課後子供教室＞からみた変化（全体の比較）

	「とてもそう思う」の割合 (%)				順位			
	子供 N=2,048	保護者 N=1,948	指導者 N=543	指導者 ＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞ N=20	子供	保護者	指導者	指導者 ＜放課後子供教室・土曜日の教育活動＞
ア) 習っていることが、上手にできるようになった	52.1	56.0	69.8	95.2	3	1	1	1
イ) 習っていることが、面白く感じられるようになった	62.0	52.3	63.4	85.7	1	2	2	2
ウ) 習っていることを、他の人に見聞してほしくなった	36.7	27.7	39.0	33.3	14	10	8	9
エ) 挨拶ができたり、礼儀正しくなった	40.7	28.4	55.2	66.7	10	7	4	3
オ) 使ったものの後片付けを自分でできるようになった	47.2	22.7	52.9	66.7	6	14	5	3
カ) 学校外の友達が増えた	36.5	24.5	31.1	33.3	15	13	12	9
キ) 違う学年の友達が増えた	34.3	25.2	35.5	42.9	16	12	9	7
ク) 年下の子供を優しくみてあげられるようになった	34.0	25.3	41.3	38.1	18	11	7	8
ケ) 家族と話す時の話題が増えた	37.4	30.2	-	-	12	6	-	-
コ) 大人の人と、気兼ねなく、話ができるようになった	27.4	20.6	32.4	19.0	21	17	11	11
サ) 近所の人に挨拶をするようになった	36.7	20.8	-	-	13	15	-	-
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚えた	27.0	7.6	13.1	0.0	22	24	19	18
ス) 季節の行事が身近に感じられるようになった	33.3	18.9	26.0	9.5	19	18	13	15
セ) 昔からの伝承・習慣を、面白く感じられるようになった	37.6	17.8	24.5	14.3	11	20	14	14
ソ) 昔からの伝承・習慣を、大事にしたいと思うようになった	44.5	17.9	24.1	9.5	8	19	15	15
タ) すごい技能をもち、すばらしいと思える人を知った	52.5	31.5	-	-	2	4	-	-
チ) 住んでいる地域の歴史をもっと知りたくなった	20.2	12.3	15.8	9.5	24	23	18	15
ツ) 住んでいる地域の自然をもっと知りたくなった	25.8	12.6	17.7	0.0	23	22	17	18
テ) 住んでいる地域の祭り・行事等に、参加するようになった	33.3	20.6	34.3	19.0	20	16	10	11
ト) 住んでいる地域が好きになった	42.3	16.8	23.2	19.0	9	21	16	11
ナ) 自分の楽しみが増えた	51.0	31.1	-	-	5	5	-	-
ニ) 自分に自信がもてるようになった	34.1	28.4	-	-	17	8	-	-
ヌ) 難しくてチャレンジしてみようと思うことが増えた	45.1	27.8	47.9	66.7	7	9	6	3
ネ) 最後まで頑張ってやり遂げようと思うことが増えた	51.6	32.2	58.9	66.7	4	3	3	3

注)「とてもそう思う」の割合

※網掛け部分：4 者のうち「とてもそう思う」の割合が最も高い回答者

5. 「伝統文化親子教室」事業の意義

本調査の目的は、この事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、この事業の実施効果を把握しようとするものである。子供たちの変化については、あくまでも子供、保護者、指導者、指導者＜放課後子供教室＞、それぞれの視点からの評価を、前章において分析してきた。

ここでは、保護者や指導者や指導者＜放課後子供教室＞がこの事業について、どのような意義を感じているのか、この事業とその意義についての保護者、指導者、指導者＜放課後子供教室＞の見方・考え方について、結果を整理する。

(1) 保護者の立場から

1) 「伝統文化」についての保護者の考え

調査結果にみるように、子供が「教室」に参加するのは子供の自主的行動ではなく、「両親」がきっかけとなっているケースが多い。その「鍵」を握る保護者が「伝統文化」についてどのように考えているかを知することは非常に重要である。「伝統文化親子教室」事業は、保護者の「伝統文化」についての考えに影響を受けるといっても過言ではない。

「伝統文化」についての考えを、保護者に聞いた結果を整理した。(図 5-1)

これをみると、ほぼ全ての保護者が伝統文化の保存・継承に必要性を感じている。「ア）伝統文化は、守り、残していく必要がある」では、80.4%が「とても、そう思う」と答え、ほぼ全員（97.6%）が「そう思う」（「とても、そう思う」「まあ、そう思う」の割合の合計）と回答した。

「イ）伝統文化を守り、伝えていくのは若い人の役割である」では、「とても、そう思う」（44.3%）と「まあ、そう思う」（44.5%）とに分かれるものの、合計では88.8%が、伝統文化を守り・伝えていく役割が若い人にあると考えている。

「ウ）伝統文化は、私たちの誇りである」では、「とても、そう思う」（59.5%）と「まあ、そう思う」（34.6%）とに分かれるものの、合計では94.1%が、伝統文化を自分たちの誇りと捉えている。

一方、「エ）伝統文化は、すでに過去のものになっている」では、「そう思う」と回答する保護者が、15.0%とわずかで、「あまり、そう思わない」（47.0%）、「まったく、そう思わない」（35.5%）の方が大きく上回っている。保護者は「伝統文化」に好意的であるが、「オ）伝統文化は、時代に合わせて変わっていく必要がある」に関しては、賛否が分かれるところとなっている。この点に関しては、変化の内容や方向性によって賛否が分かれるものと推量される場所である。

また、子供が参加している「教室」の分野別に、保護者の「伝統文化」についての考え方を整理した。(表 5-1)

「ア）伝統文化は、守り、残していく必要がある」「イ）伝統文化を守り、伝えていくのは若い人の役割である」「ウ）伝統文化は、私たちの誇りである」について「とても、そう思う」と答えた割合が高いのは、「古典芸能」の「教室」に子供を参加させている保護者である。

「エ）伝統文化は、すでに過去のものになっている」について「とても、そう思う」「まあ、そう思う」と答えた割合が多いのは、「古典芸能」の「教室」に子供を参加させている保護者である。また、「オ）伝統文化は、時代に合わせて変わっていく必要がある」について「とても、そう思う」「まあ、そう思う」と答えた割合が多いのは、「民俗芸能」の「教室」に子供を参加させている保護者である。

図 5-1. 【保護者調査】「伝統文化」についての考え（全体）

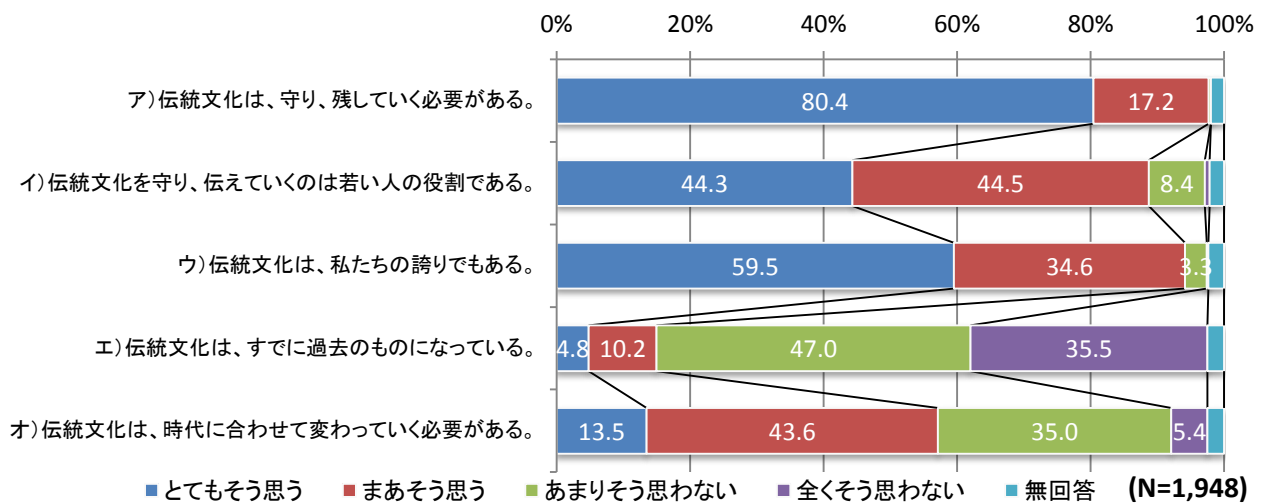


表 5-1. 【保護者調査】「伝統文化」についての考え（子供が参加している「教室」の分野別）

	合計 (N=1,948)	子供が参加している「教室」の分野(大分類)			
		民俗芸能 N=305	古典芸能 N=425	生活文化 N=1,191	その他 N=310
ア) 伝統文化は、守り、残していく必要がある。	80.4	79.0	82.8	80.3	76.8
イ) 伝統文化を守り、伝えていくのは若い人の役割である。	44.3	44.6	51.3	42.7	43.9
ウ) 伝統文化は、私たちの誇りでもある。	59.5	54.8	65.6	59.2	57.7
エ) 伝統文化は、すでに過去のものになっている。	4.8	5.2	5.4	4.5	5.2
オ) 伝統文化は、時代に合わせて変わっていく必要がある。	13.5	14.1	13.2	13.1	11.6

注)「ア」～「ウ」:「とてもそう思う」と答えた人の割合

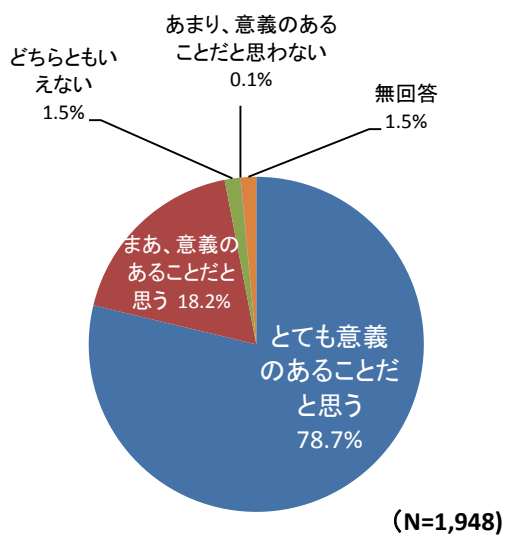
「エ」「オ」:「とてもそう思う」または「まあそう思う」と答えた人の割合

2) 保護者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義

「伝統文化親子教室」事業が、どの程度意義のあるものかについて、保護者に尋ねた結果を示す。(図 5-2)

「伝統文化親子教室」事業について、8 割弱 (78.7%) の保護者が「とても意義のあることだと思う」と回答している。「まあ、意義のあることだと思う」(18.2%) を加えると、ほぼ全て (96.9%) の保護者が事業に「意義がある」としており、高い評価結果を示している。

図 5-2. 【保護者調査】保護者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義 (全体)



(2) 指導者の立場から

1) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割

続いて、指導者がこの事業の意義をどのように捉えているのか整理する。(図 5-3)

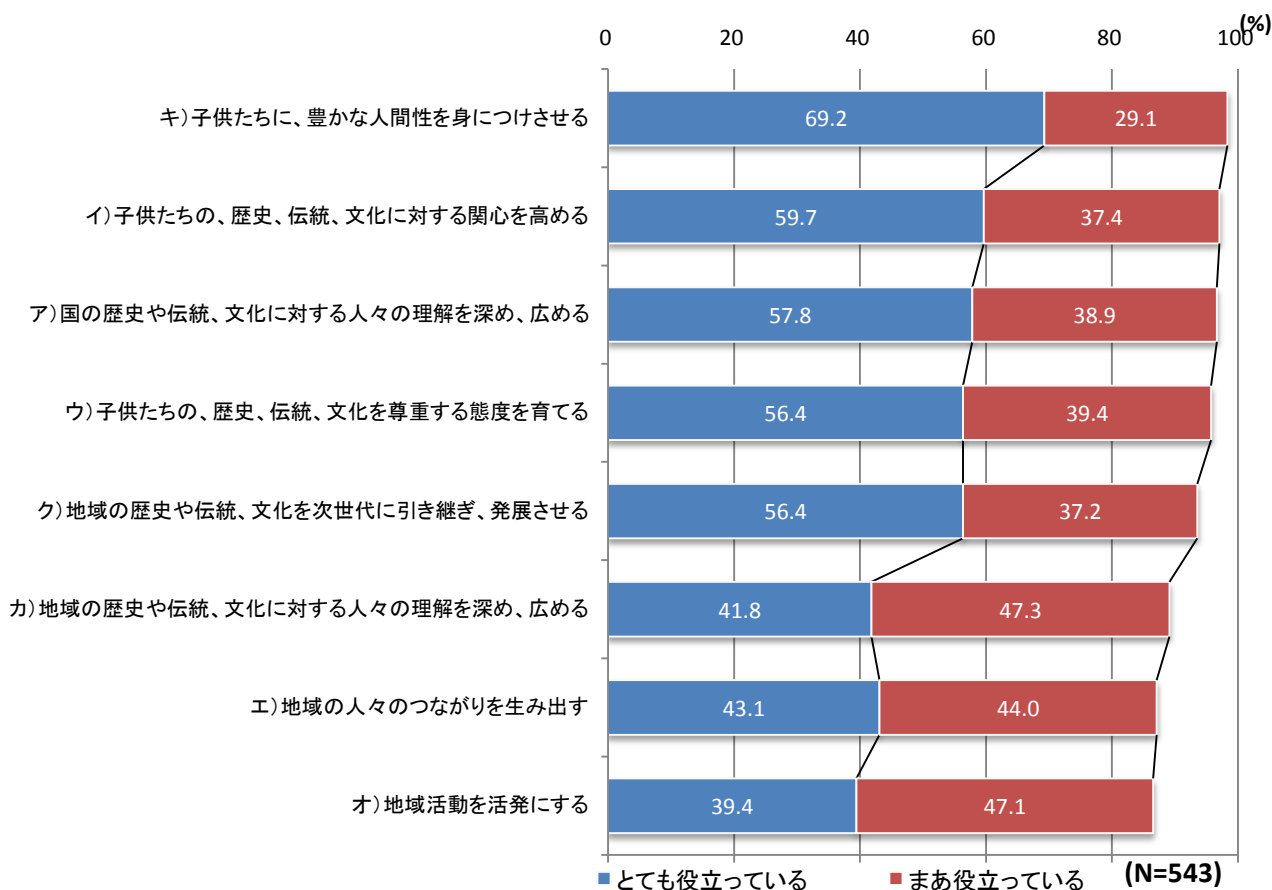
指導者に、「伝統文化親子教室」事業がどのような社会的役割を果たしているのかを尋ねた結果では、ほぼ全ての項目において事業の社会的役割を評価している。

調査で尋ねた 8 項目中 5 項目で、「役立っている」「とても、役立っている」「まあ、役立っている」の合計) と考える指導者の割合は 9 割を超えている。90%を下回る項目は、「カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」(89.1%)、「エ) 地域の人々のつながりを生み出す」(87.1%)、「オ) 地域活動を活発にする」(86.6%) であるが、それでも高い割合である。

ほぼ全指導者が「役立っている」と答えた項目が多いなかでも、「キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる」(98.3%) が最も評価が高く、「イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める」(97.1%・2 位)、「ウ) 子供たちの、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる」(95.8%・4 位) と共に、子供たちにとっての意義を重視する声が上位にある。

3 番目に多いのは、「ア) 国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」(96.7%) で、「ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる」(93.6%)、「カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」(89.1%)、「エ) 地域の人々のつながりを生み出す」(87.1%)、「オ) 地域活動を活発にする」(86.6%) など地域に対する役割よりも、より広い範囲での理解促進や、子供たちへの影響を重要視する意見が上位にある。

図 5-3. 【指導者調査】指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割
(全体)



次にこの事業の社会における役割を、指導者の年齢・性別に整理する。(表 5-2)

この表の中の数値は、各項目で「とても、役立っている」と回答した割合である。

年齢別では、「とても、役立っている」と回答した割合が多いのは「30 歳代以下 (～39 歳)」であり、次いで「40 歳代 (40～49 歳)」である。

このことから、特に「伝統文化親子教室」事業の社会的な役割を強く認識しているのは、「30 歳代以下 (～39 歳)」「40 歳代 (40～49 歳)」の指導者であり、若い世代で伝統文化保護への意識が高いといえる。

また、男女別では、男性、女性それぞれ 4 つの項目の回答割合が高かった。女性よりも男性の回答割合が高いのは、「エ) 地域の人々のつながりを生み出す」、「オ) 地域活動を活発にする」、「カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」、「ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる」といった地域に対する役割を重視する項目である。男性よりも女性の回答割合が高いのは、「ア) 国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」、「イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める」、「ウ) 子供たちに、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる」、「キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる」といったより広い範囲での理解促進や、子供たちへの影響を重視する項目である。

表 5-2. 【指導者調査】指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割
(全体／指導者の年齢／性別)

	合計 (N=543)	指導者の年齢						性別		
		～39 歳 (N= 41)	40 歳～49 歳 (N= 91)	50 歳～59 歳 (N=104)	60 歳～69 歳 (N=130)	70 歳～ (N=169)	無回答 (N= 8)	男性 (N=135)	女性 (N=402)	無回答 (N=6)
ア) 国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	57.8	63.4	64.8	59.6	53.8	56.2	25.0	55.6	59.0	33.3
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める	59.7	61.0	63.7	65.4	56.2	58.0	25.0	57.0	60.9	33.3
ウ) 子供たちの、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる	56.4	58.5	61.5	52.9	56.2	56.8	25.0	52.6	58.0	33.3
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	43.1	58.5	44.0	36.5	46.2	42.0	12.5	56.3	39.1	16.7
オ) 地域活動を活発にする	39.4	58.5	44.0	30.8	40.0	39.1	0.0	48.1	37.1	0.0
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	41.8	56.1	42.9	40.4	38.5	42.0	25.0	43.7	41.3	33.3
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる	69.2	68.3	74.7	70.2	67.7	69.2	25.0	61.5	72.4	33.3
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	56.4	73.2	60.4	57.7	53.8	53.3	12.5	62.2	55.0	16.7

注)「とても役立っている」の割合

さらに、各項目で「とても役立っている」と答えた指導者の割合を、「教室」の分野別に比較してみる。(表 5-3)

表に示したように、「民俗芸能」の指導者の場合には、「エ) 地域の人々のつながりを生み出す」「オ) 地域活動を活発にする」といった役割に対する評価が高い。「民俗芸能」はそれぞれの地域に根差していることから、地域に果たす「伝統文化親子教室」の役割を強く認識しているものと捉えられる。

「古典芸能」の指導者が評価するのは、「ア) 日本の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」「イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める」「ウ) 子供たちに、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる」「キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる」といった役割である。「古典芸能」の学習を通して歴史や伝統、文化への理解促進と継承の役割を評価するとともに、地域活動の活性化にも役立っていると評価し、また、子供たちの人間形成にも役立っていると評価している。

「生活文化」や「その他」の分野は、子供たちの人間形成に果たす役割について、多く回答されている。

表 5-3. 【指導者調査】指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割
(全体／指導している「教室」の分野別)

(%)

	合計 N=543	参加している「教室」の分野(大分類)			
		民俗芸能 N=94	古典芸能 N=124	生活文化 N=323	その他 N=62
ア) 国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	57.8	47.9	74.2	57.3	61.3
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める	59.7	47.9	71.0	61.0	61.3
ウ) 子供たちの、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる	56.4	41.5	68.5	57.9	61.3
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	43.1	66.0	41.1	39.3	45.2
オ) 地域活動を活発にする	39.4	64.9	40.3	34.4	43.5
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	41.8	52.1	45.2	40.9	40.3
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる	69.2	50.0	69.4	74.9	66.1
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	56.4	63.8	59.7	54.5	56.5

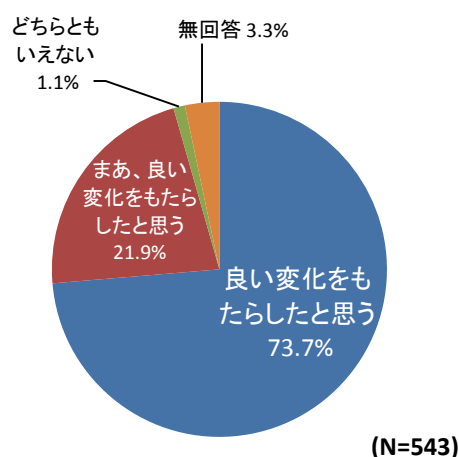
注)「とても役立っている」の割合

2) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義

次に、指導者からみた「伝統文化親子教室」事業が指導者にもたらした変化をみる。(図 5-4)

これをみると指導者の大半が「教室」の事業によって指導者自身に「良い変化をもたらしたと思う」とし、「まあ、良い変化をもたらしたと思う」も合わせると「良い変化をもたらした」と評価する指導者の割合は、9割(95.6%)に達しており、指導者は、この事業の自分自身にとっての意義を大きく評価しているとみることができる。

図 5-4. 【指導者調査】「伝統文化親子教室」事業が指導者にもたらした変化(全体)



(3) 指導者＜放課後子供教室＞の立場から

1) 指導者からみた＜放課後子供教室＞の社会における役割

続いて、放課後子供教室の「教室」の指導者がこの事業の意義をどのように捉えているのか整理する。

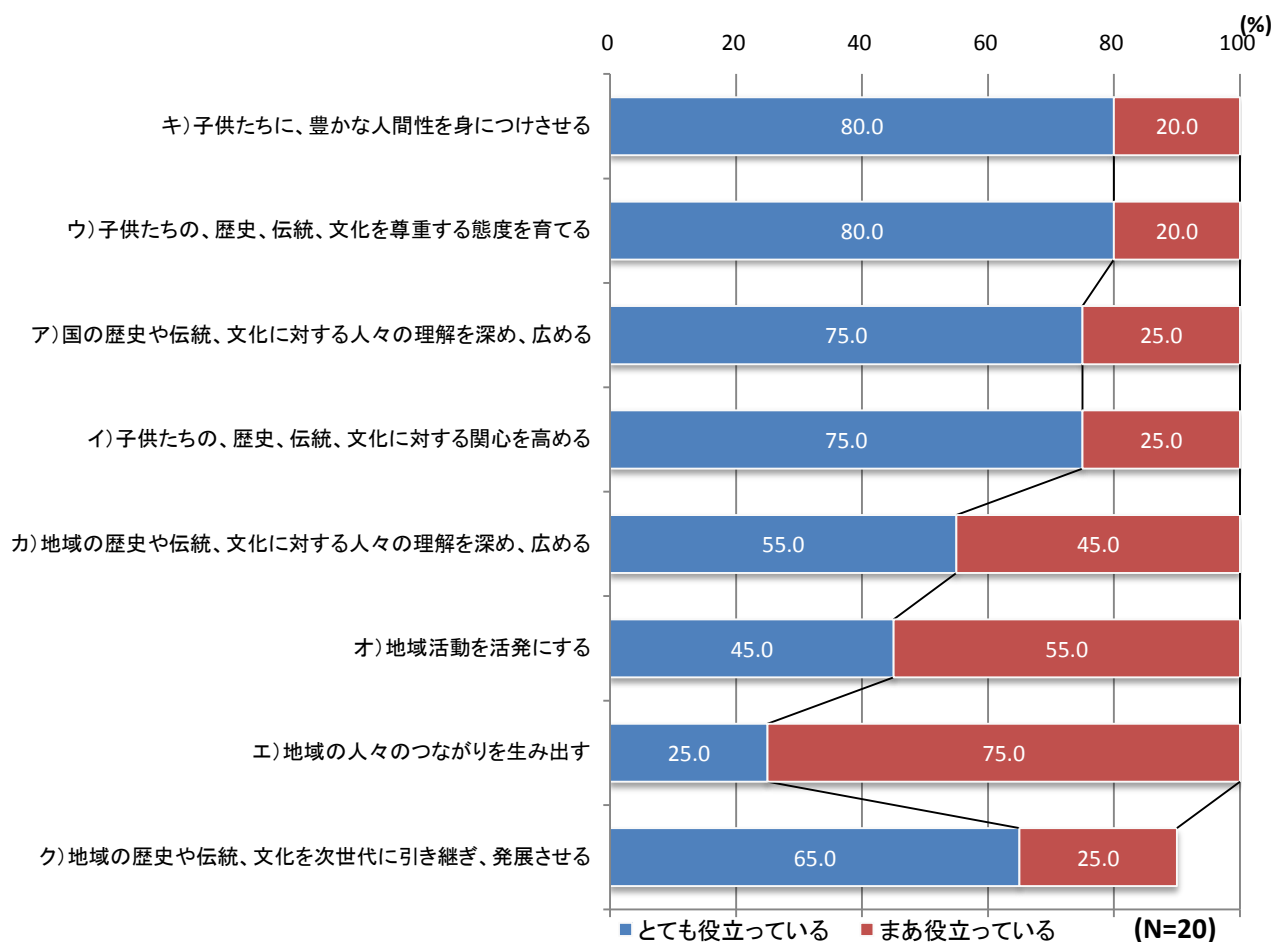
(図 5-5)

指導者に、「放課後子供教室事業」がどのような社会的役割を果たしているのかを尋ねた結果では、ほぼ全ての項目において事業の社会的役割を評価している。

調査で尋ねた 8 項目のうち 7 項目で、「役立っている」（「とても役立っている」「まあ役立っている」の合計）と考える指導者の割合は 100%に達している。

全指導者が「役立っている」と答えた項目の中でも、「キ）子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる」、「ウ）子供たちに、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる」、「ア）国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める」、「イ）子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める」の 4 項目で「とても役立っている」の割合が 75%を超えている。子供たちにとっての意義を重視する声を中心だが、国の歴史や伝統文化、地域に対する役割の理解促進にも「役立っている」との評価も大きい。

図 5-5. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者からみた放課後子供教室の社会における役割（全体）



放課後子供教室の社会における役割についての回答結果を、指導者の年齢・性別ごとに整理してみる。

(表 5-4)

表の中の数値は、「とても、役立っている」とした人の割合であるが、各年齢層の指導者、および男性の指導者の数が少なく、この数値から年齢・性別ごとに結果を比較することは難しい。

表 5-4. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者からみた放課後子供教室の社会における役割
(全体／指導者の年齢／性別)

	合計 (N=20)	指導者の年齢						性別		
		～39歳 (N=3)	40歳～49歳 (N=2)	50歳～59歳 (N=6)	60歳～69歳 (N=4)	70歳～ (N=5)	無回答 (N=0)	男性 (N=3)	女性 (N=17)	無回答 (N=0)
ア) 国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	72.2	100.0	50.0	83.3	100.0	40.0	0.0	66.7	76.5	0.0
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める	63.9	66.7	100.0	83.3	100.0	40.0	0.0	100.0	70.6	0.0
ウ) 子供たちの、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる	55.6	100.0	100.0	83.3	100.0	40.0	0.0	100.0	76.5	0.0
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	27.8	0.0	50.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	29.4	0.0
オ) 地域活動を活発にする	38.9	33.3	50.0	66.7	75.0	0.0	0.0	33.3	47.1	0.0
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	36.1	33.3	100.0	66.7	50.0	40.0	0.0	100.0	47.1	0.0
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる	83.3	66.7	100.0	83.3	100.0	60.0	0.0	100.0	76.5	0.0
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	66.7	0.0	100.0	83.3	75.0	60.0	0.0	100.0	58.8	0.0

注)「とても役立っている」の割合

また、放課後子供教室の「教室」における分野別の結果を整理した。(表 5-5)

回答者数が「伝統文化親子教室」事業に比べ非常に少なく、しかも、指導内容の半分以上が「着物の着付けや作法」「茶道・華道」「書道」の生活文化分野に集中しているため、この結果から分野ごとに比較することは非常に難しい。

表 5-5. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者からみた放課後子供教室の社会における役割
(全体／指導している「教室」の分野別)

	合計 N=20	参加している「教室」の分野(大分類)			
		民俗芸能 N=0	古典芸能 N=6	生活文化 N=12	その他 N=3
ア) 国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	72.2	0.0	83.3	58.3	100.0
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高める	63.9	0.0	66.7	66.7	100.0
ウ) 子供たちの、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てる	55.6	0.0	83.3	66.7	100.0
エ) 地域の人々のつながりを生み出す	27.8	0.0	0.0	41.7	33.3
オ) 地域活動を活発にする	38.9	0.0	16.7	50.0	100.0
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深め、広める	36.1	0.0	33.3	58.3	66.7
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせる	83.3	0.0	66.7	75.0	100.0
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させる	66.7	0.0	50.0	58.3	100.0

注)「とても役立っている」の割合

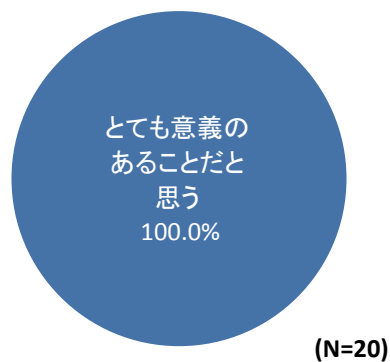
2) 指導者からみた＜放課後子供教室＞の意義

指導者からみた放課後子供教室の意義についてみる。(図 5-6)

これをみると、指導者全てが「教室」の事業を「とても意義あることだと思う」(100.0%)と答えている。

「どちらともいえない」「意義のあることだと思わない」などの回答は見られなかった。

図 5-6. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者からみた放課後子供教室の意義（全体）

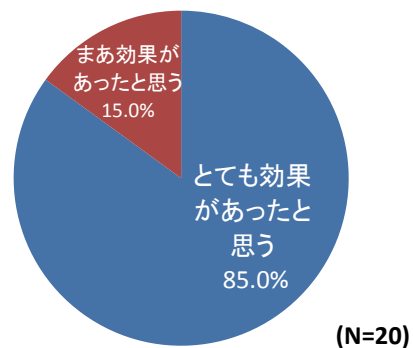


3) 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と＜放課後子供教室＞の連携

次に、放課後子供教室の「教室」の指導者からみた、「伝統文化親子教室」事業との連携効果についてみる。(図 5-7)。

連携した結果について、「とても、効果があったと思う」(85.0%)、「まあ、効果があったと思う」(15.0%)を合わせると、100.0%が「効果があったと思う」と答えた。放課後子供教室の「教室」の指導者は、「伝統文化親子教室」事業との連携の効果を大きく評価している。

図 5-7. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と、放課後子供教室の連携効果
(全体)

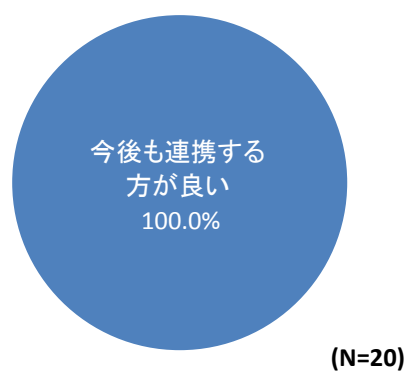


放課後子供教室の「教室」の指導者からみた、「伝統文化親子教室」事業との今後の連携についてみる。

(図 5-8)

これをみると、「今後も連携する方が良い」とする指導者は 100.0%であった。「どちらともいえない」「今後
は事業を分けて行う方が良い」との回答は見られなかった。

図 5-8. 【指導者調査＜放課後子供教室＞】
指導者からみた「伝統文化親子教室」事業と、放課後子供教室の
今後の連携について（全体）



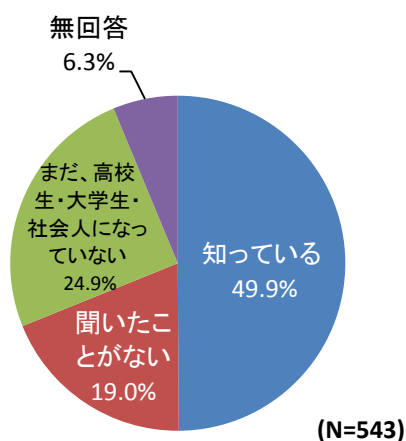
(4) 「伝統文化親子教室」事業の伝統文化・生活文化の継承への効果

「伝統文化親子教室」事業が伝統文化・生活文化の継承・発展に寄与しているかどうかについては、平成29年度の調査より、指導者に対する質問として、高校生・大学生・社会人になった今でも過去の「教室」で習ったことを続けている者を知っているかどうか、という項目を設けた。

図5-9は、本年度（令和3年度）の結果をまとめたものである。まだ5回目の調査であるため正確な実態・傾向を把握することはできないが、半数近くの指導者が「知っている」と回答していることから、「伝統文化親子教室」事業が、伝統文化・生活文化の継承・発展に一定程度は寄与していると考えられる。

図5-9【指導者調査】

過去の「教室」参加者で高校生・大学生・社会人になっても続けている者を知っているか
(全体)



以上、【子供調査】【保護者調査】【指導者調査】【指導者調査＜放課後子供教室＞】の4つの調査を通じ、「伝統文化親子教室」事業の意義について概観した。

第1章では、子供、保護者、「伝統文化親子教室」の指導者、放課後子供教室の指導者のプロフィールを整理した。

第2章では、「伝統文化親子教室」事業に参加した子供たちとその保護者の、子供たちの「教室」への参加に対する評価と継続意向をみてきた。

第3章では、子供たちは、何をきっかけにどのような動機でもって「教室」に参加したか、保護者はどこから「教室」についての情報を得て、どのような動機で子供を「教室」に参加させたかをみてきた。

第4章では、「教室」に参加したことによる子供の変化を、子供自身、保護者、そして「伝統文化親子教室」事業の指導者、放課後子供教室の「教室」の指導者がどのように捉えているかを分析した。

そして、第5章では、保護者と指導者、指導者＜放課後子供教室＞が、「教室」の事業の社会的意義をどのように評価しているかについてみてきた。

本調査では、「伝統文化親子教室」事業が、参加する子供たちにもたらす変化について、子供たち自身も保護者も高く評価しているということが認められた。また、そうした現場の実感から「伝統文化親子教室」事業そのものの社会的意義についても、保護者や指導者からは高く評価されているという結果をみてきた。

調査対象が、「伝統文化親子教室」事業の第三者ではなく、当事者であることから、おのずと好印象をもった回答が多くなる要素は否めないが、「教室」で習い、今後も習い続ける意志の背景には、学校とはまた異なる教育の場で、礼儀やマナーを含めた人間形成や、精神的な成長の実感を伴う中で、この事業が評価されているのであり、子供たちも保護者も率直な意見を述べている結果の高評価であることは否定できない。

また、過去8か年にわたる調査結果において、その調査結果に極端な変化が認められないことも、「伝統文化親子教室」事業が一定程度の評価を得ていることを証明するものであるといえる。

総じて、「伝統文化親子教室」事業が果たす社会的役割は、子供、保護者、指導者のみならず、これらの関係者を取り巻く知人や地域の人々を通して、その高い評価とともに浸透し、伝承されていくものとする。

6. 付 録

(調査票及び単純集計結果)

「伝統文化親子教室」についての調査

この調査は、「伝統文化親子教室」に通う小学生・中学生が、「教室」の活動にどのように取り組み、そこから何を学んでいるかを調べて、これから、どのような「教室」にしていってよいかを考える時の参考にしようというものです。

テストではありませんし、名前を書いていただく必要もありません。思ったこと、考えたことなどを、ありのままに答えてください。

よろしくお願いします。

令和3年10月

伝統文化親子教室事業事務局（株式会社 KNT ビジネスクリエイト内）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階（302）

TEL:0570-666-133/FAX:03-6730-6029

E-mail: oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

【お問い合わせ対応時間：平日 10:00～17:00（土日祝及び年末年始休み）】

答えていただくときの注意

1. この調査は、小学校4年生から中学校3年生にお願いをしています。
あなたがそれ以外の学年の場合には、「教室」の先生に申し出てください。
2. 調査は、あなたの「教室」に通っているみなさんのうちの何人かにお願いしています。全員をお願いをしているわけではありません。
3. 数字に○をつけて答えてください。
4. 「教室」で、活動の間の時間を使って答えてください。
答え終わった調査票は、「教室」の先生にわたしてください。

各教室の代表者の方へお願い

児童・生徒の皆さんが回答してくださった調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード

		—				—		
-------------	-------------	---	-------------	-------------	-------------	---	-------------	-------------

この調査票は小学4年生～中学3年生の方への調査票です。

それ以外の学年の方は何も答えずに「教室」の先生に、この調査票を返してください。

◎まず、あなたのことをお聞きします。

Q 1. 学年と性別について、それぞれ、あてはまるところに○をつけてください。

A) あなたの学年は…

- | | | | |
|----------|------|-----|-----|
| 1. 小学4年生 | 27.3 | | |
| 2. 小学5年生 | 21.4 | | |
| 3. 小学6年生 | 22.4 | | |
| 4. 中学1年生 | 11.9 | | |
| 5. 中学2年生 | 9.4 | | |
| 6. 中学3年生 | 7.1 | N.A | 0.5 |

B) あなたは、男の子ですか、女の子ですか。 あてはまる方に○をつけてください。

- | | | | |
|------|------|-----|-----|
| 1. 男 | 26.4 | | |
| 2. 女 | 73.0 | N.A | 0.5 |

◎ここからは、「伝統文化親子教室」（これからあと、「教室」とよびます）への参加についてお聞きします。

Q 2. 「教室」では何を習っていますか？ あてはまるところに○をつけてください。

どこに○をつけてよいか、わからないときには、「教室」の先生に聞いてください。

- | | |
|--|---------|
| 1. 神楽（かぐら）、獅子舞（ししまい）、お囃子（おはやし） | 7.3 |
| 2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、
お芝居（おしばい）や人形芝居（にんぎょうしばい） | 2.5 |
| 3. 雅楽（ががく）、能楽（のうがく） | 2.9 |
| 4. 邦楽（ほうがく）：お箏（おこと）、三味線（しゃみせん）、尺八（しゃくはち）、
笛（ふえ）、太鼓（たいこ）など | 9.9 |
| 5. 和太鼓（わだ太鼓） | 3.4 |
| 6. 日本舞踊（にほんぶよう） | 6.3 |
| 7. 伝統工芸（でんとうこうげい）：昔から伝えられてきた物づくり | 1.4 |
| 8. 百人一首（ひゃくにんいっしゅ）、カルタ、囲碁（いご）、将棋（しょうぎ） | 7.6 |
| 9. 茶道（さどう：お茶）、華道（かどう：お花） | 37.5 |
| 10. 武道（ぶどう）：柔道（じゅうどう）、剣道（けんどう）、
古式泳法（こしきえいほう）、相撲（すもう）、弓道（きゅうどう）など | 4.9 |
| 11. 書道（しょどう） | 3.0 |
| 12. 着物の着付けや作法（さほう） | 5.8 |
| 13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉（おてだま）、さかなとり、
田植え（たうえ）など） | 0.9 |
| 14. その他（何ですか？：_____） | 5.8 |
| | N.A 0.9 |

Q 3. あなたが今、習っていることは、「教室」に通うようになってはじめて習ったことですか？

それとも、「教室」に通う前にも習っていたことですか？ あてはまる方に○をつけてください。

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1. 「教室」に通うようになってはじめて習ったこと | 86.0 |
| 2. 「教室」に通う前にも習っていたこと | 9.7 |
| | N. A 4.3 |

Q 4. あなたが「教室」に通うのは、今年で何年目ですか？

通わなかった年や「教室」が開かれなかった年はそのいて、何年目になるのか、あてはまるところに○をつけてください。

- | | |
|---------------|----------|
| 1. 今年はじめて | 21.2 |
| 2. 2年目 | 16.3 |
| 3. 3年目 | 16.0 |
| 4. 4年目 | 14.6 |
| 5. 5年目 | 11.2 |
| 6. 6年目 | 8.9 |
| 7. もっと長く通っている | 10.5 |
| | N. A 1.3 |

Q 5. 「教室」には、自分から通ってみようと思ったのですか？

それとも、誰かからさそわれたり、言われたりして通うようになったのですか？

あてはまる方に○をつけてください。

- | | |
|--------------------------------|----------|
| 1. 自分から通ってみようと思った。————→Q 6 へ | 36.0 |
| 2. 誰かからさそわれたり、言われたりして通うようになった。 | 59.4 |
| | N. A 4.6 |

「2」に○をつけた人だけ、教えてください。

S Q. それは誰ですか？

あなたをさそったり、通うように言った人、あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|----------------------|----------|
| 1. お父さんやお母さん | 46.3 |
| 2. きょうだい | 8.3 |
| 3. おじいさんやおばあさん | 7.5 |
| 4. しんせきの人 | 2.2 |
| 5. 学校の先生 | 2.4 |
| 6. おけいこで通っているところの先生 | 5.5 |
| 7. 友だち | 23.0 |
| 8. 近所に住んでいる人 | 2.2 |
| 9. その他（だれですか？：_____） | 2.3 |
| | N. A 0.4 |

Q 6. この「教室」に通うことにしたのは、なぜですか？

あなたに、あてはまるものすべてに○をつけてください。

*この「教室」に通うと…

- | | |
|-----------------------------------|-------------|
| 1. おもしろいこと、むちゅうになれることができそうだったから。 | 48.4 |
| 2. ほかに人にはできないことができそうだったから。 | 31.3 |
| 3. おとなになれるような気がしたから。 | 4.8 |
| 4. 友だちができそうだったから。 | 13.1 |
| 5. 学校の勉強に役立ちそうだったから。 | 9.4 |
| 6. 生活に役立ちそうだったから。 | 12.5 |
| 7. 住んでいる町や村について、もっとくわしくなれそうだったから。 | 4.3 |
| 8. 家の近くに住んでいる人と、知り合いになれそうだったから。 | 2.7 |
| 9. とくにわけはない。 | 12.1 |
| 10. その他（なぜですか？： _____） | 13.9 |
| N. A | 4.2 |

Q 7. この「教室」に通うようになって、あなたがどのように変わったかをお聞きます。

つぎのア)～ネ)のそれぞれの質問について、どのくらい「そう思うか」、あてはまるところ
ひとつに○をつけてください。

◎「教室」に通うようになって…	1. とても そう 思う	2. まあ そう 思う	3. あまり そう 思わ ない	4. ぜん ぜん そう 思わ ない	5. N. A
ア) 習っていることが、上手にできるようになりましたか？	52.3	43.5	3.2	0.2	0.7
イ) 習っていることが、おもしろく感じられるようになりましたか？	62.2	32.6	3.8	0.6	0.8
ウ) 習っていることを、他の人に見てもらったり、聞いてもらったりしてほしくなりましたか？	36.9	41.8	17.0	3.2	1.1
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなりましたか？	40.9	47.1	9.5	1.4	1.0
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになりましたか？	47.2	39.1	10.9	1.7	1.1
カ) 学校の友だちのほかにも、友だちがふえましたか？	36.8	28.9	20.1	13.0	1.2
キ) 年上の友だちや、年下の友だちがふえましたか？	34.4	30.4	20.3	13.8	1.1

◎「教室」に通うようになって…	1. とても そう 思う	2. まあ そう 思う	3. あまり そう 思わ ない	4. ぜん ぜん そう 思わ ない	5. N. A
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになり ましたか？	34.0	44.1	14.9	4.8	2.1
ケ) お父さんやお母さんなど、家の人と話す時の 話題がふえましたか？	37.6	42.3	15.4	3.2	1.5
コ) 大人の人と、きがねなく、話ができるようにな りましたか？	27.5	41.6	23.9	4.5	2.4
サ) 近所の人にあいさつをするようになり ましたか？	36.9	39.9	16.5	4.8	2.0
シ) 昔からある、知らなかった遊びを覚え ましたか？	27.1	28.6	29.2	11.7	3.4
ス) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の 行事が身近に感じられるようになり ましたか？	33.5	36.3	21.9	5.7	2.6
セ) 生活のなかの昔から伝えられてきていること や守られてきていることを、おもしろく 思うようになり ましたか？	37.8	40.1	15.6	3.9	2.6
ソ) 生活のなかの昔から伝えられてきていること や守られてきていることを、大事に したいと思うよう になり ましたか？	44.6	39.8	10.8	2.0	2.7
タ) 「教室」のなかですごい技や力をも っていて、すばらしいと思える人 を知りましたか？	52.8	32.3	9.7	2.7	2.5
チ) 住んでいるところの歴史をも っと知りたくなりましたか？	20.3	39.7	28.2	8.4	3.3
ツ) 住んでいるところの自然をも っと知りたくなりましたか？	26.0	37.1	26.8	7.0	3.1
テ) 住んでいるところのお祭や行事 に参加するようになり ましたか？	33.4	34.9	20.6	8.0	3.1
ト) 住んでいるところが好きにな りましたか？	42.6	37.7	13.3	3.4	2.9
ナ) 自分の楽しみがふえましたか？	51.2	36.0	8.0	2.5	2.3
ニ) 自分に自信がもてるようにな りましたか？	34.4	42.0	16.3	4.4	2.8
ヌ) むずかしくてもチャレンジして みようという気持ちになること がふえましたか？	45.4	38.8	10.8	2.8	2.2
ネ) 最後までがんばってやりとげ ようと思うことがふ えましたか？	51.8	34.9	9.1	2.1	2.1

Q 8. 「教室」には、どのくらいの割合で参加していますか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|------|
| 1. 毎回、参加している。 | 48.5 |
| 2. 時々、休むことがある。 | 40.1 |
| 3. 参加することと、休むことがそれぞれ半分くらい。 | 5.8 |
| 4. 時々、参加するくらい。 | 3.7 |
| 5. ほとんど、参加していない。 | 0.7 |
| N. A | 1.2 |

Q 9. 「教室」で習っていることについて書かれている本を、読むことがありますか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|-------------|------|
| 1. よく、ある。 | 7.5 |
| 2. 時々、ある。 | 31.9 |
| 3. ほとんど、ない。 | 36.6 |
| 4. ぜんぜん、ない。 | 22.8 |
| N. A | 1.2 |

Q 10. 「教室」で習っていることをとりあげたテレビ番組を、見ることがありますか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|-------------|------|
| 1. よく、ある。 | 7.6 |
| 2. 時々、ある。 | 33.8 |
| 3. ほとんど、ない。 | 31.5 |
| 4. ぜんぜん、ない。 | 26.0 |
| N. A | 1.1 |

Q 11. あなたは、「教室」に通ってよかったと思いますか？ それとも思いませんか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|------|
| 1. とても、よかったと思う。 | 67.7 |
| 2. まあ、よかったと思う。 | 29.4 |
| 3. あまり、よかったと思わない。 | 1.4 |
| 4. まったく、よかったと思わない。 | 0.3 |
| N. A | 1.1 |

(3, 4の理由：)

Q12. 「教室」で習っていることは、生活のなかで、どのくらい、役に立ちそうですか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. とても、役に立ちそう。 | 27.6 |
| 2. まあ、役に立ちそう。 | 60.8 |
| 3. あまり、役に立ちそうもない。 | 8.1 |
| 4. まったく、役に立ちそうもない。 | 1.2 |
| N. A | 2.3 |

(3, 4の理由：)

Q13. あなたは、「教室」で習っていることを、これからも続けて習っていきたいと思いますか？

それとも思いませんか？ あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|---------------------------------|-------------|
| 1. 「教室」で続けて習っていきたい。 | 83.8 |
| 2. 「教室」とは別のところで本格的に習っていきたい。 | 4.9 |
| 3. この「教室」で習うだけにして、習い続けたいとは思わない。 | 9.0 |
| N. A | 2.2 |

(3の理由：)

Q14. あなたは、博物館や美術館などに行くことがありますか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|-------------|-------------|
| 1. よく、ある。 | 8.3 |
| 2. 時々、ある。 | 37.8 |
| 3. ほとんど、ない。 | 33.9 |
| 4. ぜんぜん、ない。 | 18.2 |
| N. A | 1.8 |

Q15. 伝統文化は大切だと思いますか？ それとも思いませんか？

あてはまるところひとつに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|-------------|
| 1. とても、大切だと思う。 | 66.2 |
| 2. まあ、大切だと思う。 | 30.9 |
| 3. あまり、大切だと思わない。 | 0.9 |
| 4. ぜんぜん、大切だと思わない。 | 0.3 |
| N. A | 1.8 |

(3, 4の理由：)

Q16. 伝統文化親子教室事業のホームページ (<http://www.oyakokyoshitsu.jp/>) を見たことがありますか？ あてはまるところひとつに○をつけてください。

1. 見たことがある。 **8.0**

2. 見たことがない。 **89.6**

N.A 2.4

質問はこれでおわりです。「教室」の先生にわたしてください。

最後まで答えてくださり、ありがとうございました。

「伝統文化親子教室」についての調査

日増しに秋の深まりを感じる季節となり、皆様ご健勝にお過ごしのことと思います。日頃、「伝統文化親子教室」についてご理解くださり、また、お子さまを「教室」の活動に参加させていただき、感謝申し上げます。

このたび、文化庁の委託を受けて「伝統文化親子教室」の事業を実施しています伝統文化親子教室事業事務局では、お子さまの「教室」への参加の実態と、お子さまが「教室」での活動に参加されたことでどのように変わられたかを調べ、「教室」の成果を検証することになりました。つきましては、お子さまの保護者の皆さんにも、調査にご協力をいただきたく、お願い申し上げます。

調査は、無記名で行います。また、書いていただいた答えは数字に直して処理いたしますので、どなたが、どのようにお答えになったかはわからないようになっています。調査データの保管や取扱いには、十分に注意いたします。その点、ご安心のうえ、お答えください。

調査の趣旨をご理解くださり、よろしくご協力をお願いいたします。

令和3年10月

伝統文化親子教室事業事務局（株式会社 KNT ビジネスクリエイト内）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階（302）

TEL:0570-666-133/FAX:03-6730-6029

E-mail : oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

【お問い合わせ対応時間：平日 10：00～17：00（土日祝及び年末年始休み）】

お答えいただくときの注意

1. この調査は、「伝統文化親子教室」に通っていらっしゃる小学校4年生から中学校3年生の保護者の方をお願いをしています。
2. 調査は、「教室」に通っているお子さんのうちの何人かの保護者の方をお願いをしています。すべての保護者の方をお願いをしているわけではありませんので、その点、ご承知おきください。
3. 数字に○をつけてお答えください。
4. 記入済の調査票は、活動の日に、お子さんを通じて、「教室」までご提出ください。
5. 調査のことについておわかりにならないことなどがありましたら、上記の「伝統文化親子教室事業事務局」までお問い合わせください。

各教室の代表者の方をお願い

保護者の方にお答えいただいた調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード

--	--

 -

--	--	--

 -

--	--

この調査票はお子さんの学年が小学4年生～中学3年生の方への調査票です。

それ以外の学年の方は何も答えずに、この調査票を御返却ください。

また、兄弟、姉妹のお子さん、それぞれから調査票を受け取った場合には、まとめて回答せずに、それぞれについて回答をお願いします。

その場合、同じ保護者の方が回答してくださっても、それぞれ別の保護者の方が回答してくださっても、構いません。

◎「伝統文化親子教室」（以下、「教室」と呼びます）より、この調査票を持ち帰ったお子さん（以下、「お子さん」と呼ばさせていただきます）について、お伺いします。

Q 1. あなたとこの調査票を持ち帰ったお子さんとの関係をお聞きます。あなたは、調査票を持ち帰ったお子さんの何にあたりますか。あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

- | | |
|--------------------------|----------|
| 1. 母親 | 84.7 |
| 2. 父親 | 11.5 |
| 3. 祖母 | 2.9 |
| 4. 祖父 | 0.6 |
| 5. その他（どのような関係ですか：_____） | 0.2 |
| | N. A 0.1 |

Q 2. この調査票を持ち帰ったお子さんの学年と性別をお聞きます。

あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

A) お子さんの学年は…

- | | | | |
|----------|------|------|-----|
| 1. 小学4年生 | 27.4 | | |
| 2. 小学5年生 | 21.6 | | |
| 3. 小学6年生 | 22.5 | | |
| 4. 中学1年生 | 11.6 | | |
| 5. 中学2年生 | 9.2 | | |
| 6. 中学3年生 | 6.7 | N. A | 0.9 |

B) お子さんの性別は…

- | | | | |
|------|------|------|-----|
| 1. 男 | 26.2 | | |
| 2. 女 | 68.7 | N. A | 5.1 |

Q 3. お子さんは、「教室」で何を習っていますか。あてはまるもの すべてに○ をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------------------|------|------|-----|
| 1. 神楽、獅子舞、お囃子 | 7.7 | | |
| 2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居 | 2.7 | | |
| 3. 雅楽、能楽 | 2.9 | | |
| 4. 邦楽：箏、三味線、尺八、笛、太鼓など | 9.5 | | |
| 5. 和太鼓 | 3.2 | | |
| 6. 日本舞踊 | 6.5 | | |
| 7. 伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり | 1.1 | | |
| 8. 百人一首、カルタ、囲碁、将棋 | 7.5 | | |
| 9. 茶道、華道 | 36.7 | | |
| 10. 武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など | 5.1 | | |
| 11. 書道 | 3.5 | | |
| 12. 着物の着付けや作法 | 5.4 | | |
| 13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど） | 1.2 | | |
| 14. その他（何ですか？：_____） | 6.5 | N. A | 0.5 |

Q 4. お子さんが「教室」に通うのは、今年で何年目ですか？

通わなかった年や「教室」が開かれなかった年は除いて、何年目になるのか、
あてはまるところに○をつけてください。

1. 今年はじめて	21.0
2. 2年目	15.5
3. 3年目	16.6
4. 4年目	14.7
5. 5年目	10.9
6. 6年目	8.2
7. もっと長く通っている	11.2
N. A	1.9

Q 5. お子さんを「教室」に参加させたのは、なぜですか。 あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 子供に伝統文化を知ってほしいと思ったので。	58.1
2. 子供に特技を身につけてもらいたいと思ったので。	36.2
3. 子供に行儀や作法を身につけてもらいたかったので。	45.9
4. 子供に幅広い経験をさせたかったので。	63.6
5. 子供に夢中になれるものができるとよいと思ったので。	31.0
6. 子供に友だちをつくってもらいたいと思ったので。	15.1
7. 子供に大人との関わりを学んでもらいたかったので。	14.8
8. 子供に地域との関わりをもってもらいたいと思ったので。	18.4
9. 学校の勉強に役立つと思ったので。	5.7
10. 生活に役立つと思ったので。	16.9
11. 自分には教えられないことを教えてもらえるので。	51.7
12. 自分も伝統文化に関心をもっていたので。	28.7
13. おけいごとをするよりも、費用がかからないので。	15.7
14. おけいごとをするよりも、子供に負担がかからないので。	6.9
15. 安心して子供を預けておけるので。	16.8
16. 他の子供の親も参加させているので。	7.9
17. 「教室」の内容が充実していたので。	18.5
18. 「教室」についてよい評判を聞いたので。	15.3
19. とくに理由はない。	0.6
20. その他（詳しく教えてください：_____）	10.7
N. A	1.3

Q 6. このような「教室」があることを、どのようにして知りましたか。

知るきっかけとなったものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------------------|----------|
| 1. 学校の先生からの紹介 | 14.3 |
| 2. おけいこごとの先生からの紹介 | 12.8 |
| 3. 「教室」についてのチラシ | 33.6 |
| 4. 市町村が発行している「広報紙」 | 9.5 |
| 5. 市町村のインターネットのサイト | 1.7 |
| 6. 公民館や児童館のポスターや掲示 | 5.3 |
| 7. お子さんの友だちの保護者の方からの情報 | 27.0 |
| 8. 近所の人からの情報 | 7.5 |
| 9. その他（どのようにしてですか：_____） | 14.3 |
| | N. A 0.7 |

Q 7. お子さんが「教室」に通うことについて、あなたがどのようにされているかをお聞きます。

次のア)～オ)のそれぞれの質問について、どの程度あてはまるか、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎次のことは、あなたに…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N. A
ア)「教室」で学んだことやあったことを、お子さんから聞いたり、お子さんと話したりしている。	56.1	39.5	2.9	0.4	1.2
イ)「教室」に休まずに行くようにさせている。	51.4	37.7	8.5	1.0	1.4
ウ)「教室」でお子さんが学んでいるところを見に行っている。	40.3	25.4	22.0	10.7	1.5
エ)「教室」で学んでいることの助けとなるように、本を買ったり、お子さんといっしょに関係するテレビ番組を見たりしている。	11.2	30.0	41.5	15.6	1.7
オ)「教室」で学んでいることの助けとなるように、地域の行事や博物館などに出かけている。	10.1	29.7	42.2	16.2	1.8

Q 8. お子さんは「教室」に、どのくらいの割合で参加していますか。

あてはまるところ1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|----------|
| 1. 毎回、参加している。 | 51.6 |
| 2. 時々、休むことがある。 | 38.8 |
| 3. 参加することと、休むことがそれぞれ半分くらい。 | 4.7 |
| 4. 時々、参加するくらい。 | 2.9 |
| 5. ほとんど、参加していない。 | 0.5 |
| | N. A 1.5 |

Q 9.「教室」に通うことでお子さんは変わった、と思いますか。

次のア)～ネ)にあげる変化について、それぞれ、どの程度「そう思うか」、あてはまるところ 1 つに○をつけてください。

◎「教室」に通うようになって、お子さんは…	1. とても そう 思う	2. まあ そう 思う	3. あまり そう 思わ ない	4. まった く そう 思わ ない	5. N. A
ア) 習っていることが、上手にできるようになった。	56.0	39.1	2.4	0.2	2.3
イ) 習っていることに、興味をもつようになった。	52.3	41.5	4.2	0.3	1.7
ウ) 習っていることを、他の人に見せたり、聞かせたりすることを望むようになった。	27.7	42.0	25.7	2.4	2.3
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなった。	28.4	54.2	13.9	1.2	2.3
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった。	22.7	45.4	26.3	3.3	2.3
カ) 学校の友だちのほかに、友だちが増えた。	24.5	39.2	27.7	6.4	2.3
キ) 年上の友だちや年下の友だちが増えた。	25.2	36.7	29.0	6.8	2.4
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになった。	25.3	44.0	23.3	5.0	2.5
ケ) 家での話題が増えた。	30.2	53.2	13.0	1.3	2.3
コ) 大人のひとと気兼ねなく話をするようになった。	20.6	45.5	28.6	2.9	2.3
サ) 近所の人にあいさつをするようになった。	20.8	49.6	23.5	3.6	2.4
シ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった。	7.6	25.7	52.8	11.2	2.7
ス) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の行事に関心をもつようになった。	18.9	41.3	31.4	5.9	2.5
セ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことに、興味をもつようになった。	17.8	44.6	30.9	4.5	2.3
ソ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことを、大事にするようになった。	17.9	45.3	30.0	4.3	2.5
タ)「教室」のなかで、尊敬できる人ができた。	31.5	43.3	20.7	1.7	2.8
チ) 地域の歴史に関心をもつようになった。	12.3	37.4	41.2	6.5	2.6
ツ) 地域の自然に関心をもつようになった。	12.6	39.6	39.5	5.6	2.7
テ) 地域のお祭や行事に参加するようになった。	20.6	40.8	29.9	6.0	2.7
ト) 住んでいるところに愛着をもつようになった。	16.8	46.9	29.6	4.1	2.6
ナ) 楽しそうにしていることが多くなった。	31.1	52.1	13.2	1.4	2.2
ニ) 自信をもってすることが多くなった。	28.4	50.8	16.9	1.3	2.5
ヌ) むずかしいことにチャレンジしようという意欲が増した。	27.8	48.3	20.2	1.6	2.2
ネ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した。	32.2	48.8	15.5	1.4	2.1

Q10. この「教室」にお子さんを通わせて、あなた自身がどのように変わったか、お聞きします。

次のア)～カ)のそれぞれの質問は、あなたにどの程度、あてはまりますか。

あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

◎お子さんが「教室」に通うようになって、 あなたは…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N. A
ア) これまで見る事がなかった子供の生き生きした表情 を見ることができた。	40.2	49.3	8.1	0.8	1.5
イ) これまで知らなかった能力や性格が子供にあることを 知った。	42.5	45.1	10.2	0.8	1.5
ウ) 子供の成長を実感した。	58.0	36.5	3.2	0.5	1.7
エ) 伝統文化について、あなた自身、知らなかったことを 新たに知ることができた。	50.3	37.8	9.6	1.0	1.3
オ) 「教室」を通じて、地域の人や他のお子さんの保護者の 方と知り合いになれた。	37.7	34.1	21.9	4.8	1.5
カ) 自分も何か学びたくなった。	31.2	45.0	18.6	3.3	1.9

Q11. あなたは、お子さんに、今、「教室」で習っていることを、これからも習わせていきたいと思いますか。それとも思いませんか。あてはまる場所 1つに○ をつけてください。

- | | |
|-----------------------------------|----------|
| 1. 「教室」で続けて習わせていきたい。 | 89.6 |
| 2. 「教室」とは別のところで本格的に習わせていきたい。 | 3.1 |
| 3. この「教室」で習うだけにして、習い続けさせたいとは思わない。 | 6.3 |
| | N. A 1.0 |

(3の理由 :)

Q12. あなたは、お子さんを「教室」に通わせてよかったと思いますか。それとも思いませんか。

あてはまる場所 1つに○ をつけてください。

- | | |
|--------------------|----------|
| 1. とても、よかったと思う。 | 85.3 |
| 2. まあ、よかったと思う。 | 14.0 |
| 3. あまり、よかったと思わない。 | 0.2 |
| 4. まったく、よかったと思わない。 | 0.0 |
| | N. A 0.5 |

(4, 5の理由 :)

Q13. お子さんが「教室」で習っていることは、生活のなかで、どのくらい、役にたちそうですか。

あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

- | | |
|--------------------|-------------|
| 1. とても、役に立ちそう。 | 44.5 |
| 2. まあ、役に立ちそう。 | 50.1 |
| 3. あまり、役に立ちそうもない。 | 3.3 |
| 4. まったく、役に立ちそうもない。 | 0.6 |

N.A 1.6

(3, 4の理由 :)

Q14. 「伝統文化親子教室」の事業は、どのくらい、意義のあることだと思いますか。

あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

- | | | | |
|------------------------|-------------|------------|------------|
| 1. とても意義のあることだと思う。 | 78.7 | | |
| 2. まあ、意義のあることだと思う。 | 18.2 | | |
| 3. どちらともいえない。 | 1.5 | | |
| 4. あまり、意義のあることだと思わない。 | 0.1 | | |
| 5. まったく、意義のあることだと思わない。 | 0.0 | N.A | 1.5 |

(4, 5の理由 :)

Q15. 「伝統文化」についてのあなたの考えをお聞きます。

あなたは、次のア)～オ)のそれぞれの考えについて、どの程度、そう思いますか。

あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

	1. とても そう 思う	2. まあ そう 思う	3. あまり そう 思わ ない	4. ま った く そう 思 わ な い	5. N. A
ア) 伝統文化は、守り、残していく必要がある。	80.4	17.2	0.4	0.0	2.0
イ) 伝統文化を守り、伝えていくのは若い人の役割である。	44.3	44.5	8.4	0.7	2.2
ウ) 伝統文化は、私たちの誇りでもある。	59.5	34.6	3.3	0.2	2.4
エ) 伝統文化は、すでに過去のものになっている。	4.8	10.2	47.0	35.5	2.5
オ) 伝統文化は、時代に合わせて変わっていく必要がある。	13.5	43.6	35.0	5.4	2.5

Q16. 伝統文化親子教室事業のホームページ (<http://www.oyakokyoshitsu.jp/>) を閲覧したことがありますか。
あてはまるところ 1 つに○ をつけてください。

- | | | | |
|---------------|-------------|------------|------------|
| 1. 閲覧したことがある。 | 19.0 | | |
| 2. 閲覧したことがない。 | 79.1 | N.A | 1.9 |

◎最後に、あなた自身のことについてお聞きします。

Q17. あなたの年齢は、次のどこにあてはまりますか。あてはまる場所に○をつけてください。

- | | | | |
|------------|-------------|------------|------------|
| 1. ～24歳 | 0.3 | | |
| 2. 25歳～29歳 | 0.3 | | |
| 3. 30歳～34歳 | 3.3 | | |
| 4. 35歳～39歳 | 17.8 | | |
| 5. 40歳～44歳 | 36.2 | | |
| 6. 45歳～49歳 | 27.6 | | |
| 7. 50歳～54歳 | 8.4 | | |
| 8. 55歳～59歳 | 0.8 | | |
| 9. 60歳～ | 3.5 | N.A | 1.7 |

質問はこれでおわりです。最後まで答えてくださり、ありがとうございました。

この調査票は、お子さんを通して「教室」までご提出ください。

「伝統文化親子教室」についての調査

日増しに秋の深まりを感じる季節となり、皆様ご健勝にお過ごしのことと思います。日頃、「伝統文化親子教室」の趣旨をご理解くださるとともに、子供たちの指導にご尽力くださり、感謝申し上げます。

このたび、文化庁の委託を受けて「伝統文化親子教室」の事業を実施しています伝統文化親子教室事業事務局では、「教室」における活動の実態と子供たちの「教室」参加の実際、さらには子供たちが「教室」での活動を通じて、どのように変化したかを調べ、「教室」の成果を検証することになりました。つきましては、日頃、「教室」で子供たちの指導にあたられている指導者の皆さまにも、「教室」の成果にかかわる見方や考え方をおうかがいいたしたく、お願いをすることになりました。お忙しいなか、恐縮ではございますが、調査にご協力くださるよう、お願い申し上げます。

調査は、無記名で行い、書いていただいた答えは数字に直して処理いたしますので、どなたが、どのようにお答えになったかはわからないようになっています。調査で得られたデータの保管や取扱いには、十分に注意いたします。その点、ご安心のうえ、お答えください。

調査の趣旨をご理解くださり、よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

令和3年10月

伝統文化親子教室事業事務局（株式会社 KNT ビジネスクリエイト内）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階（302）

TEL:0570-666-133/FAX:03-6730-6029

E-mail: oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

【お問い合わせ対応時間：平日 10：00～17：00（土日祝及び年末年始休み）】

お答えいただくときの注意

1. 各「教室」とも、指導者のなかからお二人を選んでお願いしています。すべての指導者の方をお願いしているわけではありませんので、その点、ご承知おきください。

※指導者がお一人の場合は、回答者は一人でも構いません。

2. 数字に○をつけてお答えください。数字を記入していただく質問もあります。
3. 記載いただいた個人情報は、伝統文化親子教室の実施成果の把握以外の目的で使用することはありません。

各教室の代表者の方をお願い

指導者の方にお答えいただいた調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード

--	--

 -

--	--	--

 -

--	--

◎指導をされている文化庁が支援している「伝統文化親子教室」（以下、「教室」と呼びます）について、お伺いします。

Q 1. 「教室」の「分野」は何ですか。 あてはまるところに○をつけてください。

1. 神楽、獅子舞、お囃子	7.6
2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居	3.1
3. 雅楽、能楽	2.6
4. 邦楽：箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	9.8
5. 和太鼓	4.8
6. 日本舞踊	8.1
7. 伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	1.5
8. 百人一首、カルタ、囲碁、将棋	7.4
9. 茶道、華道	37.9
10. 武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	3.5
11. 書道	1.3
12. 着物の着付けや作法	6.8
13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど）	0.8
14. その他（何ですか？：_____）	4.5
	N. A 0.3

Q 2. 「教室」がある地域は、どのような地域ですか。

最もよくあてはまるところに○をつけてください。

1. 商業地域	13.1
2. 工業地域	1.1
3. 住宅地域	74.8
4. 農業・漁業・林業地域	10.1
	N. A 0.9

Q 3. 「教室」は、主にどこを会場にして開いていらっしゃいますか。

最も使うことの多いところに○をつけてください。

1. 公民館、自治会館	43.8
2. 市民センター、コミュニティセンター	26.9
3. 児童館	2.0
4. 学校の教室や体育館	11.2
5. 神社、お寺	1.7
6. 広場、公園	0.2
7. 指導者の自宅	2.8
8. その他（どのようなところですか：_____）	10.9
	N. A 0.6

Q 4. 伝統文化親子教室事業は平成 25 年度から開始されています。

貴団体が伝統文化親子教室事業として「教室」を実施されて今年で何年目ですか？

(Ave. 7.74) 年目

Q 5. 1 年間「教室」での活動に最後まで参加し、「教室」を終えられていく子供たちは、全体のどのくらいの割合ですか。おおよその割合で結構ですので、あてはまるところ 1 つに〇 をつけてください。

- | | | | |
|-----------------------------|------|------|-----|
| 1. ほぼ全員が最後まで参加し、「教室」を終えていく。 | 55.8 | | |
| 2. 9 割以上 | 17.9 | | |
| 3. 8 割以上～9 割未満 | 11.4 | | |
| 4. 7 割以上～8 割未満 | 5.5 | | |
| 5. 6 割以上～7 割未満 | 3.1 | | |
| 6. 5 割以上～6 割未満 | 2.4 | | |
| 7. 5 割未満 | 1.3 | | |
| 8. わからない | 1.1 | N. A | 1.5 |

Q 6. 「教室」に参加している子供達の人数は何人ですか？

伝統文化親子教室事業の「教室」となる前に実施されていた教室も含めて、子供達の参加年数別に () のなかに人数を記入してください。

1 年目・・・	(Ave. 12.35) 人	N. A	80
2 年目・・・	(Ave. 12.50) 人	N. A	102
3 年目・・・	(Ave. 11.90) 人	N. A	138
4 年目以降・・・	(Ave. 14.17) 人	N. A	130

Q 7. 「教室」の一回当たりの平均参加人数 (子供) は何人ですか。

学年別に () のなかに人数を記入してください。

<小学生>

1 年生・・・	(Ave. 2.83) 人	N. A	176
2 年生・・・	(Ave. 2.99) 人	N. A	161
3 年生・・・	(Ave. 3.13) 人	N. A	135
4 年生・・・	(Ave. 3.13) 人	N. A	123
5 年生・・・	(Ave. 2.79) 人	N. A	141
6 年生・・・	(Ave. 2.52) 人	N. A	121

<中学生>

1 年生・・・	(Ave. 1.75) 人	N. A	196
2 年生・・・	(Ave. 1.44) 人	N. A	235
3 年生・・・	(Ave. 1.43) 人	N. A	274

Q 8. 「教室」では、あなたを含めて、何人の方が指導にあたっていっぱいますか。直接、子供の指導にあたる方のほか、指導の補助をする方や「教室」開催の準備をされる方なども含めて、「教室」の開催にかかわっていっぱの方の人数をお教えてください。

(Ave. 5.26) 人 N. A 15

Q 9. 「教室」に通うことで子供たちは変わった、と思いますか。次のア) ～テ) にあげる変化について、それぞれ、どの程度「そう思うか」、あてはまるところ 1 つに○ をつけてください。
お答えは、あなたからみた全体的な印象で結構です。

◎「教室」に通うことで、子供たちは…	1. とても そう 思う	2. まあ そう 思う	3. あまり そう 思わ ない	4. まった く そう 思わ ない	5. N. A
ア) 習っていることが、上手にできるようになった。	69.8	28.7	0.0	0.0	1.5
イ) 習っていることに、興味をもつようになった。	63.4	35.2	0.4	0.0	1.1
ウ) 習っていることを、他の人に見せたり、聞かせたりすることを望むようになった。	39.0	52.9	6.8	0.0	1.3
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなった。	55.2	40.9	2.8	0.0	1.1
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった。	52.9	41.4	4.1	0.4	1.3
カ) 学校の友だちのほかに、友だちが増えた。	31.1	52.1	13.1	0.0	3.7
キ) 年上の友だちや年下の友だちが増えた。	35.5	46.2	14.2	0.0	4.1
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになった。	41.3	48.3	7.9	0.0	2.6
ケ) 大人の人と気兼ねなく話をするようになった。	32.4	53.6	11.6	0.2	2.2
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった。	13.1	30.8	45.7	4.1	6.4
サ) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の行事に関心をもつようになった。	26.0	46.2	22.5	1.5	3.9
シ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことに、興味をもつようになった。	24.5	55.2	16.6	0.4	3.3
ス) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことを、大事にするようになった。	24.1	55.1	16.9	0.4	3.5
セ) 地域の歴史に関心をもつようになった。	15.8	45.3	31.9	1.8	5.2
ソ) 地域の自然に関心をもつようになった。	17.7	47.1	29.7	1.3	4.2

◎「教室」に通うことで、子供たちは…	1. とても そう思う	2. まあ そう思う	3. あまり そう思わない	4. まったく そう思わない	5. N. A
タ) 地域のお祭や行事に参加するようになった。	34.3	44.6	16.4	0.7	4.1
チ) 住んでいるところに愛着をもつようになった。	23.2	56.4	16.0	0.4	4.1
ツ) むずかしいことにチャレンジしようという意欲が増した。	47.9	46.6	3.3	0.0	2.2
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した。	58.9	39.0	0.7	0.0	1.3

Q10. 「教室」は、社会でどのような役割を果たしているとお考えですか。

それぞれについて、どの程度、役立っているか、あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

◎「教室」は…	1. とても 役立っている	2. まあ 役立っている	3. あまり 役立っていない	4. まったく 役立っていない	5. N. A
ア) わが国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	57.8	38.9	1.8	0.0	1.5
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高めることに…	59.7	37.4	1.3	0.0	1.7
ウ) 子供たちに、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てることに…	56.4	39.4	2.8	0.0	1.5
エ) 地域の人々のつながりを生み出すことに…	43.1	44.0	9.2	0.0	3.7
オ) 地域活動を活発にすることに…	39.4	47.1	9.2	0.2	4.1
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	41.8	47.3	7.4	0.0	3.5
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせることに…	69.2	29.1	0.4	0.0	1.3
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させることに…	56.4	37.2	4.2	0.0	2.2

Q11. 「教室」の指導をするなかで、あなたがどのように感じていらっしゃるかをお聞きます。

次のそれぞれが、どのくらい、あてはまるか、あてはまるところ1つに○をつけてください。

◎「教室」の指導をするなかで…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N.A
ア) 子供について新たな発見をしている。	72.2	25.4	0.9	0.0	1.5
イ) 自分自身について新たな発見をしている。	58.6	35.5	4.4	0.0	1.5
ウ) 教えている内容について新たな発見をしている。	61.9	33.1	2.8	0.2	2.0
エ) 子供に教えることの喜びを感じている。	79.2	19.3	0.4	0.0	1.1
オ) 地域の人々とのつながりができてきている。	50.3	41.1	6.8	0.0	1.8
カ) 地域の歴史や文化、自然についての理解が深まっている。	36.5	48.8	11.8	0.4	2.6
キ) 地域の課題がわかってきている。	22.1	49.9	23.0	1.3	3.7
ク) わが国の伝統文化について、理解が深まっている。	56.5	38.9	2.9	0.2	1.5
ケ) 達成感を感じている。	64.1	31.7	2.2	0.4	1.7
コ) 生きがいを感じている。	62.2	33.7	2.4	0.0	1.7

Q12. 過去にあなたが「教室」で指導した子供の中で、「教室」で習ったことを高校生・大学生・社会人になっても続けているという方をご存知ですか。 あてはまるところに○をつけてください。

- | | | | |
|---------------------------|------|-----|-----|
| 1. 知っている。 | 49.9 | | |
| 2. 聞いたことがない。 | 19.0 | | |
| 3. まだ、高校生・大学生・社会人になっていない。 | 24.9 | N.A | 6.3 |

Q12-2. Q12で「1. 知っている」とお答えの方にお伺いします。

その方が教室で学ばれた分野で活躍している場合、お名前と活躍の状況等をお教えてください。

(ここでいう活躍している場合とは、華道や日本舞踊などの教授になった、プロの能楽師になった、将棋で奨励会に入会した、その分野で表彰されたなどです。)

	氏 名	活躍の状況 (受賞歴等)
①		
②		
③		
④		
⑤		

◎あなたのことをお聞きします。

Q13. あなたの年齢は、次のどこにあてはまりますか。 あてはまるところに○をつけてください。

- | | | | |
|------------|------|-----|-----|
| 1. 19歳以下 | 0.2 | | |
| 2. 20歳～29歳 | 2.2 | | |
| 3. 30歳～39歳 | 5.2 | | |
| 4. 40歳～49歳 | 16.8 | | |
| 5. 50歳～59歳 | 19.2 | | |
| 6. 60歳～69歳 | 23.9 | | |
| 7. 70歳～79歳 | 25.4 | | |
| 8. 80歳以上 | 5.7 | N.A | 1.5 |

Q14. あなたの性か別をお教えてください。 あてはまる方に○をつけてください。

- | | | | |
|-------|------|-----|-----|
| 1. 男性 | 24.9 | | |
| 2. 女性 | 74.0 | N.A | 1.1 |

Q15. あなたは「教室」で、主にどのような役割を担っていますか。

あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1. 子供に、直接、指導している。 | 75.7 |
| 2. 指導の補助をしている。 | 19.5 |
| 3. 「教室」を開催するための準備をしている。 | 2.9 |
| 4. その他（どのような役割ですか：_____） | 0.4 |
| | N.A 1.5 |

Q16. あなたは、これまで何年間、「教室」で子供たちの指導をされていらっしゃいましたか。

続けて指導をされていらっしゃらなくても結構です。

伝統文化親子教室事業の「教室」となる前から指導されている教室も含め、これまで指導された年数の総計をお答えください。

（ Ave. 12.85 ） 年間 N.A 14

Q17. 「伝統文化親子教室」事業を通じて、ご自身の伝統文化に関わる活動において良い変化をもたらしたと思いますか。

あてはまるところ 1 つに ○ をつけてください。

- | | |
|--------------------------|------|
| 1. 良い変化をもたらしたと思う。 | 73.7 |
| 2. まあ、良い変化をもたらしたと思う。 | 21.9 |
| 3. どちらともいえない。 | 1.1 |
| 4. あまり、良い変化をもたらしたと思わない。 | 0.0 |
| 5. まったく、良い変化をもたらしたと思わない。 | 0.0 |
| N. A | 3.3 |

(4, 5 の理由 :)

Q18. 伝統文化親子教室事業のホームページ (<http://www.oyakokyoshitsu.jp/>) を閲覧したことがありますか。 あてはまるところ 1 つに ○ をつけてください。

- | | |
|---------------|------|
| 1. 閲覧したことがある。 | 63.4 |
| 2. 閲覧したことがない。 | 32.4 |
| N. A | 4.2 |

Q19. 伝統文化親子教室の参加者を集めるにあたって、どのような工夫や努力をしていますか (自由記載)。

[]

Q20. 伝統文化親子教室に携わる中で、どのような改善や支援が必要と思いますか (自由記載)。

[]

質問はこれで終わりです。最後までお答えくださり、ありがとうございました。

この調査票は、「教室」の代表者の方におわたしてください。

「放課後子供教室」についての調査

日増しに秋の深まりを感じる季節となり、皆様ご健勝にお過ごしのことと思います。日頃、「伝統文化親子教室」の趣旨をご理解くださるとともに、子供たちの指導にご尽力くださり、感謝申し上げます。

このたび、文化庁の委託を受けて「伝統文化親子教室」の事業を実施しています伝統文化親子教室事業事務局では、「伝統文化親子教室」における調査に加え、「放課後子供教室」においても、その活動の実態と子供たちの参加の実際、さらには子供たちが活動を通じて、どのように変化したかを調べ、成果を検証することになりました。

「放課後子供教室」と連携した取組を実施されている指導者の皆さまにも、成果にかかわる見方や考え方をおうかがいいたしたく、お願いをすることになりました。お忙しいなか、恐縮ではございますが、調査にご協力くださるよう、お願い申し上げます。

調査は、無記名で行い、書いていただいた答えは数字に直して処理いたしますので、どなたが、どのようにお答えになったかはわからないようになっています。調査で得られたデータの保管や取扱いには、十分に注意いたします。その点、ご安心のうえ、お答えください。

調査の趣旨をご理解くださり、よろしくご協力のほど、お願い申し上げます。

令和3年10月

伝統文化親子教室事業事務局（株式会社 KNT ビジネスクリエイト内）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階（302）

TEL:0570-666-133/FAX:03-6730-6029

E-mail: oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

【お問い合わせ対応時間：平日 10：00～17：00（土日祝及び年末年始休み）】

お答えいただくときの注意

1. 各「教室」とも、指導者のなかからお二人を選んでお願いしています。すべての指導者の方をお願いしているわけではありませんので、その点、ご承知おきください。

※指導者がお一人の場合は、回答者は一人でも構いません。

2. 数字に○をつけてお答えください。数字を記入していただく質問もあります。

各教室の代表者の方をお願い

指導者の方にお答えいただいた調査票は、以下に「団体コード」をご記入の上、取りまとめて事務局までご返送ください。

団体コード

--	--

 -

--	--	--

 -

--	--

◎指導をされている「放課後子供教室」（以下、「子供教室」と呼びます）について、お伺いします。

Q 1. 「子供教室」の「分野」は何ですか。

あてはまるものに○をつけてください。

1. 神楽、獅子舞、お囃子	0.0
2. 民謡や町や村に昔から伝わっている踊り、お芝居や人形芝居	0.0
3. 雅楽、能楽	0.0
4. 邦楽：箏、三味線、尺八、笛、太鼓など	19.0
5. 和太鼓	0.0
6. 日本舞踊	9.5
7. 伝統工芸：昔から伝えられてきた物づくり	0.0
8. 百人一首、カルタ、囲碁、将棋	4.8
9. 茶道、華道	14.3
10. 武道：柔道、剣道、古式泳法、相撲、弓道など	0.0
11. 書道	14.3
12. 着物の着付けや作法	23.8
13. 昔の遊びや仕事（おりがみ、お手玉、さかなとり、田植えなど）	4.8
14. その他（何ですか？：_____）	9.5
	N. A 0.0

Q 2. 「子供教室」の開催場所がある地域は、どのような地域ですか。

最もよくあてはまるところに○をつけてください。

1. 商業地域	0.0
2. 工業地域	0.0
3. 住宅地域	90.0
4. 農業・漁業・林業地域	10.0
N. A	0.0

Q 3. 「子供教室」は、主にどこを会場にして開いていらっしゃいますか。

最も使うことの多いところに○をつけてください。

1. 小学校、学校内施設	60.0
2. 児童館	0.0
3. 公民館	40.0
4. 市民センター、コミュニティセンター	0.0
5. その他（どのようなところですか：_____）	0.0
	N. A 0.0

Q 4. 「子供教室」は、何をきっかけに知りましたか。

あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 都道府県の担当部局からの情報提供	0.0
2. 市区町村の担当部局からの情報提供	31.3
3. 「子供教室」に申請・参加している他団体からの紹介	15.6
4. 文部科学省のホームページ	12.5
5. 「伝統文化親子教室事業」の募集案内	31.3
6. 「伝統文化親子教室事業」の「親子教室」に参加している子供の保護者からの紹介	3.1
7. その他 ()	6.3
	N. A 0.0

Q 5. 「子供教室」の1回当たりの平均参加人数（子供）は何人ですか。学年別に（ ）のなかに人数を記入してください。

<小学生>

1年生・・・(Ave. 2.35) 人	N. A	5
2年生・・・(Ave. 2.45) 人	N. A	4
3年生・・・(Ave. 2.85) 人	N. A	5
4年生・・・(Ave. 3.80) 人	N. A	0
5年生・・・(Ave. 2.05) 人	N. A	5
6年生・・・(Ave. 1.70) 人	N. A	8

<中学生>

1年生・・・(Ave. 0.20) 人	N. A	18
2年生・・・(Ave. 0.00) 人	N. A	20
3年生・・・(Ave. 0.20) 人	N. A	17

Q 6. 「子供教室」では、あなたを含めて、何人の方が指導にあたっていますか。直接、子供の指導にあたる方のほか、指導の補助をする方や開催の準備をされる方なども含めて、開催にかかわっていらっしゃる方の人数をお教えてください。

直接指導をしている方の人数 (Ave. 3.85) 人 N. A 1

上記の他、指導の補助をする方や開催に関わっている方の人数 (Ave. 2.45) 人

N. A 3

Q 7. 「子供教室」に通うことで子供たちは変わった、と思いますか。次のア)～テ) にあげる変化について、それぞれ、どの程度「そう思うか」、あてはまるところ1つに○をつけてください。お答えは、あなたからみた全体的な印象で結構です。

◎「子供教室」に通うことで、子供たちは…	1. とても そう思う	2. まあ そう思う	3. あまり そう思わない	4. まったく そう思わない	5. N. A
ア) 習っていることが、上手にできるようになった。	95.0	5.0	0.0	0.0	0.0
イ) 習っていることに、興味をもつようになった。	85.0	15.0	0.0	0.0	0.0
ウ) 習っていることを、他の人に見せたり、聞かせたりすることを望むようになった。	35.0	55.0	10.0	0.0	0.0
エ) 返事やお礼がしっかり言えたり、あいさつができたり、礼儀正しくなった。	70.0	25.0	5.0	0.0	0.0
オ) 使ったものの後かたづけを自分でするようになった。	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0
カ) 学校の友だちのほかに、友だちが増えた。	35.0	40.0	20.0	0.0	5.0
キ) 年上の友だちや年下の友だちが増えた。	45.0	30.0	20.0	0.0	5.0
ク) 年下の子供をやさしくみてあげられるようになった。	40.0	30.0	25.0	0.0	5.0
ケ) 大人の人と気兼ねなく話をするようになった。	20.0	70.0	10.0	0.0	0.0
コ) 昔からある、知らなかった遊びをするようになった。	60.0	25.0	10.0	0.0	5.0
サ) お正月や豆まき、ひな祭りや七夕などの季節の行事に関心をもつようになった。	10.0	65.0	20.0	0.0	5.0
シ) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことに、興味をもつようになった。	15.0	75.0	5.0	0.0	5.0
ス) 生活のなかの昔から伝えられてきたことや守られてきたことを、大事にするようになった。	10.0	80.0	5.0	0.0	5.0
セ) 地域の歴史に関心をもつようになった。	10.0	45.0	40.0	0.0	5.0
ソ) 地域の自然に関心をもつようになった。	65.0	30.0	0.0	0.0	5.0
タ) 地域のお祭や行事に参加するようになった。	20.0	45.0	30.0	0.0	5.0
チ) 住んでいるところに愛着をもつようになった。	20.0	60.0	15.0	0.0	5.0
ツ) むずかしいことにチャレンジしようという意欲が増した。	65.0	35.0	0.0	0.0	0.0
テ) 最後までがんばってやりとげようとする粘り強さが増した。	65.0	35.0	0.0	0.0	0.0

Q 8. 「子供教室」は、社会でどのような役割を果たしているとお考えですか。

それぞれについて、どの程度、役立っているか、あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

◎「子供教室」は…	1. とても 役立っている	2. まあ 役立っている	3. あまり 役立っていない	4. まったく 役立っていない	5. N. A
ア) わが国の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
イ) 子供たちの、歴史、伝統、文化に対する関心を高めることに…	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
ウ) 子供たちに、歴史、伝統、文化を尊重する態度を育てることに…	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
エ) 地域の人々のつながりを生み出すことに…	25.0	75.0	0.0	0.0	0.0
オ) 地域活動を活発にすることに…	45.0	55.0	0.0	0.0	0.0
カ) 地域の歴史や伝統、文化に対する人々の理解を深めたり、広めたりすることに…	55.0	45.0	0.0	0.0	0.0
キ) 子供たちに、豊かな人間性を身につけさせることに…	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0
ク) 地域の歴史や伝統、文化を次世代に引き継ぎ、発展させることに…	65.0	25.0	10.0	0.0	0.0

Q 9. 「子供教室」の指導をするなかで、あなたがどのように感じていらっしゃるかをお聞きます。

次のそれぞれが、どのくらい、あてはまるか、あてはまるところ 1つに○ をつけてください。

◎「子供教室」の指導をするなかで…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N. A
ア) 子供について新たな発見をしている。	75.0	20.0	0.0	0.0	5.0
イ) 自分自身について新たな発見をしている。	75.0	15.0	5.0	0.0	5.0
ウ) 教えている内容について新たな発見をしている。	65.0	35.0	0.0	0.0	0.0
エ) 子供に教えることの喜びを感じている。	95.0	0.0	0.0	0.0	5.0

◎あなたのことをお聞きます。

Q10. あなたの年齢は、次のどこにあてはまりますか。 あてはまるところに○をつけてください。

◎「子供教室」の指導をするなかで…	1. とても あてはまる	2. まあ あてはまる	3. あまり あてはまらない	4. まったく あてはまらない	5. N.A
オ) 学校関係者とのつながりができてきている。	60.0	35.0	0.0	0.0	5.0
カ) 地域の人々とのつながりができてきている。	40.0	45.0	10.0	0.0	5.0
キ) 地域の歴史や文化、自然についての理解が深まっている。	30.0	45.0	20.0	0.0	5.0
ク) 地域の課題がわかってきている。	15.0	55.0	15.0	10.0	5.0
ケ) わが国の伝統文化について、理解が深まっている。	55.0	40.0	0.0	0.0	5.0
コ) 達成感を感じている。	70.0	30.0	0.0	0.0	0.0
サ) 生きがいを感じている。	65.0	30.0	0.0	0.0	5.0

- | | | | |
|------------|------|-----|-----|
| 1. 19歳以下 | 0.0 | | |
| 2. 20歳～29歳 | 0.0 | | |
| 3. 30歳～39歳 | 15.0 | | |
| 4. 40歳～49歳 | 10.0 | | |
| 5. 50歳～59歳 | 30.0 | | |
| 6. 60歳～69歳 | 20.0 | | |
| 7. 70歳～79歳 | 25.0 | | |
| 8. 80歳以上 | 0.0 | N.A | 0.0 |

Q11. あなたの性別をお教えてください。 あてはまる方に○をつけてください。

- | | | | |
|-------|------|-----|-----|
| 1. 男性 | 15.0 | | |
| 2. 女性 | 85.0 | N.A | 0.0 |

Q12. あなたは「子供教室」で、主にどのような役割を担っていますか。

あてはまる場所 1つに○をつけてください。

- | | | | |
|--------------------------|------|-----|-----|
| 1. 子供に、直接、指導している。 | 80.0 | | |
| 2. 指導の補助をしている。 | 20.0 | | |
| 3. 「教室」を開催するための準備をしている。 | 0.0 | | |
| 4. その他（どのような役割ですか：_____） | 0.0 | N.A | 0.0 |

Q13. 「子供教室」をはじめ、あなたは、これまで何年間、子供たちの指導をされていらっしゃるいましたか。続けて指導をされていらっしゃるなくても結構です。

これまで指導された年数の総計をお答えください。

(Ave. 8.00) 年間 N.A 0.0

Q14. 「子供教室」の事業は、どのくらい、意義のあることだと思いますか。

あてはまるところ 1 つに○ をつけてください。

- | | |
|------------------------|------------|
| 1. とても意義のあることだと思う。 | 100.0 |
| 2. まあ、意義のあることだと思う。 | 0.0 |
| 3. どちらともいえない。 | 0.0 |
| 4. あまり、意義のあることだと思わない。 | 0.0 |
| 5. まったく、意義のあることだと思わない。 | 0.0 |
| | N.A 0.0 |

(4, 5 の理由 :)

Q15. 「子供教室」の事業と、「伝統文化親子教室事業」が連携することに、どのくらい、効果があったと思いますか。 あてはまるところ 1 つに○ をつけてください。

- | | |
|----------------------|------------|
| 1. とても効果があったと思う。 | 100.0 |
| 2. まあ、効果があったと思う。 | 0.0 |
| 3. どちらともいえない。 | 0.0 |
| 4. あまり、効果があったと思わない。 | 0.0 |
| 5. まったく、効果があったと思わない。 | 0.0 |
| | N.A 0.0 |

(4, 5 の理由 :)

Q16. 「子供教室」の事業と、「伝統文化親子教室事業」との今後の連携について、どのように思っていますか。 あてはまるところ 1 つに○ をつけてください。

- | | |
|---------------------|------------|
| 1. 今後も連携する方が良い。 | 100.0 |
| 2. どちらともいえない。 | 0.0 |
| 3. 今後は事業を分けて行う方が良い。 | 0.0 |
| | N.A 0.0 |

(3 の理由 :)

Q17. 伝統文化親子教室事業のホームページ (<http://www.oyakokyoshitsu.jp/>) を閲覧したことがありますか。 あてはまるところ1つに○をつけてください。

1. 閲覧したことがある。 **75.0**

2. 閲覧したことがない。 **25.0**

N.A 0.0

Q19. 伝統文化親子教室の参加者を集めるにあたって、どのような工夫や努力をしていますか
(自由記載)。

Q20. 伝統文化親子教室に携わる中で、どのような改善や支援が必要だと思いますか (自由記載)。

質問はこれで終わりです。最後までお答えくださり、ありがとうございました。

この調査票は、代表者の方にお渡しください。

7. 資料

■ 調査実施計画

伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査 実施計画

1. 調査の目的

伝統文化親子教室事業の目的である「伝統文化・生活文化に関する活動を計画的・継続的に体験・修得できる機会を提供する取組に対して支援を行うことにより、伝統文化・生活文化の継承・発展と、子供たちの豊かな人間性の涵養（かんよう）に資する」（令和3年度募集案内）ことを踏まえ、本事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、本事業の実施成果を把握する。

2. 調査の概要

上記の目的を達成するために、以下の質問紙調査を実施する。

- (1) 「親子教室」に参加した子供に対する質問紙調査（子供調査）
- (2) 「親子教室」に子供を参加させた保護者に対する質問紙調査（保護者調査）
- (3) 「親子教室」の指導者に対する質問紙調査（指導者調査）
- (4) 「放課後子供教室」と連携した取組における指導者に対する質問紙調査（指導者調査＜放課後子供教室＞）

3. 調査の実施計画

3-1. 各調査における調査対象者

調 査	対 象 者	対象者数
(1) 子供調査	親子教室に参加している小学4年～中学3年の子供	5,000名
(2) 保護者調査	上記の子供の保護者	5,000名
(3) 指導者調査	親子教室の指導者	1,000名
(4) 指導者調査 ＜放課後子供教室＞	放課後子供教室の指導者	42名

3-2. 調査項目

- ・平成26年度文化庁委託事業「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」の調査項目を基本とする

調 査	調 査 項 目
(1) 子供調査	1 A. 学年 1 B. 性別 2. 参加している「教室」の分野 3. 参加前の経験の有無 4. 参加年数（今年で何年目か）

調 査	調 査 項 目
(1) 子供調査	5. 参加のきっかけ 5'. 参加のきっかけになった人 6. 参加の動機 7. 「教室」に参加したことによる変化（子供自身の認識） 8. 参加の度合い 9. 習っていることに関連する読書 10. 習っていることに関連するテレビ視聴 11. 参加についての総合評価（通ってよかったか） 12. 習っていることの意義（生活に役立つか） 13. 習い続けていくことについての意欲 14. 博物館・美術館の見学・参観 15. 伝統文化の大切さについての考え 16. 伝統文化親子教室事業専用 HP の閲覧
(2) 保護者調査	1. 子供との続柄 2 A. 子供の学年 2 B. 子供の性別 3. 子供が参加している「教室」の分野 4. 子供の参加年数（今年で何年目か） 5. 子供を参加させた理由 6. 「教室」についての情報源 7. 子供の参加についての対応 8. 子供の参加の度合い 9. 「教室」に参加したことによる子供の変化（保護者の認識） 10. 子供の参加による保護者自身の変化の認識 11. 子供に習い続けさせたいかについての意向 12. 参加させたことについての総合評価（通わせてよかったか） 13. 習っていることの意義（生活に役立つか） 14. 保護者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義 15. 「伝統文化」についての考え 16. 伝統文化親子教室事業専用 HP の閲覧 17. 保護者の年齢
(3) 指導者調査	1. 指導している「教室」の分野 2. 指導している「教室」の所在地域特性 3. 「教室」開催場所・施設 4. 「教室」への参加年数 5. 修了する子供の割合 6. 参加している子供の人数（参加年数別） 7. 参加している子供の人数（学年別）

調 査	調 査 項 目
(3) 指導者調査	8. 指導者の人数 9. 「教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識） 10. 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の社会における役割 11. 指導するなかで感じていること 12. 参加した子供の継続性 13. 指導者の年齢 14. 指導者の性別 15. 指導者の「教室」での役割 16. 指導者の「教室」での指導経験年数 17. 指導者からみた「伝統文化親子教室」事業の意義 18. 伝統文化親子教室事業専用 HP の閲覧
(4) 指導者調査 ＜放課後子供教室＞	1. 指導している「子供教室」の分野 2. 指導している「子供教室」開催場所の地域特性 3. 「子供教室」開催場所・施設 4. 「子供教室」を知ったきっかけ 5. 参加している子供の人数（学年別） 6. 指導者の人数 7. 「子供教室」に参加したことによる子供の変化（指導者の認識） 8. 指導者からみた「子供教室」の社会における役割 9. 指導するなかで感じていること 10. 指導者の年齢 11. 指導者の性別 12. 指導者の「子供教室」での役割 13. 指導者の「子供教室」等での指導経験年数 14. 指導者からみた「子供教室」の意義 15. 「子供教室」と「伝統文化親子教室事業」との連携効果 16. 「子供教室」と「伝統文化親子教室事業」との今後の連携 17. 伝統文化親子教室事業専用 HP の閲覧

3－3. 調査対象者の抽出法

◆調査対象者の抽出：親子教室実施団体を基礎に抽出

【第1段階】親子教室実施団体の抽出

- ・抽出の母体の設定：第2次審査に合格した令和3年度親子教室実施団体のうち、事業の完了日が令和4年1月31日であり、小学4年生～中学3年生が参加する実施団体から500団体を抽出（「放課後子供教室」にも参加する団体を考慮し抽出）
- ・抽出法：無作為抽出を基本とし、都道府県及び活動分野等が偏らないよう調整

【第2段階】第1段階で抽出した親子教室実施団体から調査対象者を抽出

- (1) 子供調査：当該教室に参加している子供(小学4年生～中学3年生)から10名までを抽出
 - ・抽出は当該教室に一任（特定の学年や性別に集中しないように依頼）
 - ・10名×500団体＝5,000名
- (2) 保護者調査：子供調査の対象となった子供の保護者（1団体あたり10名まで）
 - ・集計に際しては、子供とのマッチングは図らない
 - ・10名×500団体＝5,000名
- (3) 指導者調査：当該教室の指導者から2名までを抽出
 - ・抽出は、当該教室に一任
 - ・2名×500団体＝1,000名
- (4) 指導者調査＜放課後子供教室＞
 - ：当該の子供教室の指導者から2名までを抽出
 - ・抽出は、当該教室に一任
 - ・2名×21団体＝42名

3－4. 調査票（質問紙）

- ・調査票の素案を作成し、『調査研究委員会』において検討（大幅に変更する場合のみ）
- ・調査票確認のため調査研究委員会委員から助言を仰ぐ（大幅に変更する場合のみ）
- ・各調査票は別添のとおり

3－5. 調査系統と調査の方法

- ・伝統文化親子教室事業 事務局から調査対象団体の代表者に調査を依頼

〔内容物〕 依頼文書（別添のとおり）

子供調査・調査票 10部

保護者調査・調査票 10部

指導者調査・調査票 2部

指導者調査＜放課後子供教室＞・調査票 2部

返信用封筒 1部

・回答依頼・調査票の回収

(1) 子供調査：教室開催時に調査対象の子供に記入を依頼 → 回収

(2) 保護者調査：子供を通して記入を依頼 → 子供を通して回収

(3) 指導者調査：指導者が記入

(4) 指導者調査＜放課後子供教室＞：指導者が記入

・調査対象団体において(1)～(4)の調査票を取りまとめ、各調査票に「団体コード」を記入

・調査対象団体の代表者は、回収した調査票を返信用封筒に封入し提出

3-6. 調査票の作成実務及び検票作業・データの入力・集計作業

◆作業の役割分担

- ・調査票の作成実務：素案の作成 → 株式会社 KNT ビジネスクリエイト
- ・調査票検票作業：株式会社 KNT ビジネスクリエイト
- ・データの入力：株式会社 KNT ビジネスクリエイト
- ・データの集計・分析：素案の作成 → 株式会社 KNT ビジネスクリエイト
確認・助言 → 調査研究委員会

3-7. 集計計画及び結果報告の方針

◆集計計画

調 査	集 計 計 画
(1) 子供調査	単純集計 クロス集計：子供の学年別、子供の性別、教室の分野別、他
(2) 保護者調査	単純集計 クロス集計：子供の学年別、子供の性別、教室の分野別、他
(3) 指導者調査	単純集計 クロス集計：教室の分野別、指導者の年齢別、指導者の性別、他
(4) 指導者調査 ＜放課後子供教室＞	単純集計 クロス集計：教室の分野別、指導者の年齢別、指導者の性別、他

◆結果報告の方針

- ・方針：単純集計結果を中心に報告、クロス集計結果で補足

図表中心（可能な限り、グラフ化）、結果について短く解説

3-8. スケジュール

・ 調査計画の立案	: 9 月
・ 調査計画／調査票の素案検討	: 9 月
・ 調査対象の抽出・選定・確定	: 9 月
・ 調査計画／調査票の確定	: 9 月下旬
・ 調査票の印刷	: 10 月上旬
・ 調査票の発送・調査の依頼	: 10 月 29 日
・ 調査の実施	: 10 月 29 日～12 月 10 日
・ 調査票の回収期限	: 12 月 10 日 ※回収済から順次、検票・入力
・ 調査票の検票・データ入力の完了	: 12 月下旬～1 月中旬
・ データクリーニング・集計	: 1 月中旬～2 月中旬
・ 集計結果アウトプット完了	: 2 月中旬
・ 集計結果の分析、報告書草案検討	: 2 月中旬～2 月下旬
・ 報告書執筆	: 2 月下旬～3 月上旬
・ 報告書原稿脱稿	: 3 月中旬 調査研究委員会
・ 報告書編集	: 3 月中旬～3 月下旬
・ 報告書文化庁提出	: 3 月下旬

4. 伝統文化親子教室調査研究の専門家意見聴取

(1) 専門家意見聴取

伝統文化親子教室の事業成果に関する調査の客観的意見を頂くため、専門家へ報告書データを送付し意見を頂くこととする。

(2) 委員名簿

菊 池 健 策	元文化庁文化財部伝統文化課 主任文化財調査官
佐々木 正 直	群馬県立館林美術館特別館長
星 野 紘	東京文化財研究所名誉研究員

(3) 委員への意見聴取スケジュール

◆委員の委嘱	令和 4 年 1 月
◆委員へ意見聴取	令和 4 年 3 月中旬 ※報告書を送付
◆委員への聴取方法	郵送、E-mail、電話等

令和3年10月29日

伝統文化親子教室実施団体

代 表 者 殿

伝統文化親子教室事業 事務局

「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」の
実施について（依頼）

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

令和3年度伝統文化親子教室につきましては、計画に沿ってお進めいただいておりますことと存じます。親子教室事業の目的達成に向けてのご尽力に感謝申し上げます。

さて当事務局は、今年度、文化庁から「伝統文化親子教室事業」業務を委託され、このたび、「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」を実施することになりました。この調査のねらいは、伝統文化親子教室事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、親子教室の実施成果を把握することです。調査の対象は、教室に参加されている「子供」とその「保護者」、そして教室の「指導者」の3者であり、調査の実施については、令和3年度伝統文化親子教室実施団体の中から約500団体を無作為に抽出させていただき、調査票の配布・回収にご協力をいただくことにいたしました。

目下、このような計画にて調査を進めておりますが、このたび、調査にご協力いただく団体を抽出しましたところ、貴団体が、協力団体としてリストにあがってまいりました。

ご協力をいただきたいことは、「別紙」に記させていただいております。詳細は、そちらをご参照いただきたく存じますが、「子供」「保護者」「指導者」のそれぞれに調査票を配布し、記入をお願いしていただき、その後、これらを回収、取りまとめの上、ご返送いただきたいということが概略でございます。返送の期限は、令和3年12月10日（金）までとしております。なお、回収された調査票は集計し、報告書にまとめることとしております。

貴殿におかれましては、伝統文化親子教室の実施にご尽力いただいているところ、ご面倒な調査をお願いし申し訳ございませんが、この調査の趣旨にご理解を賜り、調査の実施にご協力くださるようお願い申し上げます。

伝統文化親子教室事業 事務局（株式会社 KNT ビジネスクリエイト内）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階（302）

TEL：0570-666-133／FAX：03-6730-6029

E-mail：oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

【お問い合わせ対応時間：平日 10:00～17:00（土日祝及び年末年始休み）】

別紙

「親子教室」の代表者の方にご協力いただきたいこと

1. 調査の種類

- ① 親子教室に参加している子供にお願いする質問紙調査（「子供調査」）
- ② 親子教室に子供を参加させている保護者にお願いする質問紙調査（「保護者調査」）
- ③ 親子教室の指導者にお願いする質問紙調査（「指導者調査」）

2. 調査対象者の抽出

① 「子供調査」

親子教室に参加している子供の中から、小学校4年生から中学校3年生までの子供10名までを選んでください。

子供を選ぶときは、特定の学年や性別に集中しないようにしてください。

※参加している子供が、特定の学年や性別に偏っている場合は、その中から10名までを選んでください。

② 「保護者調査」

「子供調査」の対象となった子供の保護者（10名）にお願いしてください。

兄弟、姉妹が対象となる場合は、まとめて回答せず、子供1名に対して保護者1名の回答となるようお願いしてください。複数の子供に同じ保護者が回答することになっても構いません。

③ 「指導者調査」

親子教室の指導者の中から2名までを選んでください。

※指導者が1名の場合は、1名のみで結構です。

3. 調査の流れ（調査票の配布・回収・提出）

（1）調査対象の「親子教室」の代表者あてに調査を依頼します。

以下4点の資料をお送りします。

- ・「子供調査・調査票」10部
- ・「保護者調査・調査票」10部
- ・「指導者調査・調査票」2部
- ・返信用封筒 1部

- (2)「親子教室」の代表者は、それぞれの調査票を配布し、記入をお願いしてください。
そして記入の終わった調査票を回収してください。

※複数の団体により構成された実行委員会の場合、実行委員会から各構成団体へ配布してください。

①「子供調査」

教室開催時などに、調査対象の子供に「子供調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

②「保護者調査」

「子供調査」の調査対象となった子供に、「保護者調査・調査票」を持たせて保護者に記入をお願いし、子供を通して調査票を回収してください。

③「指導者調査」

指導者に「指導者調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

- (3)「親子教室」の代表者は、調査票回収後に、当事務局からの通知等に記されている「団体コード」を、すべての調査票に記入してください。

- (4)「親子教室」の代表者は、回収した調査票を取りまとめて、同封の返信用封筒を用いて、令和3年12月10日（金）までに、返送してください。

※ 「親子教室」の開催日程の都合により、令和3年12月10日（金）を過ぎて返送となる場合は、事前に伝統文化親子教室事業 事務局までご連絡ください。

令和3年10月29日

伝統文化親子教室実施団体

代 表 者 殿

伝統文化親子教室事業 事務局

「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」の
実施について（依頼）

謹啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

令和3年度伝統文化親子教室につきましては、計画に沿ってお進めいただいておりますことと存じます。親子教室事業の目的達成に向けてのご尽力に感謝申し上げます。

さて当事務局は、今年度、文化庁から「伝統文化親子教室事業」業務を委託され、このたび、「伝統文化親子教室 子供たちの意識・行動に関する調査」を実施することになりました。この調査のねらいは、伝統文化親子教室事業を通じて子供たちが計画的・継続的に伝統文化を体験・修得したことで、子供たちの伝統文化への意識や行動がどのように変化したかを調査し、親子教室の実施成果を把握することにあります。調査の対象は、教室に参加されている「子供」とその「保護者」、そして教室の「指導者」の3者であり、調査の実施については、令和3年度伝統文化親子教室実施団体の中から約500団体を無作為に抽出させていただき、調査票の配布・回収にご協力をいただくことにいたしました。

目下、このような計画にて調査を進めておりますが、このたび、調査にご協力いただく団体を抽出しましたところ、貴団体が、協力団体としてリストにあがってまいりました。

ご協力をいただきたいことは、「別紙」に記させていただいております。詳細は、そちらをご参照いただきたく存じますが、「子供」「保護者」「指導者」のそれぞれに調査票を配布し、記入をお願いしていただき、その後、これらを回収、取りまとめの上、ご返送いただきたいということが概略でございます。返送の期限は、令和3年12月10日（金）までとしております。なお、回収された調査票は集計し、報告書にまとめることとしております。

また、「放課後子供教室」と連携した取組を実施している場合は、同様に「指導者」の方に調査票の配布、記入をお願いしていただき、回収、取りまとめの上、ご返送をお願い申し上げます。返送の期限は、同様に令和3年12月10日（金）までとしております。

貴殿におかれましては、伝統文化親子教室の実施にご尽力いただいているところ、ご面倒な調査をお願いし申し訳ございませんが、この調査の趣旨にご理解を賜り、調査の実施にご協力くださるようお願い申し上げます。

伝統文化親子教室事業 事務局（株式会社 KNT ビジネスクリエイト内）

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24 西新宿 KF ビル 3 階（302）

TEL：0570-666-133／FAX：03-6730-6029

E-mail：oyakokyoshitsu@gp.knt.co.jp

【お問い合わせ対応時間：平日 10:00～17:00（土日祝及び年末年始休み）】

別紙

「親子教室」の代表者の方にご協力いただきたいこと

1. 調査の種類

- ① 親子教室に参加している子供にお願いする質問紙調査（「子供調査」）
- ② 親子教室に子供を参加させている保護者にお願いする質問紙調査（「保護者調査」）
- ③ 親子教室の指導者にお願いする質問紙調査（「指導者調査」）
- ④ 「放課後子供教室」と連携した取組における指導者にお願いする質問紙調査（「指導者調査＜放課後子供教室＞」）

2. 調査対象者の抽出

① 「子供調査」

親子教室に参加している子供の中から、小学校4年生から中学校3年生までの子供10名までを選んでください。

子供を選ぶときは、特定の学年や性別に集中しないようにしてください。

※参加している子供が、特定の学年や性別に偏っている場合は、その中から10名までを選んでください。

② 「保護者調査」

「子供調査」の対象となった子供の保護者（10名）にお願いしてください。

兄弟、姉妹が対象となる場合は、まとめて回答せず、子供1名に対して保護者1名の回答となるようお願いしてください。複数の子供に同じ保護者が回答することになっても構いません。

③ 「指導者調査」

親子教室の指導者の中から2名までを選んでください。

※指導者が1名の場合は、1名のみで結構です。

④ 「指導者調査＜放課後子供教室＞」

上記③と同様に、指導者の中から2名までを選んでください。

※指導者が1名の場合は、1名のみで結構です。

3. 調査の流れ（調査票の配布・回収・提出）

（１）調査対象の「親子教室」の代表者あてに調査を依頼します。

以下５点の資料をお送りします。

- ・「子供調査・調査票」 １０部
- ・「保護者調査・調査票」 １０部
- ・「指導者調査・調査票」 ２部
- ・「指導者調査＜放課後子供教室＞・調査票」 ２部
- ・返信用封筒 １部

（２）「親子教室」の代表者は、それぞれの調査票を配布し、記入をお願いしてください。

そして記入の終わった調査票を回収してください。

※複数の団体により構成された実行委員会の場合、実行委員会から各構成団体へ配布してください。

①「子供調査」

教室開催時などに、調査対象の子供に「子供調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

②「保護者調査」

「子供調査」の調査対象となった子供に、「保護者調査・調査票」を持たせて保護者に記入をお願いし、子供を通して調査票を回収してください。

③「指導者調査」

指導者に「指導者調査・調査票」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

④「指導者調査＜放課後子供教室＞」の記入をお願いし、調査票を回収してください。

（３）「親子教室」の代表者は、調査票回収後に、当事務局からの通知等に記されている「団体コード」を、すべての調査票に記入してください。

（４）「親子教室」の代表者は、回収した調査票を取りまとめて、同封の返信用封筒を用いて、令和３年１２月１０日（金）までに、返送してください。

**※ 「親子教室」、「放課後子供教室」の開催日程の都合により、
令和３年１２月１０日（金）を過ぎて返送となる場合は、事前に伝統文化親子教室事業 事務局までご連絡ください。**